分布　臺灣・印度・亞弗利加・爪哇。

(六)しろをびのめいが　Zinckenia fascialis Cram.（第十六圖版(2)）

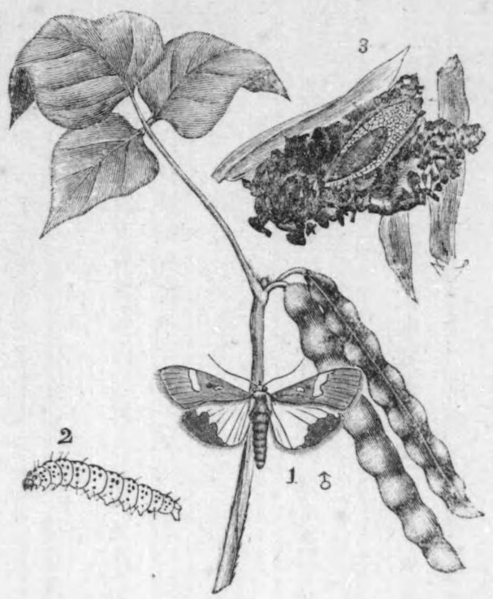
被害植物　恭菜・甘菜・莧・玉蜀黍等。

特徴　成蟲　體翅は暗褐色、頭及び腹部に白帶あり、前翅の中央に一白帶ありて、其中央の外側に犬牙狀の一突起を出す、此突起は後翅の白帶に連續し八字形をなす翅端に近き前緣に一白紋を具へ、其下方に二小白點あり、緣毛は暗灰色、基部は白色、尙ほ白色の二紋あり、體長三分二厘、開張七分內外。

幼蟲　淡綠色、頭及び硬皮板は淡褐色、後者は二個の黑點を具へ、背線は白色、亞背線及び氣門上線は判然せず、各節に疣狀突起を具へ、之より短毛を生ず、尙胸側に弦月形の黑紋を有するものあり、體長七分內外。

經過　臺灣にては年數回の發生をなすものならん、されど本邦にて二三回の發生をなすのみ、成蟲は葉裏の脈に接して一二粒づつ產卵し、之より孵化する幼蟲は葉緣を竪に捲き、其內にありて食害す、老熟すれば其內に結繭蛹化す、此は廣く東洋に分布せるものにして未だ北海道には之を見ざるも本州は勿論、沖繩・小笠原島・臺灣・支那・印度等にも普通なり、然れども本邦に於ては未だ大害あ

第百八十一圖　まめのめいが
(1) 成蟲　幼蟲 (2)　(3) 蛹



るを聞かず。

分布　北海道・本州・九州・沖繩・臺灣・支那・印度・濠洲・亞弗利加。

(七)まめのめいが（まめのさやむし）　Maruca testulalis Geyer.（第百八十一圖）

被害植物　小豆・菜豆。

特徴　成蟲　前翅は暗黑色、光線の工合にて紫色を現はす、前緣は暗褐色、中央に二個の白色透明紋を具へ、外方にあるものは大なり、後翅は白色、半透明、外緣は暗黑色なり、體長四分五厘、開張一寸。

幼蟲　體は淡黃色、頭は淡褐色、硬皮板は黑褐色、疣狀突起多く、之より一二本の短毛を生ず、體長一寸。

經過　蛹の儘越年するものと蛾の儘越年するものとあり、七月より九月に亘り

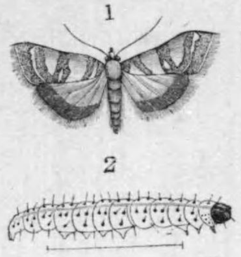
て小豆・菜豆の莢中に蠹入して大害を加ふ、之に侵されたる豆莢は褐色の蟲糞を出すを以て容易に其存在を認め得べし、老熟すれば地上に下り葉片を纏めて粗繭を造り其中に蛹化す、而して八九月頃に蛹化したるものは年内に蛾化すれども遲く蛹化したるものは其儘越年す、年一回若くは二回の蛾を生ず。

分布　北海道・本州・四國・九州・臺灣・朝鮮・支那・印度・亞弗利加。

驅除法　九・十月の候蛾の發生するを待ち網を以て捕ふべし、收穫後は豆圃の遺物を集めて燒き棄つるを可とす、又蟲糞を出せる豆莢を採りて其中の蟲を捕殺すべし。

(八)くはのめいが(くはのすかしはまき、くはのすきむし)　Glyphodes pyloalis Wlk.　(第百八十二圖)

第百八十二圖　くはのめいが
(1)成蟲　(2)幼蟲



被害植物　桑。

特徴　成蟲　前翅は白色、透明、紫色を帶び、前緣、後緣、翅底、翅の中央及び外緣は暗褐色、後者の內側に銅色の太き横線ありて相並行す、又中央にある太き横帶の下方に一個の眼狀紋あり、後翅の外緣は太く暗褐色、

體長三分五厘、開張八分。

幼蟲　體は淡綠色、頭及び硬皮板は褐色、後者の兩側及び後緣に各一個の黑褐色條を具へ、胸脚は褐色、黑色の疣狀突起ありて之より各一細毛を生ず、體長六分五厘乃至七分五厘。

經過　年四回の發生をなす、幼蟲の儘越年、翌春蛹化し次で蛾化す、第一回の蛹期は長くして二週間に亘る、卵子は葉裏に疎らに產下せられ、幼蟲は絲を以て葉を捲き其中にありて葉綠層を食ひ、唯表皮のみを殘留す、幼蟲期は二週間內外、老熟すれば捲葉中に白色の薄繭を作り其中に蛹化す、第二回の蛾は七月中旬、第三回は九月上旬、第四回の幼蟲は老熟後桑樹の空隙に入り薄繭を營みて越年す。

分布　本州・四國・九州・臺灣・支那・印度。

驅除法　蛾の發生する時期を見計ひ燈火を以て誘殺すべし、又桑樹を動搖して其飛翔するものを網にて捕獲し、又捲葉を採りて其中の幼蟲を捕殺すべし、亞砒酸鉛の溶液若くは札幌合劑を散布すべし。

(九)すかしのめいが　Glyphodes pryeri Butl.　(第百八十三圖)

第百八十三圖

すかしのめいが

被害植物 桑。

特徴 成蟲 體は灰白色、少しく藍色を呈し、翅底の楕圓形紋、其外側にある横帶(これは前緣にて翅底より出來る一線と相合す)中央の横紋(此の下に眼狀紋あり)、翅端に近き弓狀帶(彎曲して中央紋と相合す)及び翅端の太き横帶(內側に犬牙狀の突起を裝ふ)等は褐色、後翅は白色半透明、翅底に近く一個の長褐色紋あり、外緣(後緣)は廣く褐色を呈し、其中央に斷續せる白色帶あり、體長三分五厘、開張八分五厘。

幼蟲 前種に酷似すれども其異なる點は第一、第二及び第三節各四個の黑紋を裝ひ、以下各節には黑紋を有せざるにあり、體長七分內外。

經過 同前。

分布 北海道・本州・四國・九州。

(10) **まへぼしすかしのめいが** (Glyphodes nigropunctalis Brem.) (第十六圖版(30)(a))

被害植物 はしどい、らいらつく、ふくらもち、あをぎり。

特徴 翅は白色、光線の工合により少しく紅色を帶ぶ、前翅の前緣は黃褐色、中室の前緣に黑褐色の三點を縱列し、尙中室の外緣にも暗黑色の一點あり、第二室の中央に環狀の暗色紋を具へ、亞外緣線は暗色、外緣に七個の黑小點を列ぬ、後翅は半透明、中室の外緣には一暗色點あり、外緣に於ける暗色帶及び緣點は前翅と異ならず、何れも光澤ある白色の緣毛を裝ふ、體は白色、下唇鬚は灰褐色、前頭、前胸の兩側、尾端の一紋、前肢の腿節及び脛節(內側にて)は黃褐色なり、體長四分乃至五分、開張一寸乃至一寸三分。

幼蟲 綠色、兩端細まりて紡錘形を呈す、頭淡黃色、兩側に一黑點を具へ、淡き黃褐毛を粗生す、第二及び第三節の兩側にある疣狀突起の前後にある一點は黑色、疣狀突起は綠色にして之より一本の淡綠毛を生ず、體長六分乃至八分五厘。

經過 年二回の發生、第一回の蛾は六月、第二回は九・十月現はる、成蟲の有樣にて越年、幼蟲は數葉を捲き其中にありて食害す、木を動搖すれば絲を吐き地上に落下するの性あり、樺太にては八月、日光にては六月、四國にては九月捕獲せらるる所より見れば其の發生は一定せざるものの如し。

分布 北海道・本州・四國・九州・滿洲・印度。

附言 佐々木博士の記載によれば蛹の有樣にて越年し三四月に羽化すとあ

り、されば更に一層其經過の一定せざることを知るべし。

(二)つげのめいが Glyphodes perspectalis Wk. (第十六圖版(4)(a))

被害植物 つげ。

特徴 翅は白色、光線の工合により少しく紅紫色を帶ぶ、前翅の前緣及び外緣は廣くして暗褐色、中室の所にて幅廣く、中室の横脈上に弦月形の白紋あり、雄は後緣も亦暗褐色なり、後翅の外緣は廣くして暗褐色を呈し、内緣角に至るに從ひ其幅を減ず、頭は褐色、後頭は灰黄色、下唇鬚は白色、末端は褐色、觸角及び前胸背は暗褐色、腹部及び脚は白色にして灰色を帶び、腹面及び尾端節は灰色なり、體長四分五厘乃至六分、開張一寸三分乃至一寸四分。

幼蟲 體黄綠色、頭は黑色、背線は濃綠色、亞背線上には黑色の二疣狀突起あり、氣門上線及び腹面は淡綠色にして、兩側にも黑色の疣狀突起を具へ、何れも之より黑色の短毛を生ず、體長一寸一分。

經過 年發生の回數は判然せず、幼蟲は五月頃より現はれ、數葉を捲き其内にありて食害す、六月上旬より漸次老熟し巣中にありて蛹化す、八月中旬に至りて羽化す、其害の甚だしき時は樹木を枯死せしむること稀ならず。

分布 本州・四國・九州・朝鮮・支那・印度。

(三)わたくろへりのめいが Glyphodes indica Saund. (第百八十四圖)

第百八十四圖

わたくろへりのめいが

被害植物 棉・葵・槿・胡瓜。

特徴 成蟲 體は暗黑色、腹部は白色、第六及び第七節は暗色、尾節は黄色にして雄には刷毛樣の毛塊あり、翅は白色、半透明、前翅の前緣、外緣並に後翅の外緣は廣く暗黑色をなし、紫色を帶ぶ、脚は白色、體長四分、開張八分。

幼蟲 淡綠色、亞背線は白色、氣門線は細く判然せず、頭は淡色、口部及び單眼は黑色、疣狀突起は判然せず、毛少なし、老熟すれば七分乃至八分に達す。

經過 未だ判然せざれども蛾は葉裏に一個づゝ葉脈に沿ひて産下す、卵子は淡黄綠色、全面に龜甲樣の紋理あり、幼蟲は絲を吐きて葉を綴り、其中にありて葉を食し、成長するに隨ひ孔を穿ち嫩葉及び腋芽を食す、老熟すれば小量の絲を吐き其中に蛹化す、蛹は黑褐色にして頭光り、翅鞘は長く第六腹節に達す、長さ四分五厘、大害を加ふることあり。

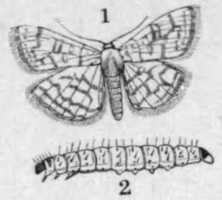
分布 本州・四國・九州・臺灣・支那・印度。

(三)わたのめいが(わたはまき) Sylepta derogata Wk. (第百八十五圖)

被害植物 棉葵・槿・芙蓉。

特徴 成蟲翅は淡黄白色にして、暗褐色の紋條多く、光線の工合によりて紫色を現はす、翅底に三個の黒點を具へ、半横線、前横線、環狀紋及び腎狀紋は判然す、腎狀紋の外側下方に心臟形の一大紋ありて、其上端より太き短線を前縁に走らし、下端よりは同樣の短線を後方に送る、後翅には四横線ありて何れも多少屈曲す、體長四分五厘乃至五分、開張九分五厘乃至一寸。

第百八十五圖
わたのめいが



幼蟲 體は黄綠色、頭及び硬皮板は褐色、後者の前半は白色を帶ぶ、暗色の背線を皮膚下に透視し得べし、褐色の疣狀突起ありて之より一二本の短毛を生ず、胸脚黒色、體長八分。

經過 年三回の發生、幼蟲にて越年す、翌春嫩葉の開綻と共に出で葉を捲きて食害す、五月中旬頃老熟し、捲葉中に蛹化し、五月下旬蛾化す、第二回の蛾は七月上旬、第三回は八月中旬に出づ。

分布 本州・四國・九州・朝鮮・臺灣・支那・印度・濠洲。

驅除法 蛾發生の時期を見計らひて棉圃に至り網を以て捕獲し、又燈火によりて誘殺し、捲葉中の幼蟲を捕殺すべし。

(四)はいまだらのめいが Hellula undalis F.

被害植物 大根・其他十字科植物(臺灣)

特徴 灰色、前翅の基部に近く三分の一の所に淡色の波狀帶を具へ、中室の外側に暗色環狀紋を裝ひ、其外側に稍弓形をなせる淡色の一帶あり、外縁線は淡色、之に七個の綠點を列ぬ、翅端は淡色、後翅は暗灰色、後縁に暗色帶あり、體長二分二厘乃至二分五厘、開張五分三厘内外。

幼蟲 體淡褐色・頭黒色、背面には褐色の五縱條を具へ、第一節には十二三の黄褐色點を裝ひ、之を約半月形に排置す、各節に黒色の六疣狀突起ありて、之より短毛を生ず、體長四五分。

經過 年數回の發生、成蟲は葉裏の葉脈に沿ひ一二粒宛産卵し、之より孵化せる幼蟲は心部に食ひ入り、初めは嫩葉を食すれども、次第に深く喰ひ込み、老熟すれば淺く土中に入りて薄繭を營み、其内にありて蛹化す、之れに侵されたる大根は腐敗し易く又萎縮するを以て害大なりと云ふべし、一世代を終るに約一

ヶ月を要す。

分布　臺灣・支那・印度。

(五)さつまいもののめいが　Omphisa anatomosalis Guen.

被害植物　甘藷(臺灣)。

特徴　翅灰白色、暗褐色なる網狀樣の斑紋を具ふ、但し翅底には暗色の大紋あり て網目狀をなさず、中室に二白紋あり、後翅には三條の暗褐色波狀帶ありて、翅底にあるもの太し、翅端及び後緣は暗褐色、裏面は淡色、前翅中央の一紋及び後緣の翅端紋は判然す、頭は褐色、前頭は黃白色、下唇鬚は褐色、下面は黃白色、體は灰白色なり、體長四分五厘、開張、九分乃至一寸二分。

幼蟲　淡黃色にして少しく紫色を帶ぶ、頭部は赤褐色、大腮は黑褐色、硬皮板は灰黃色、氣門は黑色を呈し、各節に八個の疣狀突起ありて灰褐色をなし、之より短毛を生じ、各節の兩側に氣門大の黑紋を裝ふ、胸脚は淡黃色、腹脚は灰色、體長一寸內外。

經過　年數回甚だ不規則なる發生をなし、何れの時期にも其成蟲を見得べし、幼蟲は葉柄及び葉脈より蝕入し、其下部に下り或は土中二三寸の深さにある根

塊に蝕入して大害を加ふ、老熟すれば其內に蛹化す、蛹は赤褐色、背部は濃色、常に薄き白繭を被る、體長五分內外、卵子は一粒づゝ葉下に產下せらるるものにして褐色なり、甘藷は之が爲め枯死することなしと雖も、大に其收量を減ず。

分布　臺灣・支那・印度。

(六)あづさのめいが　Omphisa plagialis Wilem.　(第十六圖段(6))

被害植物　梓

特徴　前種に酷似すれども其異なる所は左の如し。

前翅の中央に近く暗褐色の大紋あれども翅底に延長せず、翅底には暗褐色の二帶あり、外緣に暗褐色の二波狀帶ありて、外方にあるものは第四脈の處にて屈折す、後翅には三條の暗褐帶ありて翅底にあるもの太く、前後共に脈は暗色なるを以て網狀をなす、體長四分五厘乃至五分、開張一寸一分。

幼蟲　淡黃色にして背上赤味を帶ぶ、各節に數個の暗褐色疣狀突起ありて、之より一本の短毛を生ず、頭及び硬皮板は暗色なり、體長七八分。

經過　年發生の回數は不明、幼蟲は七月頃より現はれ、梓の幹枝に蠹入し、材質部を食害す、常に小孔を穿ち之より褐色の蟲糞を排出するを以て容易に其存在

を認め得べし、八月上旬老熟し同中、下旬に至りて羽化す、其數餘り多からず、隨て大害なし。

分布 本州・九州。

(七)こぶのめいが(たてはまき) Cnaphalocrocis medinalis Guen.

被害植物 稻、其他禾本科植物。

特徴 體翅黄色、前翅の前緣・外緣・翅を三分せる二帶及び中央點は暗褐色、雄は前翅の中央に瘤狀の毛塊を具へ、後翅の外緣・中央帶及び中室紋は暗褐色、下唇鬚、肩部及び尾端は黑褐色をなす、體長三分開張六分内外。

幼蟲 體は黄綠色、頭及び硬皮板は褐色、褐色の剛毛を粗生す、各節に六個淡黄色の突起ありて之より各一本の短毛を生ず、體長四分五厘内外。

經過 年二三回の發生、第一回の蛾は五月乃至七月上旬、第二回は七月、第三回は八九月、函館地方にありては年二回の發生、第一回は六月下旬、第二回は九月上旬、幼蟲にて越年す、幼蟲の加害最も甚だしき時期は八月下旬なり、卵子は普通四個づゝ二列に産下せられ、葉面にあり、淡黄色にして菊花狀の紋理あり、幼蟲は一葉の兩側緣を絲にて綴り筒狀となし、其内にありて食害し、常に表皮を殘

留す、老熟すれば紙樣の薄き繭を造り其内に蛹化す、普通根際にあり、蛹は褐色、尾端に多數の小刺あり、長さ二分五厘、稻の收穫後は雜草間に棲息す、臺灣にては年六七回の發生をなす、何れの地方にも普通なり。

分布 北海道・本州・四國・九州・臺灣・支那・印度。

(八)ごまだらのめいが Dichocrocis punctiferalis Guen. (第百八十六圖)

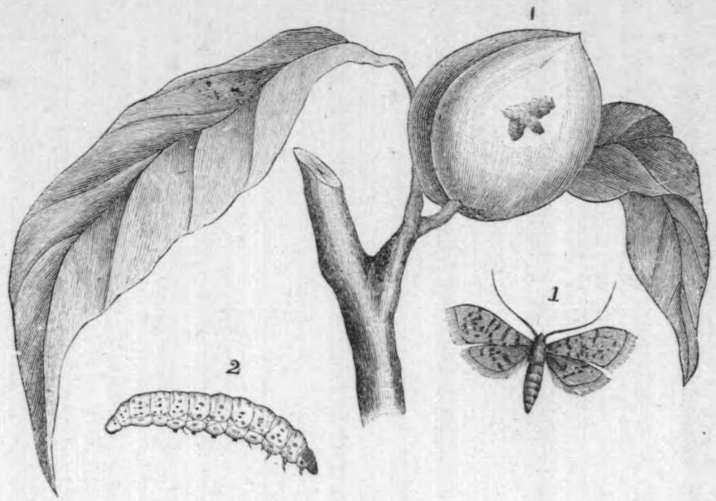
被害植物 桃・栗・柑橘。

特徴 成蟲 體翅は黄色、前翅に二十五六個、後翅に十五個、胸部に五六個、腹部に十四五個の黑褐紋を散在す、體長四分、開張九分五厘。

幼蟲 初めは白色、頭及び硬皮板は黑色、成長するに從ひ赤黄色となり、頭及び硬皮板は褐色となる、淡褐色の疣狀紋を具へ、之より一二の短毛を生ず、體長七分。

經過 年二回の發生、第一回は六月、第二回は八月、幼蟲の儘木の破れ目若しくは地中に越年し、翌春蛹化し次で蛾化す、蛾は桃果に約七八個の卵子を産下す、卵は赤色なり、被害の桃果は常に褐色の蟲糞を出すを以て容易に其存在を認め得べし、其害の甚しきときは全果侵害せらるることあり。

第百八十六圖　ごまだらのめいが



1. 成蟲
2. 幼蟲

分布　本州・四國・九州・朝鮮・支那・印度・濠洲。

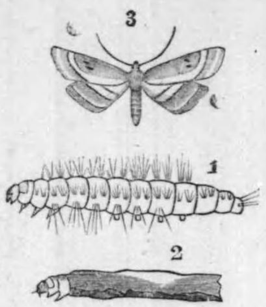
驅除法　六月及び八月の二期、蛾の發生を見計らひ網にて捕へ、同時に燈火誘殺法を行ふべし、又既に卵子を產下せる虞あらば亞砒酸鉛の溶液を灌注すべし、蟲糞を出したるものは盡く摘棄し、健全なるものには紙袋を蔽ひて其侵入を防ぐべし。

みづめいが亞科 Hydrocampinae

(九)いねこみづめいが(ねくひつとむし) Nymphula vittalis Brem.

(第百八十七圖)

第百八十七圖　いねこみづめいが



被害植物　稻。

特徵　成蟲　體白色、中央に二黑點を裝ひ、其外側に弓狀をなせる黃色と銀色との横帶各二條を具へ、翅底及び中央には小黑點を散在す、後翅底は白色、中央に二條の黑横線を具へ、後緣の半部は黃色、其中央に銀色帶を裝ひ、外側に細き黑色の波狀線あり、體長二分、開張五分五厘。

幼蟲　體は淡灰色、頭部には淡褐及び濃褐色の小點を密布し、硬皮板は半月形にして之に濃褐色の點紋を散在す、脚は褐色、胸脚に長爪あり、第二節より第十二節に至るの間透明の刺毛あり、是れ一種の氣管支にして水中にある酸素を呼吸するに用ふ、常に一寸前後の麥穗若くは草莖を巢となし、其内に生存す、體長七分。

經過　稻田に棲息し、巢中にありて頭部及び次の數節を出だし、巢を荷ひながら水底の泥土を匐ひ廻り、或は水面に浮び出て、又は稻根に集りて其軟かき鬚根若くは水中にある白色の部分を食害す、然れども大害をなさゞるものの如し。

分布　本州・四國・九州・朝鮮・支那・滿洲。

驅除法　水田の水を去り石油乳劑に二十倍の水を混じて灌注し又細砂を石油に浸漬し落水後散布すべし、幼蟲を捕殺し、蛾の發生を見計ひ網を以て捕ふべし。

(10) いねみづめいが　Nymphula fluctuosalis Zell.　(第十六圖版(6))

被害植物　稻。

特徴　頭及び胸は白色、暗色斑を散在す、腹部は白色、黄帶ありて其兩側は黑線にて縁取らる、前翅白色、前縁は黄褐色を呈し、暗色毛を散在す、外縁に三條の暗色帶を具へ、中央には同色の長き二斜帶あり、後翅には六條の暗色帶ありて、其内翅底の二條は短かく、觸角は白色と灰黄色との斑をなす、體長二分五厘、開張六分二厘。

幼蟲　體は白色、頭は淡黄色、兩側に各五個の單眼ありて弦月形に排置せられ、各節に白色絲狀の呼吸鰓ありて、二條は氣門上、二條は氣門下にあり、長さ六分。

經過　此害蟲の經過は明ならざれども惟ふに前種と同樣有害のものなるべし。

分布　沖繩・臺灣・支那・印度・濠洲。

(11) しろみづめいが　Nymphula depunctalis Guen.

被害植物　稻。

特徴　體翅白色、觸角の上面は白色、下面は淡黄色、前翅の中室に二個の黑點を具へ、翅底の一點及び中室の基部にある一帶、同末端にある一帶、外横線並に外縁に近き波狀線は黄褐色、後翅の中室にも一黑紋を具へ、二條の黄褐色帶を裝ひ、外縁にある波狀線は前翅のものに異ならず、體長二分、開張四分四厘乃至八分五厘。

幼蟲　淡黄色にして綠色を帶ぶ、頭及び硬皮板は黄色、暗褐色の小點を散布し、各節の背面及び側面に四個の四枝に分れたる肉毛を具へ、胸部にあるものは少しく褐色を呈し、氣門は褐色、楕圓形なり、體長五分乃至七分。

經過　年二回の發生、第一回は六、七月、第二回は十月乃至十二月、幼蟲は常に稻葉を捲きて巣となし其内に住す、常に之より頭及び胸脚を出して食害す、水中にありては胸部を出し其左右運動によりて前進す、物に驚くときは直ちに頭胸を收縮して敵害を免る、成長する毎に巣を見捨てゝ新巣を造るものゝ如し、老熟すれば水面に近く稻莖に密に巣を附着せしめ其内に蛹化す、蛹は黄褐色、前

頭に褐色の二絲狀突起を出す、翅鞘は第六腹節に達し、觸角鞘は翅鞘よりも稍〻長し、長さ二分五厘、臺灣にては其害少なからず、其害を受けたる葉は網目樣の纖維を殘留するを以て容易に其存在を認め得べし、

分布 臺灣・支那・印度。

(三)いねのはかじ Bradinomorpha nawae Mats. (第百八十八圖)

被害植物 稻。

第百八十八圖
いねのはかじ(廓大)

特徵 成蟲 前翅は黃白色、光線の工合によりて少しく紫色を現はす、紋條は黑褐色なり、前翅は稍〻三角形にして翅底に短かき縱線を走らし、其外側に細き橫紋ありて中央にて鋭角をなして屈折す、翅の中央には一個の楕圓紋ありて其下方より判然せざる橫線を出す、外緣に近く細き橫線を具へ、波狀線は暗色、之より外緣に至る迄及び前緣は灰黃色、外緣線は黑褐色、後翅は小、三條の橫紋ありて、翅底に近き線上に圓紋あり、體は細長、觸角は鞭狀、眼は紫色にして大、下唇鬚は上方に彎曲し、口吻發達す、脚は細長く、前肢の基節長し、體長二分、翅の開張五分五厘。

分布 本州・四國・九州・印度。

附言 此害蟲は名和昆蟲研究所より稻の『はかじ』として分與せられたるものなるが、前述『こぶのめいが』と混同せられたるものにして其幼蟲及び經過の異なる點に就ては未だ判然せず、記して後日の研究調査を待つ。

しまめいが亞科 Pyralinae.

(三)ふたすぢしまめいが Herculia glaucinalis L. (第八十九圖)

被害植物 敷物・種子・脂肪・乾酪・菓子、其他動物性の標本。

特徵 成蟲 體翅は淡灰褐色、前翅の前緣は赤褐色、中央に黃紋を列す、二個の白橫帶ありて翅を三等分す、後翅は前翅より少しく淡色、灰色の二橫帶あり、體長三分、開張七分。

幼蟲 灰白色、頭は赤褐色、硬皮板は淡色、粗き二長毛あり、次の種類と約同樣なり。

第百八十九圖
ふたすぢしまめいが(廓大)

分布 本州・九州・支那・朝鮮・歐洲。

驅除法 穀粉・種子等を害する場合には二硫化炭素を用ふべし、

之を豫防するには清潔なる場所に置き、食物以外のものには那不多林若くは樟腦を入れ置くべし。

(四)**くわしのしまめいが** Pyralis farinalis L.

被害物 同前。

特徴 成蟲 黄褐色、前翅底及び翅端は赤褐色、中央は黄褐色にして少しく青みを帶び、其兩側は灰白色の横條にて界せらる、但し外側にあるものは中央にて甚だしく彎曲す、後翅灰色、二條の白色帶を具へ、後緣に大なる褐色紋を列す、體長二分五厘、開張八分。

幼蟲 體は白色、兩端少しく暗色を帶ぶ、頭は赤褐色、短毛を粗生す、體長五分。

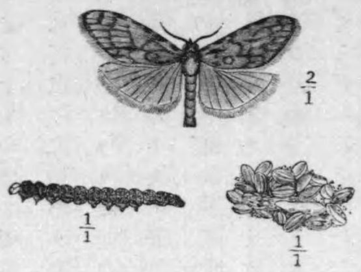
經過 年四回の發生なるも、時に五回以上に達することあり、幼蟲は絹絲にて食物片を綴り長き管狀の巢を作り其内にありて食害す、老熟すれば巢を離れて一種の繭を營み其内に蛹化す蛾の發生期は不定、食物の如何により遲速あり。

分布 世界共有。

驅除法 同前。

(五)**こめのしまめいが**(こめのくろむし) Aglossa dimidiata Haw. (第百九十圖)

第百九十圖
こめのしまめいが



1. 成蟲 2. 幼蟲 3. 被害狀況

被害物 同前。

特徴 成蟲 前翅は黄褐色、前緣には黄色の小紋を列ね、中央には判然せざる濃色紋を具へ、尙外緣に近く犬牙狀をなせる濃色の波狀線あり、後翅には灰黄暗色の太き二帶あり、體長三分乃至四分五厘、開張八分五厘乃至一寸。

幼蟲 體は黑褐色、頭赤褐色、硬皮板は黄褐色、初めの三四節に黄紋ありて、之より一二本の黄毛を出ず、各節に横皺多く、長毛を粗生す、體長七分五厘。

經過 年二回の發生をなし幼蟲にて越年す、翌春蛹化し次で蛾化す、蛾は穀粒其他の食物に産卵し、之より孵化したる幼蟲は『こくが』に同じく二三十の穀粒を絹絲にて綴り、充分成長すれば薄き灰色の繭を造り其内に蛹化す、第二回の蛾は八、九、十月に亘りて出づ。

分布 世界共有。

驅除法 二硫化炭素を被害物の上に灌注し、後毛布を以て之を蔽ひ置くべし、又

害蟲は穀粒を纏め其中にあるを以て櫛にて選び分くべし、蛾の發生する時期を見計ひて燈火誘殺法を行ふ、尙硫黄を以て燻殺するも可なり。

(三六)**おほくしひげしまめいか** *Sacada fasciata* Butl. 第十六圖版(10)(a)

被害植物 枹、櫸。

特徴 成蟲 體翅淡褐色、前翅に灰黄色の二帶ありて翅を三等分し、第一帶の外側及び第二帶の內側に細き褐色の一帶あり、尙第二帶の外側全部は褐色、濃色の小點を散在す、後翅は暗灰色、外緣の三分の一は淡褐色、緣毛は前後共に絹樣の光澤を放つ、雄は觸角羽狀を呈し、前翅の基部に刷毛樣の灰色毛を簇生し、中室に褐色の二點あり、體長四分乃至四分五厘、開張一寸乃至一寸二分。

幼蟲 體は暗色、綾樣の縱條多し、亞背線及び氣門線は黄色、頭及び硬皮板は黑色、硬皮板の中央に黄色の細縱線あり、腹面の中央にも黄色の一線を縱走し、黑色の疣狀突起ありて之より一灰色毛を生ず、體長一寸內外。

經過 年一回の發生をなす、幼蟲にて越年、翌春葉を捲き其內にありて食害す、老熟すれば數葉を綴り其內にありて蛹化す、七月下旬乃至八月下旬羽化す、其害大ならず。

分布 北海道、本州、九州、支那。

(三七)**くしひげしまめいが** *Sacada approximans* Leech. (第十六圖版(11))

被害植物 櫻。

特徴 成蟲 體翅淡褐色、前翅の中央に二條の黄色斜帶ありて前緣にて翅を三等分し、外側にあるものは斜走して後緣の中央に至り、內側にあるものは弓狀をなして內方に曲る、外線の外側及び內線の內側は淡色、翅底は淡色、中室の末端にある二點は黑色、翅底に近く赤褐色の一大紋あり、緣毛には黑毛を混ず、後翅は暗色、外緣は少しく褐色を帶び、緣毛は灰色、裏面にては翅底の三分二は暗色、外緣の三分の一は黄褐色、脚は淡褐色、後脛節及び脛節の末端に刷毛樣の褐毛あり、體長三分乃至五分、開張八分乃至一寸三分五厘。

幼蟲 體は暗色、頭、第一節及第二節の硬皮板は黑色、前種同樣に綾樣の縱條多し、背線は黄綠色、其中央に橙黄色の細線を縱走す、體長八分。

經過 幼蟲は六月上旬より現はれ、數葉を纏めて巢となし其內にありて食害す、若し巢又は蟲體に觸るゝ時は直ちに絲を吐きて枝幹より垂下するの性あり、七月上旬より老熟し、捲葉內に蛹化す、蛹は赤褐色、圓筒形に近く、長さ四分餘あ

り、七月下旬乃至八月上旬に亘りて蛾化す、卵子は白色、樹枝に群付せらる。

分布 北海道・本州・滿洲。

まだらめいが亞科 Phycitinae

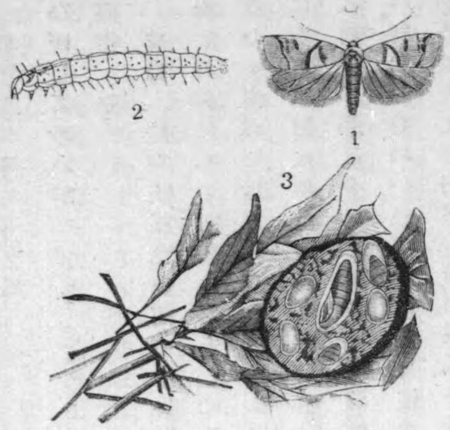
(二八)なしはまきまだらめいが Militeue bifidella Leech. (第百九十一圖)

被害植物 梨。

特徴 前翅黑褐色、少しく灰色を混じ、翅底に近く後緣に接して赤褐色の大紋あり、中央には濃色の長紋あり、波狀線は灰白色、體長三分、開張七分。

幼蟲 體は赤褐色若くは暗褐色、少しく紫色を帶ぶ、頭の中央に黃色の縱條ありて割合に長き黃褐色毛を裝ふ、胸脚黑褐色、體長七分。

第百九十一圖
なしはまきまだらめいが(廓大)



1. 成蟲　2. 幼蟲　3. 繭中の幼

經過 年一回の發生をなす、幼蟲の儘枝上に枯葉を附着し其内に越年す、翌春新芽に盞入し、芽の開綻と共に葉を捲きて食害す、稍〻成長するに至れば數匹相混じ、絲を以て枯葉を纏め堅牢なる巣を造り各自出入孔を有し之より頭を出だして食害す、老熟すれば巣内に灰白色の絹絲を吐き、薄繭を作りて其中に蛹化す、蛹は赤褐色、七月上旬蛾化す。

分布 北海道・本州。

驅除法 冬季枝上に一枚の葉を附着せるものは幼蟲の越年するものなるを以て除却し、又枯葉を纏めたるものは其巣なれば之を採りて潰殺すべし、七月上旬燈火を以て蛾を誘殺すべし。

(二九)なしもんくろまだらめいが Rhodophaea mormorea Hew.

被害植物 華樹、梨、さんざし、りんぼく。

特徴 前翅灰白色、黑褐色の小點を密布す、翅端に黑紋を列ね、翅底の下半は赤褐色、其外側に黑横線あり、上半は灰白色、暗色の小點を散在す、後緣の中央に近く赤褐色の三角紋ありて其外側は白色、前緣の中央に近く三角形の大黑紋あり、中室に近く短かき黑横紋を具へ、波狀線は判然し、其外側は灰白色なり、前種に

酷似すれども翅廣く形少しく小なり、體長二分五厘、開張六分。

幼蟲　前種に酷似す、其異なる所は形細く、第三及び第十二節に肉色紋ありて其中央に一黒點を裝ふ、氣門も亦肉色を呈す。

經過　年一回の發生をなす、前種と異なり個々葉を捲きて食害するのの如し、七月上旬蛹化し、七月中旬乃至下旬蛾化す。

分布　北海道・本州・歐洲。

驅除法　同前。

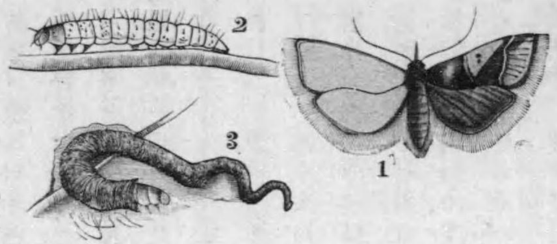
(三〇)つゝまだらめいが　Acrolepis indigenella Zell.　(第百九十二圖)

被害植物　苹樹・梨・櫻・李・桃。

特徴　成蟲　前翅灰黒色、中央に三角形の大灰色紋ありて其二邊は黒色、翅底に近き一邊の内側は白色、三角紋の中央に更に二個の黒點あり、波狀線は白色、其内側は黒く、外緣に多數の小黒點を列ね、緣毛には白色を混ず、翅底は灰白色、體長三分、開張七分五厘。

幼蟲　體暗褐色若くは暗灰色、頭黒色、硬皮板黒褐色、其兩側に黒褐色紋あり、各節十二個内外の小黒疣を散在し、第二節の兩側にあるもの大なり、各一本の短

第百九十二圖　つゝまだらめいが（廓大）



1. 成蟲　2. 幼蟲　3. 幼蟲の筒

毛を生ず、胸脚は黒色、常に蛇樣の巣中にあり、體長七分。

經過　年一回の發生をなす、幼蟲の儘越年す、翌春綿樣の絹絲を以て稚葉片を纏めて管狀の巣を造り其中に住し、又暗色の物質にて蛇形樣の管巣を造り之を小枝に固着し晝間は其中に潛伏し、夜間出でゝ食害す、六月下旬乃至七月上旬老熟し、巣中に蛹化す、蛹は赤褐色、尾端は黒褐色、蛹期は二週間、蛾は七月中旬乃至下旬出でゝ葉下に一個宛産卵す。

分布　北海道・本州。

驅除法　蛇樣の巣を捕ふべし、蛾化したる時は燈火を以て誘殺すべし。

(三)まつまだらめいが　Dioryctria abietella Schiff.　(第十六圖版(12)(a)(b))

被害植物　松・唐檜。

特徴　成蟲　前翅は暗灰色、三分の一の處に灰白色の一帶を具へ、中脈にて遮斷

せられ二紋を有するが如し、中央に一灰白色紋ありて中室の外側に位す、外緣に近く一灰白色帶ありて、中央より下は波狀をなし、外緣に暗色の七紋を横列す、後翅は灰色、翅底は稍〻半透明、體長四分、開張八分乃至一寸。

幼蟲　體は汚赤色若くは綠色、頭及び二個に分離せる硬皮板は褐色、背線は細く、亞背線は太くして何れも暗色を呈し、各節に黑色の疣狀突起ありて之より一短毛を生ず、體長一寸。

經過　年一回の發生、地中にありて幼蟲の儘越年し、翌春蛹化し次で蛾化す、成蟲は六月下旬乃至七月上旬に現はれ、卵子を一個づゝ又は小塊狀をなして新芽若しくは新毬に產卵す、幼蟲は毬果內或はあなゝす(あぶらむしの僞毬)の內部に蠹入し、新芽又は側芽に穿孔することあり、毬果には數匹の幼蟲寄生して其鱗片を食す、穿孔は蟲糞樹脂にて充され其一部は開口より排出せらる、十月頃老熟したる幼蟲は土中に下り薄き繭を造りて越年す。

分布　本州滿洲印度歐洲。

(三)ぶらいやまだらめいが(まつのこまだらめいが)　Dioryctria pryeri Rag.　第十七圖版(3)

被害植物　松、椹。

特徵　前翅は灰褐色、三分の一の處に黃褐色の一大紋ありて其外側に白帶及び黑帶を具へ、內側には判然せざる暗色帶及び白紋あり、中室の外側に一白紋を具へ、外緣に近く一白帶ありて中央にて外方に突出す、外緣及び翅底は光線の工合により褐色を帶ぶ、後翅は淡褐色、緣線は細く暗色、體長三分五厘、開張八分。

幼蟲　體は帶褐白色、頭及び硬皮板は赤褐色、背線は灰褐色、各節に數個褐色の疣狀突起ありて之より一本の黑毛を生ず、體長七八分。

經過　年一回の發生、幼蟲は六七月の頃より現はれ、松の新芽內に蠹入し次で莖軸內に入りて食害す、其害に罹りたる松は常に蟲糞の排出あるを以て其存在を認め得べし、新芽は之が爲めに褐色に變じ、枯死するに至る、八月上旬に至り莖軸內に蟲糞、木屑等を纏めて繭を造り其內にて越年し翌春に至りて蛹化す、蛹は暗褐色、尾端に一個の短刺を具ふ、體長四分五厘、蛾は新芽に產卵す、莖軸は枯死するを以て往々被害部下に存する針葉間より多くの小枝を發生し藪狀を呈するに至る、毬果の害は大ならず。

分布　北海道、本州。

(三)みかどまだらめいが　Laodamia mikadella Rag.　(第十六圖版(14)(a))

被害植物　女貞。

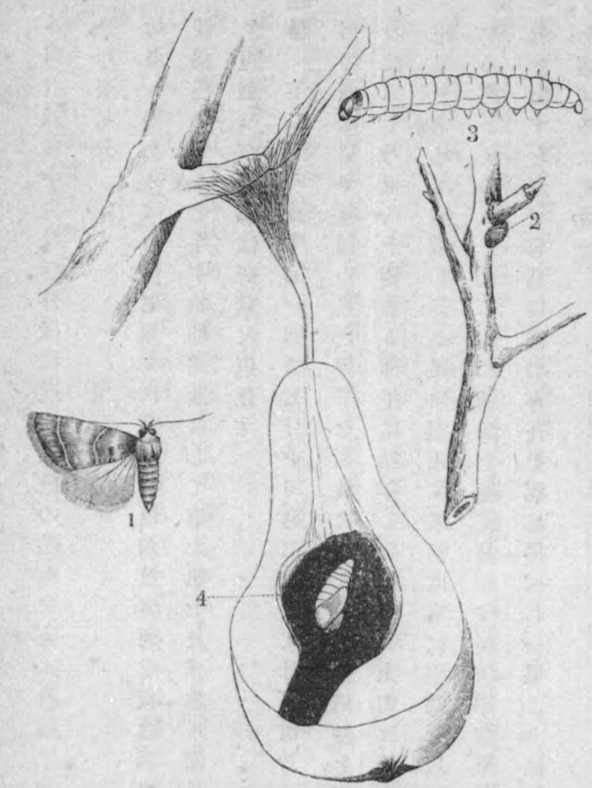
特徴　前翅は灰白色、中室の基部及び外縁に暗色の各一紋の具へ、其内基部にあるものは大、外側にあるものは稍〻二紋となる、外縁の三分の一は暗色、中央に波狀をなせる灰白色の一帶を具へ、外縁は淡色、外縁には數個暗色の斑點を横列し、緑毛は長くして灰色、光線の工合によりて少しく紅紫色を現はす、後翅は暗灰色、下唇鬚は暗褐色、體は灰色、體長三分乃至四分、開張七分乃至一寸。

幼蟲　灰褐色にして少しく緑色を帶ぶ、頭及び尾節は黑色、硬皮板は二個に分れて灰褐色、第二節の背上に黑色の二紋を具へ、各節の兩側に灰白色紋を裝ふ、背線及び氣内下線は淡黄色にして紫色を帶ぶ、各節に數個の疣狀突起ありて之より短毛を生ず、體長九分五厘乃至一寸。

經過　幼蟲は五月上旬乃至中旬より現はれ、嫩枝、軟葉を集めて巣を造り、群棲し其中にありて葉を食害す、六月上旬より老熟し巣中に蛹化す、蛹は淡き灰緑色、翅鞘は濃緑色なり、體長三分六厘乃至四分五厘、蛾は六月下旬より八月上旬に亘りて現はる、日光地方に多し。

分布　本州。

第百九十三圖　なしまだらめいが（廓大）



1. 成蟲　2. 卵子　3. 幼蟲　4. 蛹狀の果中にあるもの

(三)なしまだらめいが　Nephopteryx privorella Mats.（第百九十三圖）

被害植物　梨果。

特徴　成蟲　前翅灰褐色乃至灰黑色、二個の細き黑横線ありて稍〻翅を三等分す、外線に近き黑線は其外側に、翅底に近き黑線は其内側に各一條の灰色線を有す、尙此の二線の中間に一個の短黑線を具へ、之より往々細線の内側に達することあり、此の

外尙內緣の中央及び外緣に近く黑色の點線を裝ふ、體長三分乃至四分、開張七分乃至九分。

幼蟲　體初めは白色、老熟すれば暗褐色、頭及び硬皮板は黑褐色、體の處々より淡褐色の短毛を生ず、體紡錘狀にして第六、第七及び第八節最も太く、胸脚黑褐色、腹脚及び尾脚は疣狀に退化す。

經過　年二回の發生、第一回は七月中旬、第二回は九月下旬乃至十月に跨る、第二回の蛾は扁平楕圓の黑色卵子を樹枝に產し、白色の絹絲を以て之を被包す、其の數二十乃至八十個あり、卵子は越年し、翌春六月上旬に至りて孵化す、幼蟲は稚果を索めて離散し各一果に蠹入す、果柄は常に絹絲を以て經絡せらるゝが、ため落下することなし、約二週間を經て蛹化す、被害の梨果は常に黑褐色の蟲糞を出すを以て容易に其の存在を認め得べし、一果より他果に移り、時に數顆を害することあり。

分布　北海道、本州、四國、九州、朝鮮。

驅除法　冬期若くは早春樹枝下にある卵塊を採集すべし、注意すれば容易に發見することを得べし、蟲糞を出だせる果實は摘棄し健全なるものには紙袋を被ひ置くべし、梨果の櫻桃大となりたる頃亞砒酸鉛の溶液を灌注すべし、又孵化したる幼蟲の果實を索めて離散する時期を見計ひ石油乳劑の二十倍液を灌注すべし。

(三五) **すぢまだらめいが**　Ephestia cautella Wlk.

被害植物　穀粉、落花生、其他乾燥果實。

特徵　前翅灰褐色、判然せざる暗色の斜條あり、外緣は暗色、前緣は灰白色、中央に近く暗色點あり、開張六分內外。

幼蟲　黃色若くは赤褐色、長毛を具ふ、頭は褐色、老熟すれば長さ五六分に達す。

本邦に產すれども其數多からず、臺灣には普通なり。

(三六) **まめまだらめいが**　Ephestia glycinivorella Mats.

被害植物　大豆。

特徵　前翅は灰褐色、少しく紫色を呈す、翅底の約半部は灰黃色、其外側は暗色帶にて限られ、中室は暗色、其外側に赤黃色の小紋あり、後翅は灰白色、開張六分五厘內外。

幼蟲　未だ判然せず。

經過 未だ判然せざれども、幼蟲は貯藏せる大豆内に蠹入し食害す、之に罹りたる大豆は絹絲にて蟲糞を綴りたるものを排出するを以て其存在を認め得べし、老熟すれば薄き白繭を營み其内に蛹化す、蛹は黄褐色、翅鞘は第四腹節の末端に達し、尾端に二本の長鈎を裝ふ、長さ二分七厘。

分布 本州(東京)。

(三)**しろいちもんじまだらめいが** Etiella zinckenella Treit.

被害植物 豌豆其の他荳科植物の莢。

特徴 暗色、前緣に白色の一縱條を具ふ、翅底に近く黄褐色の一横紋あり、開張七分内外。

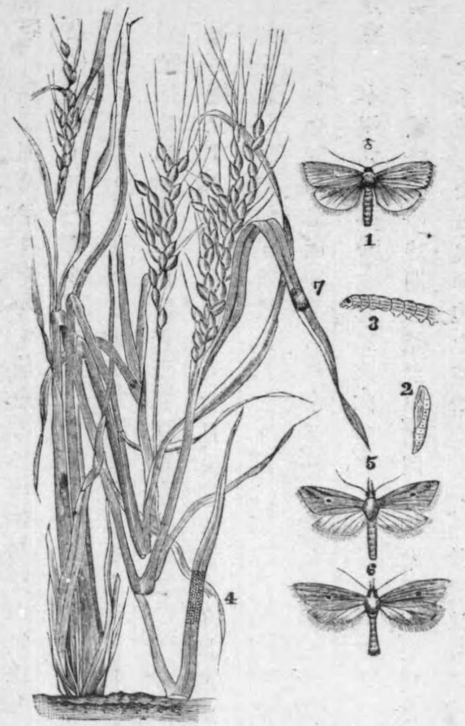
幼蟲 緣色、背線は赤褐色、老熟すれば六七分に達す、大害なし。

分布 本州・歐洲。

おほめいが亞科 Schoenobiinae.

(三八)**いつてんおほめいが**(三化螟蟲) Schoenobius incertellus Ik. (第百九十四圖(5)(6)(7))

第百九十四圖



1. めいが(雄)
2. 同 蛹
3. 同雌蟲
4. 同卵塊
5. いつてんおめいが(雄)
6. 同 雄
7. 同卵塊

被害植物 稻・甘蔗・蘆粟。

特徴 成蟲 體翅淡黄白色、前翅三分の一の處に黑褐色の一點を裝ひ、外緣は三角形をなして突出す、雄は暗褐色の小點を散在し、外緣角に近き前緣より褐色の一斜條を後方に送る、體長二分乃至三分五厘、開張七分乃至八分二厘。

幼蟲 體は灰黄色、少しく青色を帶び、背線・亞背線及び氣門線は判然せず、頭は灰褐色、兩側に二條の白色縱線を走らす、硬皮板は二双の黄紋となり淡褐色、體長七分乃至八分。

經過 年三回の發生をなす、幼蟲にて越年し、翌春蛹化し、次で蛾化す、蛹は二化螟蟲に酷似すれども少しく厚き白繭を被る、蛹期は二週間内外、葉の表面に產卵す、卵は灰黃色、卵塊の形狀は穹狀に隆起せる長楕圓形にして、母蟲の體毛を以て被はる、卵期は一週間乃至二週間、幼蟲は二十日前後にて四回の脫皮を終へ次で蛹化す、第二回の蛾は六七月、第三回は八九月、第一回の蛾は成るべく長大なる葉上に產卵する性あれども第二回殊に第三回に至りては成るべく嫩軟なる葉を撰みて產卵する性あり、一卵塊は普通三十前後の卵より成る。

分布 本州・九州・臺灣・支那・馬來・印度。

驅除法 蛾發生の時期を見計ひ、晝間は網を用ひ、夜間は燈火を以て捕ふべく、本田に移殖したる後卵塊を搜索すべし、白枯稻は成るべく注意して拔き取り、其の中に蟄居せる幼蟲を殺すべし、幼蟲は冬期間切株内に棲息するを以て株を堀り起して深く土中に埋沒するか若くは隔離して蛾の發生を防ぐべく、且切株を截斷して其の内に蟄伏せるものを殺すべし。

(三九) ひとすぢおほめいが *Schoenobius lineatus Butl.*

被害植物 稻。

特徵 成蟲 前種に酷似すれども其の異なる所は雌の前翅端より後緣の中央に黃褐色の一條を斜走し、中央の黑褐色斑點は大にして長楕圓形なり、外緣は七個の黃褐色小點を列ね、後翅は全體白色、雄は褐色點を密布し、中央點は小にして圓く、斜條は太く翅端にて判然す、外緣の褐色點は判然せず、體長三分乃至三分五厘、開張七分三厘乃至八分五厘。

前種に混じて加害すれども其數多からず、幼蟲及び經過の差異は未だ判然せず。

分布 本州・九州。

(四〇) もんきおほめいが *Cirrhochrista brizoalis Wk.*

被害植物 無花果

特徵 體は白色、前翅の前緣、前緣を三等分せる橫紋、外緣毛及び中央に近き環狀紋は黃褐色、外緣の弓狀帶は褐色、緣毛は黃褐色、開張六分五厘內外。

幼蟲 暗黃色、頭は黃褐色、各節に暗色の疣狀突起を具ひ、之より一本の短毛を生じ、老熟すれば三四分に達す。

經過 年二回の發生、幼蟲は繭中にありて越年し、翌春蛹化し、次で蛾化す、第一回

の蛾は四五月、第二回は十月頃現はる、此害に罹りたる果實は褐色の蟲糞を出し居るを以て容易に其存在を認め得べし。

つとが亞科 Crambinae

(四)めいが(めいちう、二化螟蟲) Chilo simplex Butl. (第百九十四圖(1)(2)(3)(4))

被害植物 稻、甘蔗、蘆粟稗。

特徴 成蟲 前翅は略〻長方形にして灰褐色の細鱗を散在す、外緣には縱皺多く、雄は六個、雌は七個の黑褐色紋を横列す、下唇鬚は甚だしく延長して長さ頭に五倍す、體長三分五厘乃至五分、開張八分乃至九分。

幼蟲 體は黃白若くは灰黃色、背線、亞背線及び氣門線は淡褐色、此の中背線最も細く、氣門線は甚だ判然せず、氣門は黑色、中央は白色、頭は黃褐色、硬皮板は淡褐色、各節に八個乃至十個の褐色小疣起あり、體長八分乃至九分。

經過 年二回の發生をなす、幼蟲にて越年し、翌春蛹化し次で蛾化す、極薄の白繭を被る、蛹期は十一二日、葉の表面に產卵す、卵塊內の卵數は普通七八十個、一雌の總卵數四五百に達す、卵子は扁平楕圓形、鱗形に重疊せられ、初めは淡黃色なれども次第に黃褐色となり、孵化前は殆んど黑色に變ず、卵期は二週間內外、孵化すれば葉腋より蝕入して莖內に入り、髓部を食害す、爲に養液の上昇を斷ち所謂白枯稻を生ず、此の幼蟲下降して水邊の莖部を食す、幼蟲期は大凡五十日內外、老熟すれば莖中に蛹化す、第二回の蛾は九月に涉りて出で、其卵子より成長せる幼蟲には深く切株に入りて越年するものと、稻莖にのこりて傳播せらるるものとあり、何れも翌春蛹化し次で蛾化すること前述の如し、尤も冬期は切株內にあれとも翌春之を辭し草木の根邊其他落葉下に蛹化するものあり、蛾は燈火に飛來する例あれども糖液には來らざるものの如し、其飛翔力餘り强からず、晝間は稻葉若くは雜草間に棲止し、夜間飛行す。

分布 北海道、本州、四國、九州、沖繩、朝鮮、臺灣、支那、馬來、印度。

(四)うすぐろめいが Chilo infuscatellus Snell.

被害植物 甘蔗。

特徴 淡黃褐色、前翅は少しく暗色を帶び、中室の外緣及び其下方に暗色點を具へ、外緣には七個の黑點を裝ふ、後翅は灰白色、開張九分內外。

幼蟲 淡黃色、圓錐形、頭は黃褐色、硬皮板は淡黃褐色にして中央にて分離せず、

各節に灰色の疣狀端起ありて其中央に一黑點を具へ、之より一本の短毛を生ず、背線、亞背線及び氣門線は淡紅色、老熟すれば五分乃至七分內外に達す。

經過 臺灣にては年數回の發生、幼蟲にて莖中に越年、第一回の蛾は一月下旬乃至二月中旬、第二回は三四月、第三回は五六月、第四回は七八月、第五回は九、十、十一月に亘りて現はる、卵は環狀に產下せられ、一雌の總產數二百五十內外、三列乃至五列に排置せらる、卵塊は灰黃色、少しく綠色を呈す、卵期は八月內外、幼蟲期は五週乃至七週間、蛹期は八日內外、時に大害を加ふることあり。

分布 臺灣・支那・爪哇。

(七)**すぢめいが** *Diatraea striatalis* Snell.

被害植物 甘蔗。

特徵 灰黃色、前翅の外緣に七黑點を具へ、中室に近く二個の黑紋あり、開張一寸乃至一寸三分。

幼蟲 初め乳白色、背上に褐色の疣起を有すれども、成長するに從ひ黃色となり、淡紅の斑條を有するに至る、長さ九分內外。

經過 臺灣にて年四五回の發生、幼蟲にて越年、翌春蛹化、次で蛾化す、卵子より孵

化せる幼蟲は心葉に蠹入し葉基を食ひ次第に莖髓に蠹入す、大害あり。

分布 臺灣・爪哇。

(四)**つとが**(つとむし、又すむし) *Ancylolomia chrysographella* Koll. (第百九十五圖)

第百九十五圖
つとが(廓大)

被害植物 稻。

特徵 成蟲 形前種に酷似す、前翅外緣の中央は少しく弓狀に刳られ、淡黃褐色の細鱗を散在す、外緣は殆んど白色、之に二個の褐色紋を具へ、其內側に褐色の波狀線を橫走す、後翅は黃白、下唇鬚は下方に突出す、體長二分乃至四分、開張八分乃至九分。

幼蟲 體黃褐色、頭及び硬皮板は黑色、背線、亞背線、氣門上線及び下線は紫褐色、黃褐色の短毛を粗生す、體長八分乃至九分。

經過 年二回稀に三回の發生をなし、蛹にて越年す、翌春五月頃蛾化し、次で莖葉に產卵す、幼蟲は根際より二三寸の處に絲を以て葉を綴り、筒樣の巢を造りて其內に住し、夜間若くは曇天に出でて食害す、八月上旬巢中に蛹化し、後一週間を經て蛾化す、其年內に成長を終りたるものは藪桿雜草間に蛹化す。

分布　本州・四國・九州・沖繩・臺灣・支那・印度。

驅除法　一反歩に付き八合乃至一升の石油を滴下すべし、蛾化すれば燈火を以て誘殺し、晝間は網を以て掬ひ捕ふべし。

はちみつが亞科　Galleriinae

(四)はちみつが　Galleria mellonella L.（第百九十六圖）

被害植物　蜂蜜・蜜臘・毛皮・羊毛。

特徴　成蟲　前翅灰褐色、黑褐色の鱗毛を散在し、特に後緣に於て多し、翅の中央並に外緣は少しく淡色、翅端に近く灰白色の短き四線を斜走す、後翅は灰白色、翅端は少しく暗色を帶ぶ、體は灰褐色、觸角の基節下は白色、體長四分五厘、開張一寸乃至一寸二分。

幼蟲　黃白色、頭は赤褐色、第一節の中央に二個の淡黃色紋を具へ、體は少しく平たく、横皺は割合に深く、頭及び初めの兩節に褐色の短毛を粗生す、體長八分乃至九分。

第百九十六圖
はちみつが（廓大）

經過　年一回乃至二回發生し、普通蛹の有樣にて越年す、蛾は翌春現はれ卵は一塊をなして箱内の空隙、破目等に產下せらる、白色卵形にして數日の後孵化し各自臘内に穿入し、茲に筒狀の巢を造り其内にありて食害す、幼蟲は三四週間にて老熟し巢内の隅に至りて白繭を營み其内に蛹化す、蛹期は三四週間、蛾の出づる時期は一定せざれども普通八月の上旬なり、又食物及び其住居の地位により大に其成長に遲速あるを以て、往々幼蟲の有樣にて越年するものあり。

分布　世界共有。

驅除法　幼蟲の存在を發見したるときは臘框を取り出し檢視して幼蟲を殺すべし、蛾の飛翔するもの若くは靜止するものあれば網にて捕殺すべし。

豫防法　不要になりたる箱の孔を閉塞し蛾の發生するも外氣に出づること能はざらしむべし。

(四)ろうが　Achroia grisella F.（第十六圖版(15)(a)）

被害植物　蜜臘。

特徴　前翅は灰褐色、外緣に近く、淡色の一横帶あれども餘り判然せず、雄は前緣の基部隆起し、其裏面は凹陷し長毛を生ず、外緣は圓し、外緣及び緣毛の中央は

灰黃色、後翅は前翅よりも少しく淡色、體は灰褐色、頭は黃色、體長二分五厘、開張六分乃至八分。

幼蟲 體は乳白色、頭は黃褐色、口部は黑褐色、硬皮板は暗色、中央に黃白色の一横線あり、胸脚の末端は黃褐色、體長六分內外。

經運 年少くも三回の發生をなす、成蟲は巢房の壁側に產卵し、之より孵化したる幼蟲は蜜臘を食し、大害を加ふることあり、老熟すれば薄き白繭を營み其內に蛹化す、蛹は黃褐色、頭胸及び翅鞘は褐色、背部に一縱隆を具へ、之れは腹節の中央に達す、尙尾端に縱隆あれども斷續せり、尾端は截斷狀に終り、四個の齒狀突起を裝ふ、體長四分二厘、繭には橫皺ありて楕圓形を呈し、常に二三相集合せり、臺灣及び朝鮮にも普通なり。

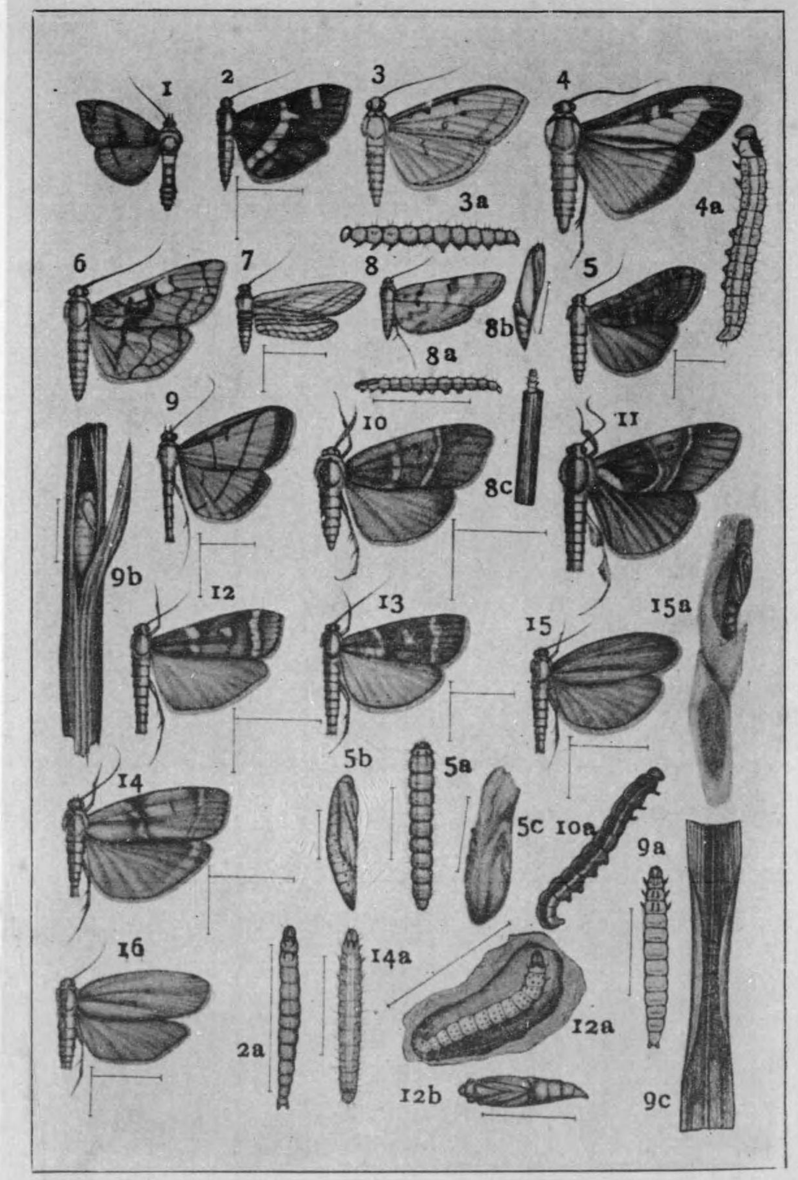
分布 本州・朝鮮・臺灣。

(四)つづりが Paralipsa gularis Zell. (第十六圖版(16))

被害植物 穀類、穀粉、種子、古紙、衣服等。

特徵 前翅は灰色にして中室の外側に當り一黑紋を具へ、環狀紋は判然せず、後橫線は淡色にして稍弓狀をなし、緣線は細くして稍波狀をなす、後翅は灰白色

第拾六圖



第拾六圖

1. Leucinodes orbonalis Guen. なすのめいが P.459
2. Zinckenia fascialis Cram. しろをびのめいが P.496
   2a. 幼蟲
3. Glyphodes nigropunctalis Bram. まへぼしすかしのめいが P.500
   3a. 幼蟲
4. Glyphodes perspectalis Wk. つげのめいが P.502
   4c. 幼蟲
5. Hellula undalis F. はいまだらのめいが P.505
   5a. 幼蟲 *5b.* 蛹 *5c.* 繭
6. Ouphisa plagialis Wilem. あづさのめいが P.507
7. Nymphula fluctuosalis Zell. いねみづめいが P.512
8. Nymphula depunctalis Guen. しろみづめいが P.513
   8a. 幼蟲 *8b.* 蛹 *8c.* 筒中ノ幼蟲
9. Cnaphalocrocis medinalis Guen. こぶのめいが P.508
   9a. 幼蟲 *9b.* 蛹 *9c.* 絲ニテ葉ヲ綴リタルモノ
10. Sacada fasciata Butl. おほくしひげしまめいが P.518
    10a. 幼蟲
11. Sacada approximans Leech くしひげしまめいが P.519
12. Dioryctria abietella Schiff. まつまだらめいが P.523
    12a. 幼蟲 *12b.* 蛹
13. Dioryctria pryeri Rag. ぶらいやまだらめいが P.524
14. Laodamia mikadella Rag. みかどまだらめいが P.525
    14a. 幼蟲
15. Achroia grisella F. ろうが P.539
    15a. 蛹と繭
16. Paralipsa gularis Zell. つゞりが P.540

特徴 前翅は灰色にして中室の外側に當り一黒紋を具へ、環狀紋は判然せず、後横線は淡色にして稍弓狀をなし、緣線は細くして稍波狀をなす、後翅は灰白色

外緣は少しく濃色、體長三分、開張七分乃至九分。

幼蟲　淡黃色少しく綠色を帶ぶ、頭は淡褐色、口部は黑色、體には橫皺多く、低き疣狀突起ありて一本の長毛を生ず、體長四五分。

經過　年一回の發生、幼蟲にて繭內に越年し、翌春蛹化し次で蛾化す、蛾は穀粒若くは俵側に一粒乃至數粒の卵子を產附するものにして稀に十數粒を一所に產下する事あり、卵は黃色饅頭狀をなす、孵化すれば絲を吐きて穀粒を集め其內にありて食害す、成長するに隨ひ穀粒を增し其多きときは三十粒餘を點綴することあり、老熟すれば此の巢を辭し、壁其他板の裂間に入りて結繭す、繭は甚だ强靭にして破れ難し、此の蟲の害に罹りたる時は多數の穀粒を絲にて相綴るが故に大に其穀量を減じ、同時に一種固有の惡臭を生ずるに至る、繭は褐色にして數個相集るを常とす、長さ四五分、蛹は淡褐色にして背面は濃色なり、體長三分餘。

分布　本州・朝鮮・支那。

(四)**ふたてんつづりが**　Melissoblaptes bipunctatus Zell.

被害植物　動物性標本、毛皮、衣服等。

特徴 前翅は灰褐色、翅底及び中央にある一縱條は淡赤褐色、中室の一點及び其外側にある環紋は暗褐色、前緣及び中央に近き一紋は暗褐色、後翅は灰白色、外緣及び緣線は少しく濃色、體は灰色、體長四分內外、開張一寸乃至一寸二分。

幼蟲 暗褐色、圓柱形にして細く、腹面は淡色、體色同樣の長毛を裝ふ、各節に橫皺多し、『こめのくろむし』に酷似す、常に絹絲にて土を綴り筒樣の巢を造り其の內に住す、體長八九分。

經過 未だ判然せざれども、蛾は六、七及び八月に亘りて現はる、歐州地方にありては花蜂其他蜂の巢に寄生し、又動物性の標本等を食すといふ、札幌地方に於て家屋內に普通なる所より見れば或は大害を加ふるものなるかも知るべからず、蛹は黃褐色、細長、頭部より尾端に縱走する一隆起を具ふ、尾端は圓錐形をなし、末端に近く一齒を裝ふ、長さ四分餘、成蟲の有樣にて越年す。

分布 北海道、本洲、歐洲

(四)あかふつゞりが Lamoria anella Schiff.

被害物 動物性の標本、毛皮其他衣服。

特徴 前翅灰色、前緣は灰褐色、中室に二個の黑紋ありて、外側にあるものは中央

に白點を有す、翅端は圓く、之に七個の暗色點を列ね、後翅は灰褐色開張一寸內外、前種に酷似すれども翅廣く後翅に第四脈を有するを以て容易に區別し得べし。

幼蟲及び經過 は同前。

分布 世界共有。

第十五 蝙蝠蛾科 Hepialidae

(一)きまだかうもりが Phassus (Hepialus) signifer Wk. (第百九十七圖)

第百九十七圖 きまだかうもりが

被害植物 桃、桐、くさぎ。

特徴 成蟲 前翅は濃褐色、二個の淡褐色斜條を裝ひ、其兩側に黑點を散在す、內緣には淡褐色の部分ありて、此處に黑點を散在す、體長八分乃至一寸五分、開張一寸五分乃至三寸五分。

幼蟲 淡褐色にして少しく青みを帶ぶ、頭及び硬

皮板は赤褐色、各節に九個乃至十個の暗黄色紋ありて、背上の前方にあるものは長楕圓形にして横置せらる、體長一寸二分。

經過 二年に一回の發生、幼蟲の儘樹皮下に越年し、翌春其材部を食害す、其住する處には常に褐色の蟲糞を出だす、八月下旬に至り木屑若くは蟲糞を交へたる繭を造り其内に蛹化す、九月上旬乃至下旬蛾化す、蛾は黄昏空中を旋轉し、其狀恰も蝙蝠に似たり。

分布 本州、四國、九州、滿洲

驅除法 蟲糞を出したる處を鋭刀にて割き其幼蟲を殺し、穴深きときは注入器を以て酢若くは石油を注ぎ込むべし、又蛾化すれば網を以て之を捕ふべし。

(二)かうもりが Phassus excrescens Butl. (第十七圖版(2)(a)(b)(c))

被害植物 にはとこ、くさぎ。

特徴 體翅暗色、複眼は光澤ある黑色、觸角は黄色、前翅の前緣に五個の黑紋を裝ひ、中室の基部に一個、其外側に二個の黄白色紋を具へ、其内一個は瓢蕈形をなす、尙外緣の上方にも數個の小白紋を散在し、中央及外方に雲狀の濃色紋を裝ふ、後翅は暗色にして斑紋なし、雄は後胸の兩側に橙黄色の掃狀毛を裝ひ、尾端に黑色の房狀毛あり、前肢に刷毛樣の長毛を裝ふ、體長一寸二分乃至一寸五分、開張二寸三分乃至三寸。

幼蟲 體は黄白色、頭黑褐色、硬皮板は赤褐色、其兩側に各一黑點あり、各節に疣狀突起ありて少しく濃色を呈し、之より一短毛を生ず、第二、第三及び尾節は他節に比して少しく濃色なり、氣門及び脚は褐色、尾端に刺毛多し、體長二寸内外。

經過 二年に一回の發生、成蟲は七月中旬に現はれ、幼蟲は樹幹の裂間其他根株の空隙に一個づゝ産卵し、之より孵化する幼蟲は材質部に蠹入し縱孔を穿ち食害す、五月頃より根際の蟲孔に降り來り爰に孔を穿ちて蛹化す、蛹は黄褐色、頭部及び前胸は黑褐色、縮刻多し、各腹節の基部に近く各一條の横隆ありて氣門に達せずして終る、腹には四條の横隆ありて何れも黑色を呈す、體長一寸三分、成蟲は日沒後地上より二間内外の高さを蝙蝠の如く飛躍す、日中は前肢を以て枝より垂下するを以て一見其の存在を認め難し、此の害を受けたる樹木は常に蟲糞あるを以て容易に其存在を認め得べし。

分布 北海道、本州、滿洲。

(三)たいわんかうもりが Phassus formosanus Shirak.

被害植物　あかめがし。

特徴　成蟲　灰褐色、前翅前緣の三分の二基部は暗色、十個の小黑點を具ふ、中央にはW字形の大黑褐紋あり、開張二寸一分內外。

幼蟲　黃白色、頭黑褐色、硬皮板は赤褐色、其兩側に黑點あり、各節に一双の疣狀突起ありて、之より一短毛を生ず、氣門は褐色、長隨圓形、老熟すれば二寸內外に達す。

經過　年一回の發生、成蟲は三四月頃多く、幼蟲は老熟すれば蟲孔內に蛹化す、蛹は褐色、網狀の黑色隆起あり、長さ一寸三分、大害なし。

分布　臺灣。

第十六　木蠹蛾科　Cossidae

(一)ごまふぼくとう　Zeuzera pyrina L.

被害植物　梨、苹樹、樺、椴、赤楊、榛、菩提樹、はしどひ、白楊、柳等。

特徴　成蟲　體翅灰白色、前頭及び觸角は黑色、胸部に綿樣の軟毛を密生し、之に六個の黑紋を縱列す、腹部は黑褐色、腹基部、末端及び各節の後緣に灰白毛を裝

ふ、胸下及び脚は黑褐色、翅には數多の黑紋を散在す、前翅に約十一個、中室に九個あり、其外、各室にある紋は長楕圓形にして横置せられ、稍〻相平行す、後翅にある紋は小なり、體長六分乃至一寸二分、開張一寸七分乃至二寸五分。

幼蟲　體は圓柱形、黃白色、頭は黑褐色、硬皮板は淡褐色、各節に黑色の疣狀突起を散在し、之より一本の微毛を生ず、尾端は少しく褐色を呈す、第一及び第十二節の硬皮板は何れも中央にて遮斷せらる、第一節にては後緣、第十二節にては兩側に暗色毛をも裝ふ、體長一寸五分乃至二寸。

經過　二年に一回の發生をなす、其の成長は不順にして、成蟲は臺灣にては四月頃、本州にては八月頃現はる、蛾は枝幹に一個づゝ卵子を產下す、稀に數個の卵子を一所に產下することあり、其數一千餘に達す、幼蟲は皮下に入り、漸次樹木の中心に向ひ蠹入す、第一回の越年後は約七寸位の孔道を穿ち、第二回の越年後の幼蟲は樹幹に下り皮下に來り爰に蛹化す、堅木にありては徑三分位の圓柱形孔を穿てども、軟木にありては不規則にして母指大の孔を穿つこと稀ならず、羽化する時は蛹の脫殼を半ば樹外に出だす、蛹は淡褐色、腹部の方に少しく曲る、頭は鼻狀に突出し、翅鞘は短く、各節に二列の齒狀突起ありて前方にあ

るものは長く、尾端は截斷狀に終り、之に刺冠を有す、長さ一寸三分、本邦にては未だ大害あるを聞かず、山地に多し。

分布 北海道・本州・四國・九州・臺灣・朝鮮・支那・歐洲・北米。

(四) ぼくとうが Cossus vicarius Butl. (第十七圖版(1)(a)(b))

被害植物 柳、白楊、櫻、胡桃、楡、榉、槭、ぶなしなのき。

特徵 成蟲 體翅灰褐色、後頭及び頸は黃色、前翅は灰色、中央及び外緣は灰白色、黑色の橫條多く、其大部は相接續し、三分の二の所にある一條は太くして判然す、後翅に暗色の不明紋あり、體長(♂)(♀)七分乃至一寸二分、開張一寸五分乃至二寸六分。

幼蟲 體は黃色、背面は綠色若くは紅褐色を帶び、頭は廣く暗褐色、硬皮板は暗色にして中央にて分たる、各節に低き疣狀突起ありて、之より一本の短毛を生ず、尾脚には冠狀鈎を裝ふ、體長大なるものは三寸位あり。

經過 成蟲は六七月の頃發生し、樹皮の裂間其他の根株の空隙に塊狀をなして產卵す、幼蟲は初め樹皮下に孔を造り、後深く材部を上下に穿ち、上部は五六尺の高さに達す、下部は根に至る、時に二百餘の幼蟲を一木に見ること稀ならず、

幼蟲は二回越冬し、五月頃に至りて孔の下部に下り、爰に蛹化す、時に孔外に出で地上に一種固有の繭を造り其內に蛹化す、蛹期は三週間乃至六週間、羽化するときは蛹殼の大半を孔外に出だす、本邦にては未だ大害あるを見ず。

分布 北海道・本州・朝鮮・滿洲。

第十七 硝子蛾科 Aegeriidae (Sesiidae)

(一) こすかしば Aegeria (Sesia) hector Butl. (第百九十八圖)

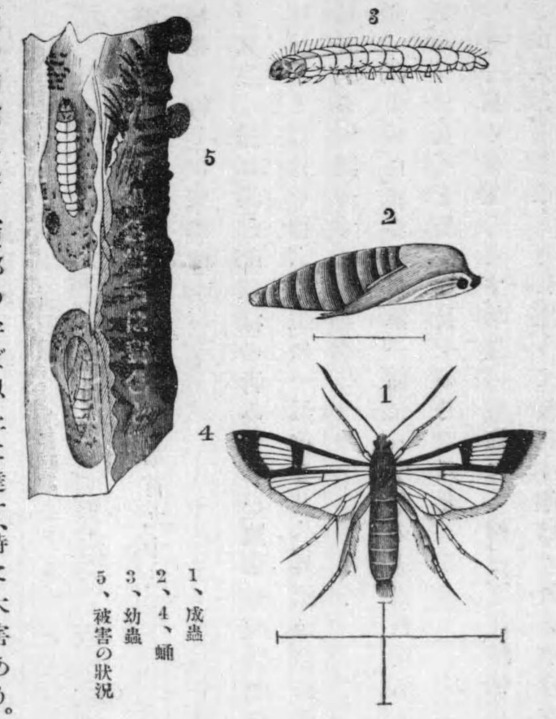
被害植物 櫻・苹・樹・梨・梅・桃・李。

特徵 成蟲 體は黑色、鋼鐵樣の青みを帶び、腹部に橙黃色の二環紋あり、前翅は透明、少しく藍色を帶ぶ、中央に一黑紋を具へ、外緣及び脈は黑色なり、後翅は透明、體長六分、開張一寸。

幼蟲 體淡褐色、頭赤褐色、第一節に八字形の赤褐色紋あり、背線は赤色、氣門は褐色、疎らに短毛を裝ふ、體長七分乃至八分。

經過 年一回の發生をなす、幼蟲の有樣にて樹皮下に越年し、翌春其材部を食ひ、早きは六月、遲きは八月に至りて蛹化す、蛾は暗黃色の扁たき卵子を樹皮に一

第百九十八圖
こすかしば



1、成蟲
2、4、蛹
3、幼蟲
5、被害の狀況

二粒宛産下す、其棲息する所には常に褐色の蟲糞を混したる樹脂を出す、充分成長すれば木屑を綴りて繭を造り、其内に蛹化す、蛹の脱殼は常に蟲孔より半ば露出せり、又蛾は晝間出で時に花上にあることあり、蛹の翅鞘は長く、腹部の半ば以上に達す、時に大害あり。

分布 北海道、本州。

驅除法 蛾は根際に産卵する性あれば新聞紙を二三枚に折りて地上一尺位の所迄經ひ絲にて縛り置くべし、又石灰水を塗り置くもよし、其材部に穿入して害をなすものは前述の如く鋭刀を以て蟲孔を撥き之を殺すべし、或は又石油若くは酢を蟲孔に注入するも可なり。

(二)かしこすかしば Aegeria (Sesia) quercus Mats. (第十七圖版(4)(a))

被害植物 樫

特徴 成蟲 體は紫褐色、前頭の兩側は白色、下唇鬚、觸角の末端、頰、中胸背の三縱線、後胸背の兩側、各腹部の後緣及び兩側、體下並に脚は橙黄色、雄は尾端に刷毛樣の黄褐毛を二列に簇生し、其末端に白色の部分を裝ふ、腿節及び脛節に褐色の部分あり、翅は透明、前翅は黄色を帶び、前緣、外緣及び脈は金光ある暗褐色、翅底の横脈及び前緣の縱條は橙黄色、後翅前緣の横脈は黄色、緣毛は前翅と同樣に金光ある暗褐色、雄は腹部細し、體長五分五厘、開張一寸。

幼蟲 不明。

經過 年一回の發生、七月中旬乃至八月下旬成蟲發生す、幼蟲は樫の樹幹に蟲入し大害を加ふ、幼蟲にて越年し、七八月に至りて蟲孔に近く來り爰に蛹化す、蛹は赤褐色、翅鞘は第四腹節に達し、觸角鞘は翅鞘よりも少しく長し、第一腹節を除き各腹節に二列の齒横列ありて、前列にあるものは大なり、尾端に六個の大

齒狀突起あり、體長五分五厘。

分布 本州。

(三)ぶだうすかしば *Sciapteron regale* Butl. (第百九十九圖)

被害植物 葡萄。

第百九十九圖
ぶだうすかしば

特徴 成蟲 體は黑色、頭部黃色、胸側に黃紋、腹部に黃帶あり、前翅は褐色、前緣は黃色、後翅は稍々透明、前緣の中央に褐色紋あり、體長五分乃至六分、開張一寸乃至一寸一分。

幼蟲 體は淡黃色、頭及び硬皮板は褐色、短毛を粗生す、頭は割合に小、濃色の斑紋あり、胸部は淡褐色、腹脚は短くして太し、之れに濃褐色の爪を楕圓形に冠生す、體長一寸。

經過 幼蟲の儘被害樹の材部に越年し、翌春其中に蛹化し、五月上旬乃至下旬蛾化す、此幼蟲は東京地方にては小鳥家の大いに珍重するものにして、冬日には野外に人夫を出して其採集をなし小鳥の餌に供するものあり、葡萄莖の膨大せるものは多く此幼蟲を藏す、之が爲に養液の上昇を妨げ、大いに其成長を害し、甚だしきときは其枯死を來たすこと稀ならず、小鳥の餌として賣買するも

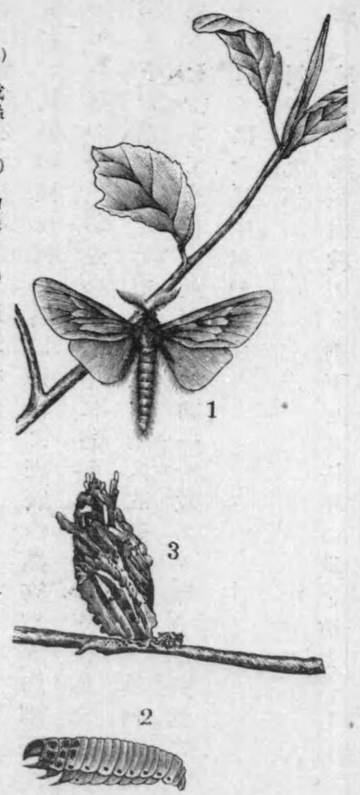
のあり。

分布 本州。

第十八 避債蛾科 Psychidae

(一)ちやみのが *Clania (Eumeta) minuscula* Butl. (第二百圖)

第二百圖
ちやみのが



(1) 成蟲 (2) 幼蟲 (3) 蓑の外部を示す

被害植物 茶樹・梨・梅・茶・海棠・櫟・檜

特徴 成蟲 雄は前翅灰黑色、中央の翅脈は黑色にして判然す。後翅は小にして暗色、觸角羽狀、頭及び胸部に暗褐色の長毛あり、腹部は細長く、側部にも亦長毛あり、體長四分四厘、開張九分、雌は蛆

狀にして脚翅を缺き、體は黃白色、頭は黃褐色、圓柱形にして肥大し、宛然卵子袋の如し、常に巢中にありて出でず、體長六分。

幼蟲　體暗褐色、頭黑色、額片赤褐色、初めの三節は發達し、黃白色にして褐色紋を散在す、尾節の硬皮板は黑し、各節に疣狀の黑紋あり、胸脚長く、腹脚を缺く。

經過　年一回の發生、幼蟲の儘蓑中に越年す、翌春新芽に集まり時に大害を加ふる事あり、老熟すれば巢中に蛹化す、雌は成蟲となるも巢內に留りて出でず、雄の來るを待ちて交尾す、產卵數は約一千粒あり、卵子は黃色にして割合に大、東京地方にては七月中旬羽化す。

分布　本州・四國・九州。

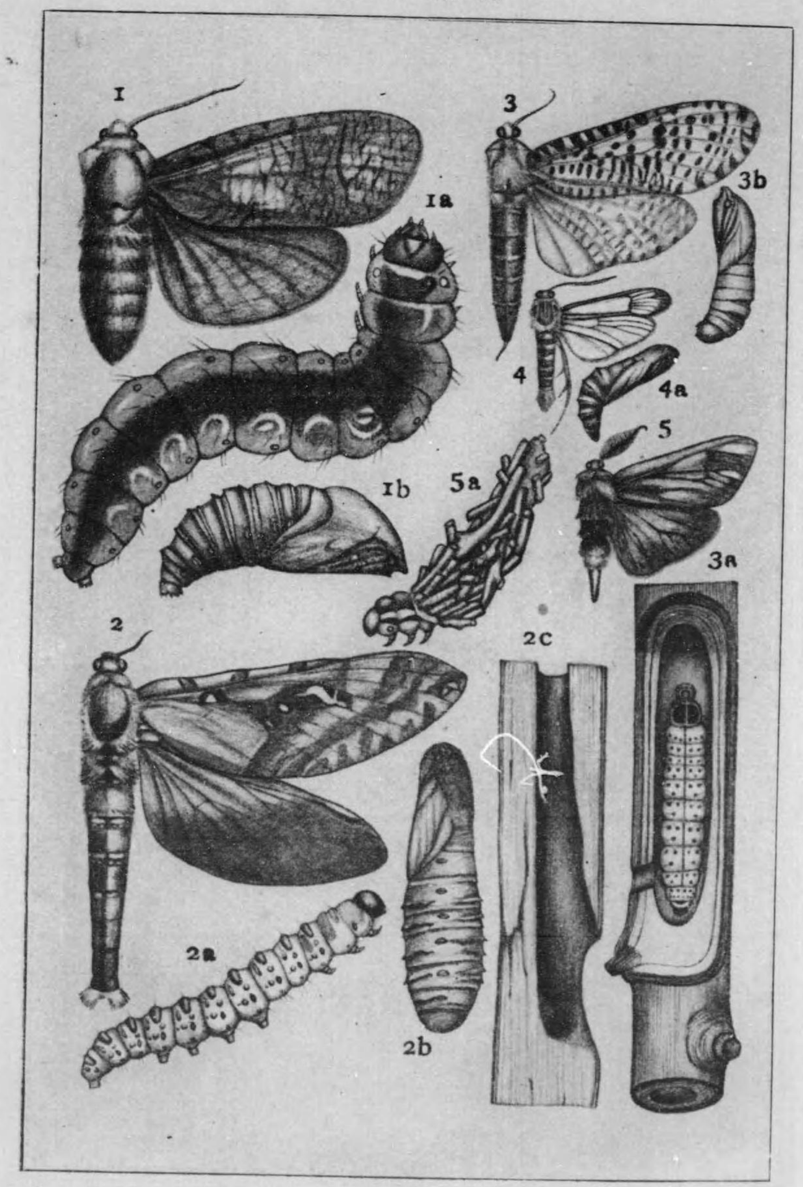
驅除法　晚秋、落葉後樹枝より垂下せる蓑樣の巢を捕ふべし、其小形なるものゝ群棲せる場合には亞砒酸鉛の溶液を灌注すべし。

(二)おほみのが　Clania variegata Cram.　(第十七圖版(5)(a))

被害植物　樟、棉、茶、想思樹、其他諸種の喬木。

特徵　成蟲　雄は體翅暗色、前翅の中脈、中室の縱脈並に橫脈外の一紋は黑色、尙外緣並に脈の周圍は多少濃色なり、後翅に斑紋を缺く、觸角は甚だしく羽狀を

第拾七圖



第拾七圖

1. Cossus vicarius Butl. ぼくとうが……P.548
   1a. 幼蟲 *1b.* 蛹
2. Phassus excrescens Butl. かうもりが……P.544
   2a. 幼蟲 *2b.* 蛹 *2c.* 被害ノ狀
3. Zeuzera pyrina L. ごまふぼくとう……P.546
   3a. 幼蟲及ビ被害ノ狀 *3b.* 蛹
4. Sesia (Aegeria) quercus Mats. かしこすかしば……P.551
   4a. 蛹
5. Clania variegata Cram. おほみのが……P.554
   5a. 幼蟲

被害植物 楮、桃、茶、想思樹其他諸種の喬木

特徴 成蟲 雄は體翅暗色、前翅の中脈、中室の縦脈並に横脈外の一紋は黑色、尙外緣並に脈の周圍は多少濃色なり、後翅に斑紋を缺く、觸角は甚だしく羽狀を

呈し、其基部並に翅底鱗は灰白色、腹側に灰白色紋を縱列す、體長五分五厘乃至七分、開張一寸三分乃至一寸五分、雌は圓柱形、兩端細く、光澤ある乳白色、頭は黃褐色、初めの三節に褐色の一縱條あり、體長八分內外、常に蓑中にあり。

幼蟲　淡黃色、頭は黑褐色、粗毛を粗生す、初めの三節は淡黃色、中央に太き黑褐色の一縱條を裝ひ、初めの二節には更に白色の一條を縱走し、兩側には黑褐色の不規則紋あり、胸脚は黑褐色にして頗る發達す、體長八分乃至一寸三分。

經過　臺灣にては年一回の發生なるが如し、其成長の度は大いに異なるものありと雖、成蟲の出づる時期は八月上旬にして、又四月頃現はるゝものもあり、其形の大なるだけ害多く、樟・茶の如きは大害を被ることあり、其習性に至りては『ちやみのが』に異ならず。

分布　臺灣・支那・印度

(三)きんぱねみのが Platenmeta aurea Butl.

被害植物　苹樹、梨、其他果樹。

特徵　成蟲　雄は體翅暗褐色、光線の工合により金光ある天鵞絨樣の光澤を帶ぶ、觸角は甚だしく羽狀を呈し、眼は小、前翅に斑紋を缺き、中央にある脈は少し

く隆起す、後翅は前翅より稍々濃色、開張八分五厘内外、雌は不明。

幼蟲　白色、頭は黄褐色、初めの三節に褐色の斑紋あり。

被害樹の葉片を以て巣を造れども、苹樹に寄生するものは花蕚若しくは花瓣を以て巣を造るものあり、青森地方に稀ならず。

分布　本州。

(四)みのが(ひめみのが)　Pachytelia (Psyche) unicolor Hufn.

被害植物　苹樹・茶・梨・櫻・櫟・檜・其他禾本科植物。

特徴　成蟲　雄の翅は暗黑色、觸角羽狀、前翅は短三角形、後翅は稍〻卵形、全面組毛を密布す、體長三分、開張六分五厘、雌は蛆狀、黄白色、頭は赤褐色、常に赤褐色の蛹殼中にあり、前種同樣に巣中にあり。

幼蟲　體は灰黄色、頭に黑褐色紋あり、第一節より第三節に至る間各六個の黑褐色條を縱走す、胸脚殊に第三双は甚だしく發達し、腹脚は退化す、體長五分乃至八分。

經過　略〻前種(ちやのみのが)に似たり。

分布　北海道・本州・四國・九州・支那・歐洲。

第十九　刺蛾科　Cochliidae

(一)あをいらが　Parasa consocia Wk.　(第十八圖版(6)(a)(b))

被害植物　柳・白楊・柿。

特徴　成蟲　體翅綠色、前翅の基部は暗褐色、外緣は灰黄色、暗褐色の小點を散在す、其内側に暗褐色の弓狀帶ありて、之より約十個暗褐色の短線を直角に放出す、外緣は暗褐色、緣毛は灰黄色、觸角及び下唇鬚は褐色、腹及び脚は灰黄色、後者には褐色點を散在す、前經節の末端に灰白色の一點あり、體長六分乃至七分、開張一寸二分乃至一寸四分。

幼蟲　頭黄白色、體は黄色、少しく綠毛を帶び、背線は青色、其左右に藍色の點線あり、此線は各節間にて淡色の新月狀線となりて外方に出で、其間に更に一淡褐色點を有す、第一節は黄綠色若くは黄褐色、暗灰色の小粒を散在す、各節背線の部分(第一節にては廣く)に一疣起ありて、之より黄白の刺毛を生じ、其末端は暗褐、第十二節の疣起には藍色の剛刺あり、氣門は赤褐色、其上下に青色の波狀線を縱走す、體長九分内外。

經過 年一回の發生、幼蟲にて繭中に越年す、翌春蛹化、六月中旬より羽化す、幼蟲は六月下旬より現はれ、七月下旬考熟し、八月頃繭を造り、幼蟲の儘其内にありて越年す、繭褐色、楕圓形長さ五分内外、蛹は淡黄褐色、前頭に嘴狀突起あり、各腹節の前方に黄褐色紋あり、黑色の小顆粒を密布す、長さ五分内外、其害大ならず。

分布 本州・九州・朝鮮・臺灣・支那・滿洲。

(二)くろしたあをいらが Parusa sinica Moor. (第二百圖)

第二百圖
くろしたあをいらが

被害植物 茶樹、茶、梨。

特徴 成蟲 體翅淡綠色、前翅底の一大紋、廣き外緣、後翅、腹部及び脚は暗褐色、觸角は羽狀にして黄褐色、後肢甚だ太し、體長三分五厘、開張九分。

幼蟲 綠色、體下は淡色、六個の黑縱條ありて、中央にあるもの最も太し、何れも少しく波狀をなす、第三節、第四節並びに尾端の二節に各二個の長さ肉樣突起ありて、之より多數の黑刺を生ず、體長六分。

經過 年二回の發生、第一回の蛾は六月中下旬、第二回は八月中旬乃至九月上旬現はる、幼蟲にて繭中に越年、翌春蛹化、次て羽化す、繭は褐色、楕圓形、長さ三分五

乃至四分五厘。

蛹は淡褐色、腹部は淡綠色、各腹部に新月形の褐色紋あり、大害なし。

分布 北海道・本州・朝鮮・支那・滿洲。

驅除法 石油乳劑に二十倍の水を混じて灌注し、冬季越年する繭を集め投ずべし。

(三)なしいらが Mirosa inornata Wlk. (第二百一圖、第十八圖版(8))

二百一圖
なしいらが

被害植物 梨、柿、椎。

特徴 成蟲 體は黄色、翅及び腹部は暗褐色、翅端に淡紫色を帶べる鉛色の二横帶ありて、其の中程は黄褐色、翅底は濃色、後緣に濃黄色の一大紋あり、體長五分、開張一寸。

幼蟲 綠黄色、各部に四個の肉樣長突起ありて、之より黄色毛及び暗色毛を生ず、體長六分。

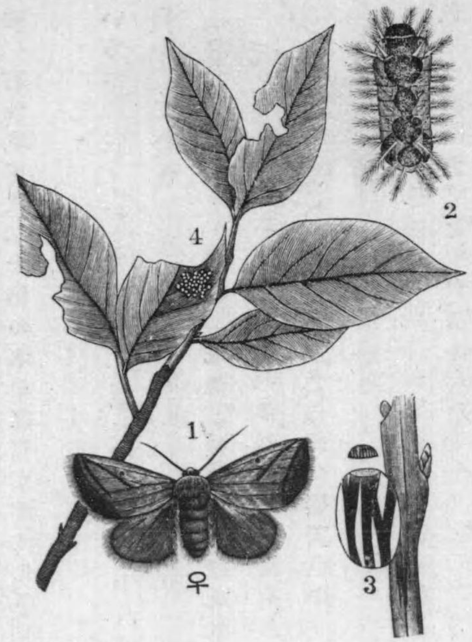
經過 前種同樣幼蟲にて卵形の繭中に越年し、翌春蛾化す、蛾は七月中旬に出づ。

分布 北海道・本州・九州・朝鮮・支那・滿洲。

(四)いらが(いらむしが) Cnidocampa (Monema) flavescens Wk. (第二百二圖)

被害植物 柿・柑橘・梨・枇杷・梅・李・苹樹・其他果樹。

第二百二圖 いらが
(1)成蟲 (2)幼蟲 (3)繭 (4)卵



特徴 體、翅橙黃色、前翅の外半は褐色、二條の暗褐色斜條ありて翅端にて相會す、後翅は灰黃色、腹部は基部を除き暗褐色、體長五分、開張一寸。

幼蟲 黃綠色にして紫褐色の背線を具へ、第二・第三・第四・第八及び第九節にありて增幅す、青藍色を混ずる部分あり、各節に二個肉樣の突起ありて、之より多數の剛刺を出す、第十節の兩側に青藍色の長紋を裝ひ、第十一節に慈姑(くわい)樣の斑紋を具へ、尾節には八個の黑褐色小紋あり、體長八分。

經過 年一回の發生をなす、幼蟲の儘卵形の繭を造り、其內に越年す、繭は恰も雀の卵の如く、白色若くは暗色にして縱紋を有するものあり、翌春五月より六月に涉りて蛾化す、蛾は卵子を葉裏に產下す、卵は初めは淡黃色、後黑色に變ず、產卵數二百內外相集合す。

分布 本州・九州・朝鮮・支那・滿洲。

(五)くろいらが Scopelodes venosa Wk. (第二百三圖)

被害植物 柿・棗。

第二百三圖 くろいらが

特徴 成蟲 雄は體、翅暗色、觸角黃色、下唇鬚は長く、約頭長の三倍ありて、其末端は棍棒狀に膨大し、之に少しく黃毛を混ぜる部分あり、胸背には白毛を混ず、前翅の中室部は濃色、全面に光澤ある灰色鱗を裝ふ、緣毛は灰白色、腹部の兩側は黃色、脚に灰白色の長毛を簇生す、雌は體、翅灰黃色、下唇鬚の末端は球稈狀に膨大し、暗色毛を裝ふ、翅の中室部に濃色の長縱紋を具へ、緣毛は白色、腹部は黃色、末端は暗色、體長雄雌五分、開張一寸二分乃至一寸四分。

幼蟲　黄綠色にして灰黄色の小點を密布す、頭褐色、硬皮板は二個の黑紋となる、二節以下の各節に四個の肉狀突起ありて一横列をなし、之に褐色の刺を生ず、背線は淡色、各節の前方に各二黑點あり、氣門黑色、氣門下線は黄色、體長八分、横徑二分五厘。

經過　年一回發生す、幼蟲にて前同樣に卵形の繭内に越年す、繭は暗褐色にして光澤を缺き斑紋なし、翌春六月乃至七月蛾化す、幼蟲は柿、棗其他の果樹を食害すれども其害前種の如く大ならず。卵は枝の下面に産下せられ、膠質物を以て蔽はる、孵化せる幼蟲は初め黄色、葉裏にありて葉綠層を食す、頭を同方向に列ねて食害す、三齡頃より葉の全面を食す、老熟すれば離散し、八月上旬より地中に入りて結繭し其儘越年す。

分布　本州支那印度。

尙臺灣には此科に屬するもの左の八種あり。

(六)をびいらが　Thoseoides fasciatus Shirak.

被害植物　柑橘。

(七)けなししろいらが　Narosa nitobei Shirak.

被害植物　柑橘、想思樹。

(八)みかんいらが　Nagola nigricans Moor.

被害植物　柑橘。

(九)ふたすぢいらが　Cania bilinea Wk.

被害植物　柑橘。

(一〇)あかほしいらが　Susica taiwana Shirak.

被害植物　柑橘、想思樹。

(一一)きしたあをいらが　Parasa lilaratata Stgr.

被害植物　梨、なんきんはぜ。

(一二)はいぐろいらが　Contheyla brunnea Shirak.

被害植物　柑橘、なんきんはぜ。

(一三)あとばねいらが　Thosea bicolor Shirak.

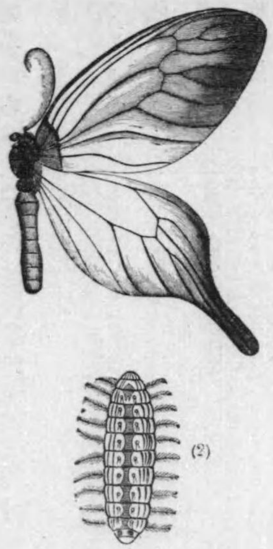
被害植物　柑橘。

第二十　斑蛾科　Zygaenidae

(一)うすばつばめが Ilcysma westwoodi Voll. (第二百四圖)

被害植物 李・桃。

第二百四圖
うすばつばめ
(1)成蟲 (2)幼蟲



特徴 成蟲 翅は灰白色、翅端及び脈は暗色、稍〻半透明、翅底は黄色、其兩側は暗色、後翅は鳳蝶の如く延長す、體は暗色、體長五分、開張二寸。

幼蟲 體長楕圓形、頭黑色、常に第一節に蔽はれて見えず、體は黄色にして、第一節に二個の黑紋あり、背線亞背線及び氣門上線は紅色、但し背線は廣し、各節の側部に一個の長刺ありて、之に黑毛を密生す、體長八分。

經過 年一回の發生、幼蟲の儘越年す、翌春新芽を食害す、其數多からざるを以て大害を加ふるに至らず、六月下旬乃至七月上旬半ば葉を捲きて繭を造り、八月乃至九月上旬、其中に蛹化す、繭細長、灰白色、蛾は九月下旬乃至十月上旬に出づ。

分布 本州・朝鮮。

驅除法 石油乳劑に二十倍の水を混じて灌注し、九月下旬乃至十月初旬網を以て蛾を捕獲すべし。

(二)をきなはるりちらし Heterusia aedea L. (第十八圖版(5))

被害植物 茶(沖繩、臺灣)。

特徴 成蟲 體、翅は黑褐色、前翅底の一紋及び中央の三紋は橙黄色、外緣に約十個の白紋を横列す、後翅は橙黄色にして中室の横紋、第一、第二、第三、第四及び第五室の中央紋は黑藍色、尙第三及び第四室に黄色紋あり、外緣は廣く瑠璃色を呈す、觸角は長く、末端にて杓子狀に膨大す、腹部は第一節を除き橙黄色、側部の小紋列及び各腹面節の後緣は黑綠色、胸側に黄色紋あり、體長五分乃至六分六厘、開張九分乃至一寸一分。

幼蟲 體は長楕圓形にして、腹面平たく、背面少しく高まり、褐色を呈す、頭は第一節の下に隱れ、第一節及び尾節を除く外は各節に黑色の四突起を横列し、其外側には各一個の赤色突起あり、第一節の兩側にも同樣の突起二個あり、尾節の背面には二個の褐色突起あり、一見刺蛾の幼蟲に似たり、體長七分七厘。

經過 發生の回數は不明、幼蟲は葉を食害すること恰も刺蟲に異ならず、臺灣に

ては一月上旬老熟し、淡褐色の厚き繭を造りて其内に蛹化す、蛹は淡黄褐色、各節の接合部は黒色、翅鞘は第四腹節に達し、觸角は翅鞘の半ばに達するに過きず、淡褐色の軟毛を生ず、體長五分五厘、繭は兩端細小す、長さ一寸一分、常に食葉若くは樹枝に附着せらる、三月中旬に至り羽化す、成蟲は日中飛翔す、美色を呈し一種の惡臭を發する爲め、鳥の害を受くることなし、其性甚だ不活潑、大害なし。

分布 沖繩臺灣印度。

(三)ほたるが Pidorus glaucopis Drury var. atratus Butl. (第十八圖版(1))

植害植物 柃・榊。

特徴 成蟲 體翅黑色、前翅の外緣に近く白色横帶ありて少しく彎曲す、後翅に斑紋なし、頭及び觸角は黑藍色、羽狀突起は黑色、頭頂及び後頭は紅色、腹面、腹側、胸下及び脚は黑綠色、體長五分乃至六分、開張一寸七分乃至二寸二分。

幼蟲 一見刺蛾の幼蟲の觀をなす、體は黑色、第一節は褐色、第二節の兩側は黑色、第四節乃至第十二節の亞背線上には黃色の瘤狀突起を具へ、之れに短毛を裝ふ、此隆起の間は淡藍色を呈す、尙各節の左右に淡藍色と黃色との突起を具へ、之に長短ある黑白の兩毛を生ず、體長七分内外。

經過 年二回の發生、第一回の蛾は六七月、第二回は九月下旬現はる、幼蟲は五月下旬より現はれ、柃(ヒサカキ)、榊等の葉を食害す、六月に至りて完熟し、葉枝間に繭を營み其内にありて蛹化す、繭は長楕圓形、淡黃色にして長さ七分あり、蛹は黃褐色、稍〻圓柱形、羽化する時は常に蛹殼を半ば繭外に露出す、第二回の幼蟲は八月頃に現はる、卵子にて越年するものの如し、大害なし。

分布 北海道、本州、朝鮮。

(四)みのうすば Pryeria sinica Moor. (第十八圖版(2))

被害植物 柾(マサキ)。

特徴 成蟲 觸角、頭胸及び脚は黑褐色、胸背の兩側及び腹部に黃色の長毛を簇生す、但し尾端にあるものは一層長し、前翅は半透明、基部の三分の一は黃色、外部の三分の二は暗灰色、脈は一層濃色、後翅は小、末端は三角狀をなして尖り、翅底は前翅同樣に黃色、體長四分乃至四分五厘、開張八分乃至一寸。

幼蟲 體淡黃褐色、頭は黑色、背線及び氣門上線は黑色、其兩線の間に更に二條の黑縱條ありて何れも接合部にて縊れあり、全面に白色の短毛を粗生す、長楕

圓形にして脚は退化す、體長六分内外。

經過 年一回の發生、卵子にて越年、幼蟲は三月中旬より現はれ、其葉を食害す、其害の大なる時は全葉を食盡くすことあり、其性甚だ活潑、人之に觸れば直ちに絲を吐きて枝より垂下す、五月下旬乃至六月中旬に完熟し、二三葉を綴り合せ其中に結繭す、繭は灰褐色、稍〻楕圓形を呈し、扁平なり、長さ五分餘、蛹は長楕圓形、淡き灰褐色、長さ四分、卵子は數十個相集して枝幹に產附せられ、母蟲の體毛を以て之を蔽ふ、大害なし。

分布 北海道・本州・朝鮮・支那。

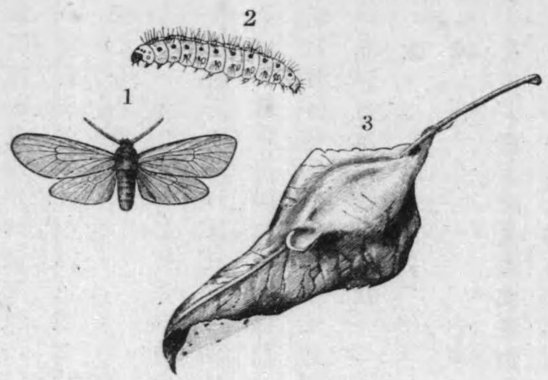
(五) りんごすかしくろは(なしほしけむし) Illiberis pruni Dyar. (第二百五圖)

被害植物 苹樹・梨。

特徴 成蟲 體は暗色、翅は淡色にして半透明、脈は暗色、觸角は雄にありては羽狀をなす、體長三分、開張八分乃至九分。

幼蟲 背部は黄綠色、腹部は淡黄色、老熟すれば灰黄色となる、頭部は暗黄色、背線は暗色、各節の側部に各一個の黑紋を裝ふ、又亞背線及び氣門上下の兩線に各一個の疣狀突起ありて、之より粗毛を簇生す、體長七分乃至八分。

第二百五圖 りんごすかしくろは
(1) 成蟲 (2) 幼蟲 (3) 繭



經過 年一回の發生、半ば成長したる幼蟲の儘越年す、翌春新芽を食ひ、其葉の開綻と共に葉を縱に捲き其内にありて食害す、六月下旬に至れば、紙樣の暗黄白繭を造り、其中に蛹化す、羽化する時は常に蛹の蛻殼を半ば葉外に出せり、蛾は七八月に出で、一處に七八十個の卵を產下す、總卵數四百五十餘あり、蛾は晝間飛翔す。

分布 北海道・本州。

驅除法 早春亞砒酸の溶液を灌注すべし、蛾出づれば網を以て捕殺すべく又捲葉内に棲息する幼蟲を捕ふべし。

(六) まさきすかしくろは Illiberis tenuis Butl. (第十八圖版(3))

被害植物 葡萄・柾。

特徴 成蟲 翅透明、周緣及び脈暗色、前翅少しく藍色を帶ぶ、後翅の前緣は廣く

暗色、體は暗色にして藍色を帶ぶ、觸角及び各腹節の後緣は黑藍色、裏面の翅底及び胸側は藍色、口吻は黃色、胸は暗色、體長三分乃至三分二厘、開張六分五厘乃至一寸。

幼蟲　綠黃色、頭及び硬皮板の二紋は黑色、各節に四疣狀突起ありて、之より一本の黑毛及び多數の柿色毛を生ず、背線、亞背線及び氣門上線は淡色、體長六分乃至七分內外。

經過　年一回の發生、完熟せる幼蟲の有樣にて越年し、翌春蛹化し、次て蛾化す、蛾は五月頃より八月に亘りて現はる、札幌地方にありては八月中旬に現はるもの少からず、卵子は初め乳白色なれども、次第に淡褐色となる、幼蟲は主として心葉を食ひ又葉裏にありて葉に孔を穿ち食害す、大害なし。

分布　北海道・本州・滿洲・印度。

(七)たけのほそくろは　Artona (Ino) funeralis Butl.　(第十八圖版(4))

被害植物　竹。

特徵　成蟲　體翅暗色、腹部紫色を帶ぶ、前翅は細く、暗色鱗を密布す、後翅は小、中央灰白色、半透明、雄觸角は甚だしく羽狀をなす、體長二分五厘、開張六分五厘。

幼蟲　黃褐色、亞背線及び氣門上線には各一個の暗褐色紋を具へ、之より褐色毛を生ず、尙腹面にも褐色及び白色の粗毛あり、體長三分。

經過　年二回の發生、第一回の蛾は五月乃至六月、第二回は七月下旬乃至八月上旬に現はれ、十五六粒の卵子を一塊をなして葉裏に產附す、幼蟲は三月頃より現はれ、葉を食すれども大害なし、五月中旬より老熟し、葉裏若しくは枝間に楕圓形の繭を營み、其內にありて蛹化す、第二回の幼蟲は七月中旬より老熟し、蛹化し次で蛾化す、蛾は性遲鈍なり、晝間飛翔す、大害なし。

分布　北海道・本州・九州。

第二十一　燈蛾科　Arctiidae

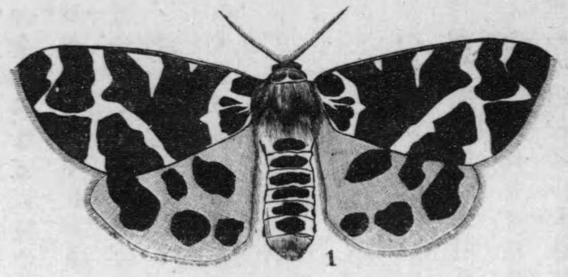
一　ひとりが亞科　Arctiinae

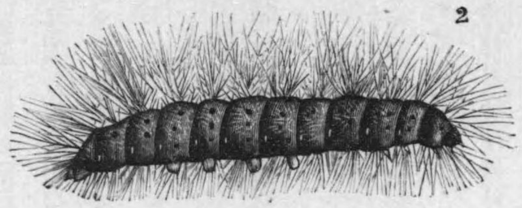
(一)ひとりが(をどりこが)　Arctia caja L.　(第二百六圖)

被害植物　桑・大麻・亭麻・須具利・總須具利。

特徵　成蟲　前翅は黑褐色、白紋及び相連絡せる白條は種類により大に變形す、後翅は赤色、數個の大黑紋あり、頭は白色、少しく赤みを帶ぶ、腹部は赤色、各節の

第二百六圖　ひとりがの蟲幼(2)　蟲成(1)





は常に幼蟲の裝へる體毛を附着す、七月より八月に亘りて蛾化す、卵は綠色、球形にして葉下に產付せられ、常に母蟲の體毛を以て被はる、一雌の產卵數は二百餘、之より孵化せる幼蟲の早きものは三回の脫皮を終り、遲きものは一回の脫皮後越年す。

分布　北海道・本州・滿洲・歐洲。

驅除法　七八月の頃燈火を以て蛾を誘殺し、幼蟲には石油乳劑を用ふべし。

背上に各一個の黑紋あり、體長八分乃至一寸一分、開張二寸乃至二寸六分。

幼蟲　頭は黑色、兩側は黃白色、氣門は白色、各節に十二乃至十六個の疣狀突起ありて、之より多數の長黑毛を簇生す、側部の毛は赤褐色、毛端は灰白色、體長約二寸。

經過　年一回の發生、幼蟲の儘越年す、翌春五月乃至六月老熟し、薄繭を造りて其中に蛹化す、繭有吻目

(二)あまひとり(あまじやうろう)　Phragmatobia fuliginosa L.

被害植物　亞麻其他蒲公英の如き雜草。

特徵　成蟲　體、翅赤褐色、前翅の中央に黑褐色の一點あり、後翅は紅色、六個の黑褐色紋ありて、四個は後緣に位し、二個は中室に近接して大なり、腹背は基部及び中央を除き紅色、側部に黑紋あり、體長四分、開張一寸。

幼蟲　體色は種々にして灰色、黃褐色及び黑褐色あり、同色の長毛を簇生す、頭は黑褐色、體長一寸。

經過　年一回の發生、幼蟲の儘越年す、翌春暗褐色の繭を營み、其中に蛹化す、六月上旬乃至下旬に亘りて蛾化す、稀に亞麻の葉を害すれども其の主として害するものは蒲公英なり。

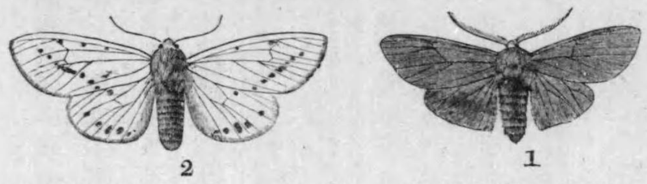
分布　北海道・本州・歐洲。

驅除法　幼蟲の亞麻を害する場合には網を以て掬ひ捕へ、蛾には誘蛾燈を用ふ

べし。

(三)くろばねひとり Thanatarctia (Spilarctia) internalis Butl. (第二百七圖)

第二百七圖　くろばねひとり
(1)成蟲　(2)同雌



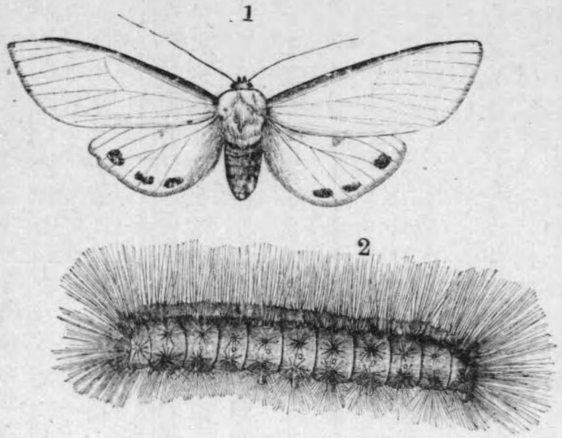
被害植物　苹樹・梨・梅・杏・李・桃・櫻・須貝利・總須貝利・桑等。

特徴　成蟲　雄は體、翅暗黑色、腹部紅色、背部及び腹側に黑紋あり、雌は淡黃色、前翅に點線より成れる二條の灰色帶ありて相並行し、後翅には五個の同色紋あり、腹部は紅色、背部及び腹側に黑點を列ね、尾端は黃白色なり、體長四分乃至五分、開張一寸乃至一寸四分。

幼蟲　頭は赤褐色、體黑褐色、各節に八個の藍色疣狀ありて、之より白色及び黑色の長毛を簇生す、側部及び背部に白紋あり、體一寸。

經過　年一回發生す、二回脫皮したる幼蟲は根際若くは雨露の當らざる處に巢を張りて其內に越年す、翌春新芽及び蕾を食ひ大害を加ふる事あり、六月中旬乃至下旬に至り葉を捲きて繭を造り、其中に蛹化す、繭は薄き暗灰色、常

第二百八圖　まへあかひとり
(1)成蟲(雌)　(2)幼蟲



に幼蟲の體毛を附着す、七月中旬蛾化す、蛾は三百內外の卵子を葉下に產附し、體毛を以て之を被ふ、其經過は『ごまだらひとり』に酷似す、三齡迄相集合するの性あり。

分布　北海道・本州。

驅除法　秋晩根際にある巢を採り、其中に越年せんとする幼蟲を殺すべし、幼蟲の葉上にあるものには石油乳劑を用ひ、其他燈火誘殺法を行ひ、或は卵塊を採るべし、九月頃幼蟲は葉上に群集するを以て此の機を逸せず捕殺すべし。

(四)まへあかひとり(きようじやうろう) Aloa (Creatonotus) lactinea Cram. (第二百八圖)

被害植物　玉蜀黍・大豆・千屈葉。

特徴 成蟲 體翅白色、頭頂、前胸の一帶及び翅の前翅は紅色、雌の後翅には四個の黑紋ありて、前緣にあるもの大なり、雄は一個の黑紋を有するのみ、腹背は基部を除き黃色、各節に黑帶あり、體長七分乃至八分、開張一寸九分乃至二寸二分。

幼蟲 完熟したる幼蟲は黑色、第四、第五、第六及び第七節は少しく褐色を帶ぶ、各節に六個の疣狀突起ありて、之より黑毛を簇生す、體長一寸四五分。

經過 年一回の發生をなす、蛹にて越年し、翌春六月頃蛾化す、蛾は食草の稚莖に卵子を產下す、卵子は黃綠色にして灰白紋を裝ふ、大害なし。

分布 本州、四國、九州、沖繩、臺灣、印度、濠洲。

驅除法 蛾の發生する時期を見計ひ燈火誘殺法を行ひ、幼蟲には石油乳劑を灌注すべし。

(五)はいいろひとり Phissama (Creatonotus) transiens Wk. (第十八圖版(1))

被害植物 柑橘、

特徴 成蟲 體翅灰白色、前翅橫脈の上下に四黑紋ありて長方形に排列す、尙第一室の末端に近き二紋並に第五室の中央に近き一紋は黑色、後翅透明、後緣に四黑紋を連ね、其內緣にある二個は大なり、橫脈の上方に微小の一黑紋を具へ、

觸角の後方は白色、腹部は橙黃色、第二腹節以下各節に三黑紋あり、其內第七節にあるものは長大、體長三分、開張一寸七分。

幼蟲 赤褐色にして黑色を帶び、各節に八個乃至十六個の肉狀突起を具へ、之より暗色の長毛を簇生す、背線、氣門線及び氣門上線は黃色、後者は細く、相斷續す、頭は黑色、中央にY字形の黃色紋あり、胸脚黑色、腹脚は暗色、其末端は黃褐色なり、體長一寸五分。

經過 臺灣にありては幼蟲は柑橘の葉を食害するものなれども其の經過未だ判然せず、被害の最も多きは六月頃にして、成蟲の多きは二三月頃なり、大害なし。

分布 沖繩、臺灣、支那、印度。

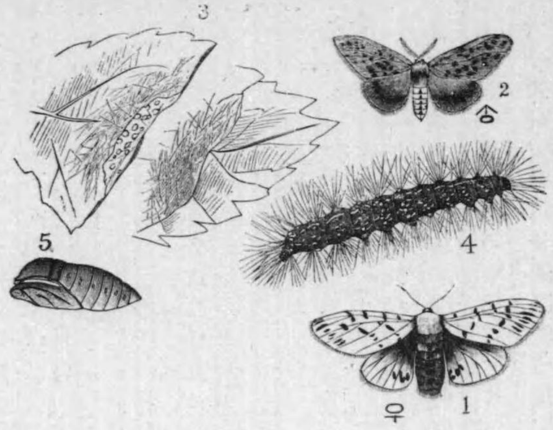
(六)くはごまだらひとり Spilarctia (Spilosoma) imparilis Butl. (第二百九圖)

被害植物 桑、苹樹、梨、梅、杏、李、桃、櫻、須具利、總須具利。

特徴 成蟲 雌雄色を異にす、雌は黃白色、腹部黃色、背上に五個の黑紋あり、翅は黃白色、前翅に三十餘個の暗色紋を具へ、後翅の內緣角に近く又同樣の黑紋あり、體長六分、開張一寸八分、雄は體、翅共に暗黑色、腹部及び前胸は橙黃色、腹背に

第二百九圖
くはごだまひらとり

(1) 成蟲(雄)
(2) 同(雌)
(3) 卵塊
(4) 幼蟲
(5) 蛹



經過 年一回發生す、幼蟲は第二回の脱皮を經て樹の裂目若くは樹皮の間隙に入りて越年し、翌春更に二回の脱皮を終へ、暗色の粗繭を造り葉を捲きて其内に蛹化し、七月下旬蛾化す、蛾は卵子を葉下に集合して產下し、黄色の體毛を以て之を掩ふ、其數三百内外、幼蟲は集合する性あり。

分布 北海道・本州

驅除法 幼蟲を驅除するには石油乳劑を用ひ、成蟲には燈火誘殺法を行ふべし又卵塊を搜索すべし、晩秋根際に牧草其他藁の如きものを布きて潛伏場を造り、幼蟲を誘引して早春之を燒き棄つべし。

(七) しうすすぢもんひとり Spilarctia obliqua Wk. (第十八圖版(12))

被害植物 桑・棉。

特徴 成蟲 前翅淡黄褐乃至灰黄色、翅端より後緣の中央に向て暗色線を斜走し、外緣に黑紋を散在するものあり、後翅の中央は淡色、中室外の一紋、後緣にある一紋乃至四紋并に外緣にある一紋は黑色、體は翅と同色、腹部は紅色、各節に黑紋を裝ふ、體長五分乃至六分、開張一寸五六分。

幼蟲 體は灰褐色にして綠色を帶ぶ、褐色の長毛あり、頭は黄褐色、硬皮板は淡黄褐色、背線(細く)及び氣門上線は淡色、各節に十個乃至十六個灰色の疣狀突起ありて、之より長毛を生ず、胸脚は淡褐色、腹脚は橙黄色を呈す、體長一寸四分。

經過 臺灣にては蛾は四月頃現はれて、葉裏に產卵し、卵塊は體毛を以て蔽はる。

蛹化當時は群居すれども、第二齡より分散す、老熟すれば地上に降り灰色の粗繭を造りて蛹化す、蛹は紫暗色、尾端には十二本内外の短き尾刺あり、體長六分、幼蟲は初め葉肉のみを食すれども、次第に全葉を食し、唯だ中脈のみを殘留するに至る、其數餘り多からず。

分布　北海道・本州・九州・臺灣・支那。

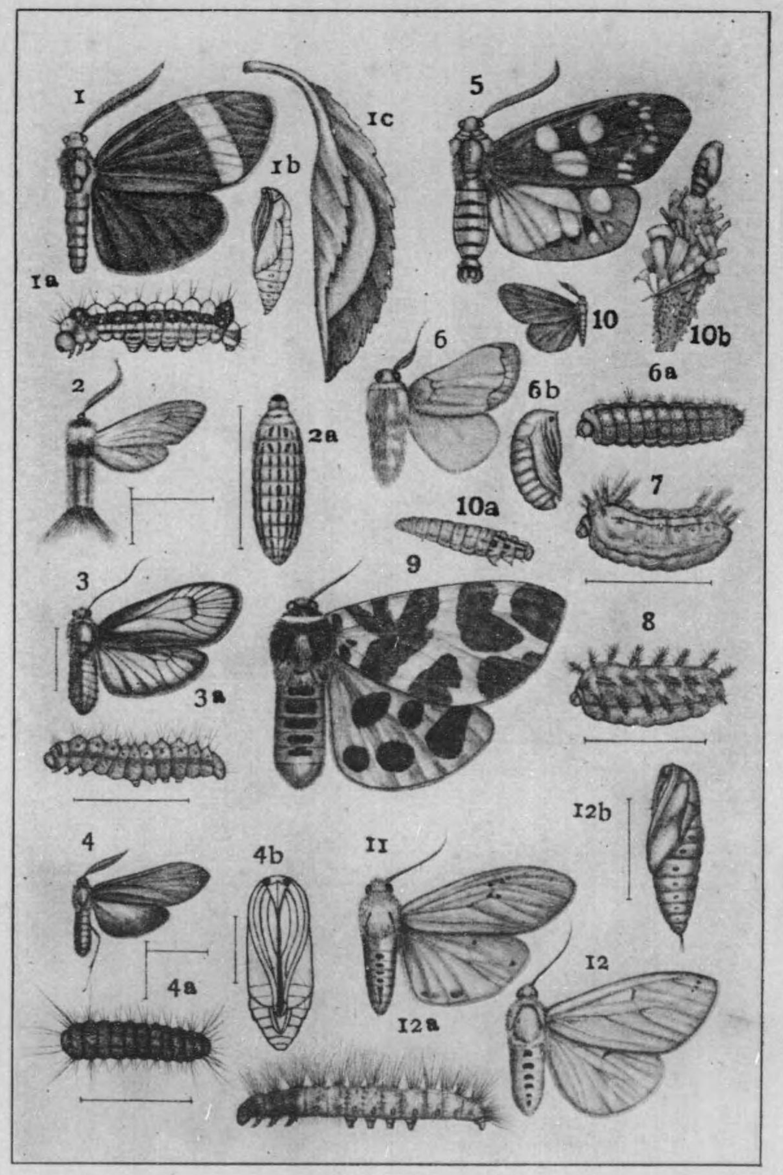
(八)はらあかひとり　Spilarctia sulcarnea Wk.（第十九圖版(1)）

被害植物　桑。

特徵　成蟲　體翅白色、前翅少はしく黄色を呈し、中室前角の一點、翅の三紋並に後緣の中央にある四紋（前紋と共に一直線上にあり）は黑色、尙黑色の一點を第一脈の基部に裝ふことあり、後翅中室の前角にも一黑紋あり、裏面にては前翅の前緣に二個、前緣角を二分する斜條（此は點線より成る）並に後翅の三紋は黑色、下唇鬚は黑色、基部は紅色、腹背は基部を除き紅色、各節に四個の黑紋あり、前肢の基節又び腿節は紅色、體長五分五厘、開長一寸二分乃至一寸八分。

幼蟲　體は淡黄褐色、頭は黑色、硬皮板は淡褐色、亞背線及び氣門線は暗綠色、各節に十個乃至十六個の灰白疣狀突起ありて、之より數本の赤褐毛を生ず、腹面

第拾八圖



第拾八圖

1. Pidorus glaucopis Drury. ほたるが……P.563
   1a. 幼蟲 *1b.* 蛹 *1c.* 繭
2. Pryeria sinica Moor. みのうすば……P.567
   2a. 幼蟲
3. Illiberis tenuis Butl. まさきすかしくろば……P.569
   3a. 幼蟲
4. Artona funeralis Butl. たけのほそくろば……P.570
   4a. 幼蟲 *4b.* 蛹
5. Heterusia aelea L. おきなはるりちらし……P.565
6. Parasa consocia Wk. あをいらが……P.557
   6a. 幼蟲 *6b.* 蛹
7. Parasa sinica Moor. くろしたあをいらが……P.558
8. Miresia inornata Wk. なしいがら（幼蟲）……P.559
9. Arctia caja L. ひとりが……P.571
10. Pachytelia (Psyche) unicolor Hufn. みのが……P.556
    10a. 幼蟲 *10b.* 蓑ト蛹
11. Phissama (Creatonotus) transiens Wk. はいいろひとり……P.576
12. Spilarctia obliqua Wk. うすすぢもんひとり……P.579
    12a. 幼蟲 *12b.* 蛹

幼蟲體は淡黄褐色頭は黒色節に十個乃至十六個の灰白疣狀突起ありて之より數本の赤褐毛を生ず腹面

は暗褐色、胸脚並に腹脚の末端は暗色、體長一寸三分内外、

經過 前種と同じく臺灣にありては三月及び九月最も多く發生すと云ふ、

分布 九州・臺灣。

(九) さらさひとり Camptoloma interioratum Wk. (第十九圖版(2))

被害植物 櫟・檜・檜・抱。

特徴 成蟲 體翅橙黄色、前翅に六條ありて、翅底に近き三條は斜走し、其内最も外側にあるものは短線となりて中室に位す、翅端に近き三條は稍〻端直、内側の二條は太く、稍〻相平行す、外緣角に黑色の三紋を具ふ、其上の一紋は廣く朱色、後翅は濃色、斑紋を缺く、觸角は黑褐色、翅底鱗に一黑縱條あり、腹部は濃色、尾端に淡紅毛を蔟生す、體長四分、開張一寸二分、

幼蟲 體は褐色、約十四條の灰黄線を縱走す、頭、兩端の硬皮板、胸脚及び腹部の一端は黑色、暗褐色の六縱條を具ふ、各節に暗褐色の疣起八個ありて、之に白毛を生ず、體長一寸二三分、

經過 幼蟲は四五月頃より現はれ、糸を吐き枝間に袋狀の巣を造り、其内に五六十匹相集り、之より出でて葉を食害す、五月下旬より老熟し、葉間若くは土際に

繭を營み、其内に蛹化す、繭は淡黄色、紡錘狀、長さ六分あり、蛹は赤褐色、長さ四分餘あり、大害をなさず、

分布 本洲・九州・支那。

二 苔蛾亞科 Lithosiinae

(10) はがたきこけが Miltochrista calamnia Butl. (第十九圖版(3))

被害植物 藤。

特徴 成蟲 體翅黄色、前翅底の一點、翅底に近き一狀波線、前緣の中央及び中室外側の一點、翅端より後緣の中央に向て斜走せる一波狀線並に外緣の點紋列は黑色、後翅は前翅より少しく淡色、斑紋を缺く、體長二分四厘、開張六分二厘。

幼蟲 淡綠色、亞背線及び氣門下線は黄色、氣門上下の兩線上に各一個の隆起ありて、之より長毛を簇生す、第四又び第五節の背面に各一個長毛の束把を具へ、此等の束把間に黑色の短毛を裝ひ、第一節の背面には赤褐色の長毛刺あり、體長八分。

經過 年一回の發生、幼蟲の有樣にて越年、翌春藤の新芽を食害す、六月乃至八月に亘りて老熟し、根際に下り褐色の薄繭を營み、其内に蛹化す、繭は常に幼蟲の體長を附着せり、蛹は黑褐色、接合部は淡色なり、一月上旬羽化するもの多し、大害なし(佐々木博士による)。

分布 北海道・本洲・九州・滿洲。

(11) たいわんごまだらこけが Miltochrista arcuata Moor.

被害植物 想思樹・壷柑(ザボン)。

特徴 成蟲 前翅は淡黄色、翅底の一點、其外側の三點、中央線(中央にて少しく内方に曲る)其外方にある約十個の黑紋並に外緣の小點列は黑色、後翅は前翅より淡色にして斑紋を缺く、體は淡紅色、腹部は黄色、胸背に黑紋あり、體長二分、開張六分。

經過 幼蟲は三、四、五、六の四ヶ月に亘り葉裏にありて食害するものなるが大害なし、老熟すれば葉裏に結繭し其内に蛹化す、繭は淡黄色、幼蟲の體毛を附着す、二分八厘乃至三分あり、蛹は淡黄色にして紡錘狀をなす(素木博士による)。

分布 臺灣・印度。

附言 前二種は苔蛾亞科に屬するものにして本來は蘚苔を以て食とするも

のならんが、殊に藤其他想思樹の如き樹木を食害するが如き事實は例外と云ふべし。

第二十二　實蛾科 Cymbiidae

(一)わたりんが(わたりんむしが) Earias cupreoviridis Wk. (chromataria Wk.)(第二百十圖)

被害植物　棉。

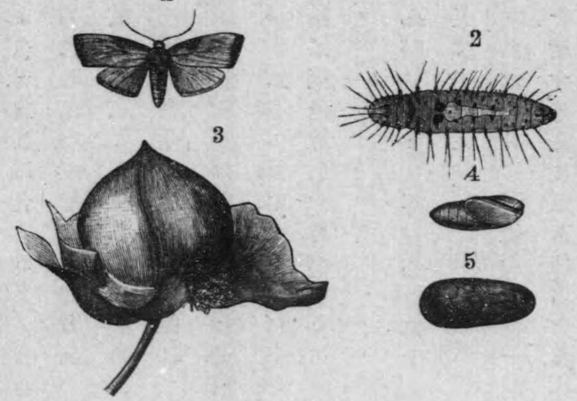
特徴　成蟲　體翅黄綠色、前翅の外緣は黑褐色、其内側は黄色、翅底より翅の中央迄前緣に沿ふて楔狀の暗黄紋あり、緣毛は黑褐色、後翅は白色、光澤を帶び、緣毛の基部少しく暗色を呈す、體長三分、開張七分。

幼蟲　體色は種々にして、灰紫、暗褐、赤褐又は綠褐なるものあり、頭及び硬皮板は黑褐色、背線は青白色、亞背線の處には各節一個の黑色疣起を具へ、第二、第三、第五、第八及び第十一節にある疣起は濃紫色、第四、第六、第九及び第十節にある疣起は白色、第十二節には白疣起の二列あり、體長六分内外。

經過　年一回の發生、蛹の儘越年す、翌春六月下旬乃至七月蛾化す、蛾は卵子を棉實に產下し、之れより孵化したる幼蟲は實中に入りて其心を食害す、普通蕚に

第二百十圖　わたりんが

(1)成蟲 (2)幼蟲 (3)加害の狀況 (4)蛹 (5)繭



接したる所に小孔を穿ち、之より褐色の蟲糞を出す、充分成熟すれば棉實を辭し、棉莖其他の立木に結繭す、蛹の背面は濃褐色、腹面は黄綠色、棉實中には普通二三匹の幼蟲を藏す。

分布　本州・四國・九州・臺灣・印度・爪哇・亞弗利加。

驅除法　蛾を捕ふるには燈火を用ふべし、棉實中にある幼蟲を驅除すること困難なれば、其卵子より孵化して實中に盡入せざる前に亞砒酸鉛の溶液を灌注すべし、其既に實中に入りて食害せるものは蟲糞を出せるを以て之を採り他の實蒴に移らざる樣防禦すべし。

(二)あかまへあをりんが Earias pudicana Stgr. (第十九圖版(5))

被害植物　柳・行李柳。

特徴　成蟲　前翅黃綠色、前緣の基部紅色又黃褐色、中室端に普通紫褐色の一紋あり、外緣及緣毛褐色、後翅は灰白半透明、緣毛は白色、開張七分二三厘。

幼蟲　灰黃色、背線は暗色なれども後方にては明ならず、亞背線は暗紫色、第五及び第八節に暗色の隆起あり、亞背線の下方は紫色を帶ぶ、氣門下線は白色、全面顆粒を散在し、之より短毛を生ず、腹面は灰白色なり、體長五分內外。

經過　年二三回の發生、成蟲若くは蛹にて越年す、幼蟲は主に梢枝の柔軟なる枝葉を綴り其周圍を絹絲にて纏ひ、隧道樣の巢を作り其內にありて食害す、老熟すれば其內に結繭す、繭は白色若くは灰黃色、多少舟形を呈し、上端は開放せり、長さ三分、蛹は褐色、綠色を帶び、背部に暗褐色の廣帶あり、尾突起を缺く。

分布　本州、九州、朝鮮、支那、滿洲。

(三)くさをびりんが　Earias fabia Stoll　(第十九圖版(4))

被害植物　芙蓉・木槿・芙桑。

特徴　前翅灰白色、中央に青綠の太き一縱條を具へ、此縱條は外緣に連るに從ひて其の幅を增す、外緣には黃綠帶を具へ、前緣角は淡綠、後翅は白色半透明、外緣は稍〻淡褐色を帶び、緣毛は白色、開張は六分七厘乃至八分。

幼蟲　暗褐色、背線は灰紫色、後頭は黑色、前緣は暗褐色、其中間にr字形の青白紋あり、第一節の硬皮板は灰紫色、周圍は暗褐色、後硬皮板には十四個の小齒あり、體長五分。

經過　年五回以上の發生、七八月頃最も多し、蛾は蕾、蒴及び心葉に一個づゝ產卵す、卵は淡藍色、白點を散在す、總卵數は百四五十粒、卵は五日乃至一週間を經て孵化す、其蟲入する處は一定せず、二週間乃至一ヶ月を經て老熟し、蒴若くは莖より出で、葉柄と莖との間若くは蒴と蕚との間に結繭す、臺灣に普通なり。

分布　臺灣・支那印度。

第二十三　尺蛾科　Geometriidae

一　えだしやく亞科　Boarmiinae

(一)くはえだしやく　Hemerophila atrineata Butl.　(第二百十一圖)

被害植物　桑。

特徴　成蟲　前翅灰黃色、二條の黑色波狀線を裝ひ、其一は內緣の中央より前緣

第二百十一圖　くはえだしやく
(1) 成蟲(雌)　(2) 卵子　(3) 幼蟲　(4) 蛹

を群布す、外緣は波狀をなし、緣毛は灰褐色、後翅は前翅と同樣の斑紋を裝ひ、中央に一個の黑き橫線あり、外緣は濃色にして少しく褐色を混ず、體長八分乃至一寸、開張一寸六分乃至一寸九分。

幼蟲　體は灰色、背部は少しく黃赤色を帶び、桑樹の皮膚に酷似す、腹面は灰黑點は判然せず、一は之と略〻並行して翅底の內緣より起り、前緣の中央に向ひ中室の中央に於て銳角をなし、前緣に出でずして終る、又翅の中央には太き暗褐色部ありて翅底より外緣に亘る、外緣の上方及び翅底に近き內緣の部分は濃色を呈し、全面黑褐色の短紋角の方向に斜走し、犬牙狀をなし屈曲して前緣に出づれども、其終

色にして、多數の黑紋を散在す、第二節の兩側は突起狀に膨大し、其の中間に一個の黑紋あり、氣門は黃赤色、氣門環は黑色、樹枝に靜止するの狀恰も枯枝に似たり、體長二寸。

經過　年二回の發生、幼蟲は二回の脫皮を終へ樹隙に入りて越年す、翌春新芽を食ひ大害を加ふることあり、更に二回の脫皮を終へ、枯葉を纏めて褐色の粗繭を造り、其中に蛹化す、第一回の蛾は七月上旬、第二回は九月上旬に出づ、枝及び葉に產卵す、卵は初めは青藍色なれども、其孵化期に至れば紫藍色を呈す、蛾は三百內外の卵子を約五回に產下す、其一回の卵數は七十乃至八十個なり、幼蟲は晝間一本の絲を吐き枝狀をなして直立す。

分布　北海道、本州、四國、九州、朝鮮、支那。

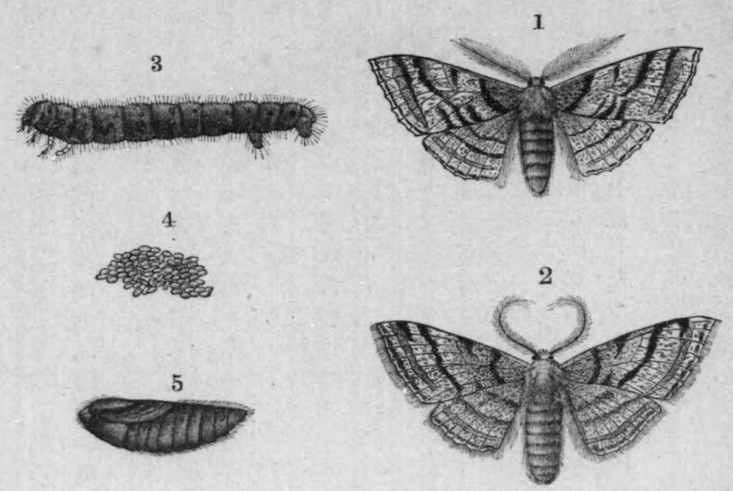
驅除法　晚秋樹幹に藁稈の如きものを纏ひて潛伏場を造り、越年性の幼蟲を誘殺すべし、又蛾の出づる時期を見計らひて燈火誘殺法を行ひ、幼蟲には石油乳劑に二十倍の水を混じたるものを灌注すべし。

(二)ちやえだしやく　Boarmia theae Mats.　(第二百十二圖)

被害植物　茶、山茶。

第二百十二圖　ちやえだしやく

(1) 成蟲(雄)　(2) 同(雌)　(3) 幼蟲　(4) 卵子　(5) 蛹



特徴　成蟲　翅灰色、黒褐色の小紋を散在す、前翅の中央に灰白色の横帶を裝ひ、其兩側に黒褐色の波狀線あり、尙外緣に沿ひ灰白色の太き横線を走らす、後翅の中央に黒褐色の一波狀線ありて、之れは前緣より內緣に達す、尙外緣に近く灰白色の波狀線あり、雄の觸角は甚だしく羽狀をなす、體長五分、開張一寸五分。

幼蟲　體色種々にして、暗綠、赤褐、又暗褐、雲形樣の暗色紋あり、背線、亞背線及び氣門上線は暗黃色、各節には二双の赤褐色隆起を裝ひ、氣門の周圍に赤褐若くは黒色の

小點を具へ、之より短毛を生ず、第五節に一双赤褐色の大なる棘狀突起あり、體長一寸八分。

經過　年一回の發生をなし、卵子にして越年す、京都地方にありては四月上旬孵化す、約六週間にて老熟し、一寸五分內外の地下に入りて蛹化す、四月上旬新芽を食するを以て時に大害を加ふることあり、十一月上旬に羽化し、次で產卵す、卵は初めは暗綠色なれども、後綠褐色に變ず、五六十個相集合して產下せらる。

分布　本州。

驅除法　石油乳劑に二十倍の水を混じたるものを灌注すべし、但し茶の採集期には行ふべからず、蛾は燈火を以て誘殺すべく、又夏日土地を鋤起し其地下に蛹化せるものを地上に曝露すべし、又茶樹に附着しある卵子を搜索すべし

(四) こよつめえだしやく　Boarmia irroratariа Brem. et Grey

被害植物　柑橘・桑・棉・蔬菜。

特徴　成蟲　體翅灰白色、小黒紋を散在す、雄少しく暗色を呈す、前翅に四暗色帶ありて、第一帶は波狀をなし、其內側に更に判然せざる暗色帶あり、第二帶は横脈上を横走し、中室下にありて判然せず、第三帶は細く、稍〻鋸齒狀をなす、第四帶

は太く、後緣に至るに從ひ細まる、中室紋は雌にては星形、其中央は白藍色、外緣に黑點列あり、後翅に四黑帶ありて、第一帶は中室紋と相接し大なり、第二帶鋸齒狀をなし、其外側は淡黃褐色、第三帶は太く、其外側は白色を帶ぶ、外緣に黑點列あること前翅の如し、體長四分五厘乃至三分五厘、開張一寸二分乃至一寸七分。

幼蟲 黃綠色にして、二條の背線、亞背線、氣門上線、二條の腹走線並に基節線は黃白色、何れも斷續せり、第五及び第十二節背上に一双の黑き疣起あり、又第五節の兩側に琵琶狀の黑斑を裝ふ、頭は黑褐色、黑色の顆粒を密布す、各節に八個の黃點を具へ、其中央は何れも黑色にして疣狀をなす、全面に黑色の短線を散在す、胸脚は赤色、其前方に黑斑あり、體長一寸七分內外。

經過 年一回の發生、成蟲は七月乃至八月に現はる、其產卵の狀未だ判然せず、幼蟲は五六月頃最も多く、晝間は技幹に靜止し、其狀宛然小枝の如し、老熟すれば地中に入りて蛹化す、本邦何れの地にも普通なり。

分布 北海道・本州・臺灣・朝鮮・支那・滿州。

(四) はみすぢえだしやく Boarmia roboraria Schiff. var. infuscata Stgr. (第二十九圖版(1))

被害植物 苹樹・榧。

特徵 成蟲 體翅灰白色、前翅に四條の黑帶あ〻て、第一帶は稍〻弓狀、第二帶は橫脈上を走り、後緣にて太し、第三帶は細く波狀を呈し、外側には暗色紋を裝ふ、第四帶は太く、少しく波狀をなし、其外側に白紋を裝ふ、全面に暗色の短線を密布す、各室の末端に一黑紋を具へ、緣毛は灰黃色、後翅に三黑帶あり、第一帶は端直にして太く、第二帶は波狀をなし、其外側に更に暗色の橫帶あり、第三帶は波狀にして太く、第四室の所に至りてく字形に曲る、體長七分、開張一寸八分乃至二寸。

幼蟲 頭は暗褐色、兩側に短き角狀の一突起あり、體は褐色、黃色及び黑色の紋條ありて不規則に排置せらる、背線及び氣門上線は暗色なれども判然せず、氣門は白色、黑圈を有するを以て判然す、疣起は小にして黑色、第五・六節の兩節に一大突起を具へ、第六腹面節に黑色の二瘤起を裝ひ、第十一節にも黑色の二突起あり、腹面には暗色の判然せざる二縱條あり、體長一寸八分乃至二寸。

經過 年一回の發生、幼蟲の有樣にて越年、翌春五月頃より現はれ、苹樹・榧等の葉を食害す、老熟すれば土中に入り蛹化す、蛹は赤褐色にして光澤を帶び、尾突起

は二分し少しく外方に開く、蛹期は三週間内外、七八月の頃羽化す、大害あるを知らず。

尙此屬に係るものにして本邦及び臺灣に產する害蟲は左の七種なり、然れども大害なし。

(五)くすえだしやく Boarmia acaciaria Boisd.

被害植物 樟。

特徵 成蟲 體灰褐色、前翅白色、翅底及び末端の大部灰色、黑線を混ず、中室に腎狀紋あり、前後兩橫線は黑色の波狀をなす、後翅の中室にも腎狀紋を具へ、翅端の半部は灰褐色、開張一寸六分。

幼蟲 綠色若くは褐色、第五節に末端にて分叉せる一双の突起を具へ、第十一節に一双の白紋あり、胸側及び尾端の側面に黑點を散在す、頭及び脚は赤褐色、體長一寸六分、大害なし。

分布 臺灣・支那・印度・濠洲。

(六)しなとびすぢえだしやく Boarmia consonaria Hb.

被害植物 椈(ブナ)・田麻(シナ)・樺・榿。

特徵 成蟲 前翅灰色、暗色の小點を密布す、紋條暗褐色、前翅の中後兩橫線は斷續し、後翅にては中橫線判然し波狀をなす、前翅の波狀線は灰白色なり、開張一寸一分內外。

幼蟲 細長、綠黃若くは黃褐色、頭は褐色、大形、背線は黃白色、疣起は黑色、第十一節の前方にある二突起は判然す、氣門は白色、黑圈を有す、體長一寸內外、蛹にて地中に越年、幼蟲は六月最も多く、四五月に亘りて羽化す。

分布 本州・滿洲・歐洲。

(七)うすばみすぢえだしやく Boarmia consortaria F.

被害植物 苹樹・榿・樺・木蕣・柳。

特徵 成蟲 前翅灰色、暗點を密布す、紋條褐色、橫線は何れも波狀をなし、殊に後橫線及び波狀線は犬牙狀を呈し、其の兩側灰白色、中室紋はく字形をなし、腹部は黃色、開張一寸三分內外。

幼蟲 灰褐色にして少しく綠色を帶び、背線は暗色、褐色の橫皺多し、各節の接合部は藍色を帶び、兩側に大なる褐色の紋列あり、第五節には瘤狀突起を裝ふ、體長一寸三分內外、蛹は地中にあり。

分布　本州・朝鮮・滿洲・歐洲。

(八)どろとびすぢえだしやく Boarmia crepuscularia Hb.

被害植物　白楊・柳・樺・苹樹。

特徴　成蟲　灰色、前翅の横線暗褐色、中央にあるものは波狀をなし、其外側の一圓褐色、波狀線の兩側灰白色、後翅の三帶は判然し、何れも波狀をなし、全面に暗褐色點を密布す、開張一寸内外。

幼蟲　柳にては綠褐色、白楊にては灰綠色、赤楊にては灰褐色、楡にては淡綠色、頭は褐色、兩側に黑紋あり、背線は一双にして細く灰黑色、第十一節に赤黃色の横隆ありて、其後方は黑色、體長一寸二分内外、蛹は地中にあり。

分布　本州・滿洲・歐洲。

(九)しろもんきえだしやく Boarmia luridata Bkh.

被害植物　樺・榉・赤楊・榛(ハシバミ)。

特徴　成蟲　前翅は灰黃色、暗色點を密布す、横帶は太くして暗色、前横線はく字形を呈し、波狀線は犬牙狀をなし、外側は灰白色なり、尙第五脈の處に灰白色の一紋あり、後翅に判然せる横帶を缺き、波狀線は灰黃色、開張九分内外。

幼蟲　赤褐細形、淡色の背線あれども判然せず、第四節に二白黃紋あり、第四、五節の疣起は黑色、少しく隆起す、第八節の疣起は大なり、體長一寸内外、蛹は地中にあり。

分布　北海道・本州・滿洲・歐洲。

(一〇)はんのとびすぢえだしやく Boarmia punctularia Hb.

被害植物　赤楊・樺。

特徴　成蟲　體翅灰色、前翅の四帶暗色にして太く、何れも波狀をなし、其内波狀線最も太く、其外側灰白色、全面に暗色點を散在す、開張八分内外。

幼蟲　赤褐色、頭は褐色、背上は淡色、各節の中央に環狀の暗褐色紋あり、背線は黃白にして細く、其兩側は黑線にて緣取らる、亞背線は黃白にして細く、疣起は黑色にして小なり、體長七八分、蛹は地中にあり。

分布　本州・滿洲・西比利亞・歐洲。

(一一)まつえだしやく Boarmia secundaria Hb.

被害植物　櫟(トドマツ)・樅。

特徴　成蟲　翅灰黃色、紋條暗色、小褐色の斑點を密布す、前横線弓狀をなし、中横

線は前線の半部に至りて明ならず、後縁にて後横線と相近接す、後横線は波狀をなし、波狀線と稍〻平行す、何れも其外側は灰黄色、後翅に三帶ありて、中横線は波狀をなす、何れも前翅帶よりも細し、開張一寸八分内外。

幼蟲　赤褐色、背線は一双にして黑色、亞背線は廣くして黑色、各節の背上に菱形の暗色紋あり、體長一寸内外、蛹は地中にあり、蛹は赤褐にして尾端の剛刺は尖り、薄き繭中にあり。

分布　北海道・本州・歐洲。

(三)りんごえだしやく　Biston (Amraica) tendinosaria Brem.　(第二百十三圖)

被害植物　苹樹。(桑?)

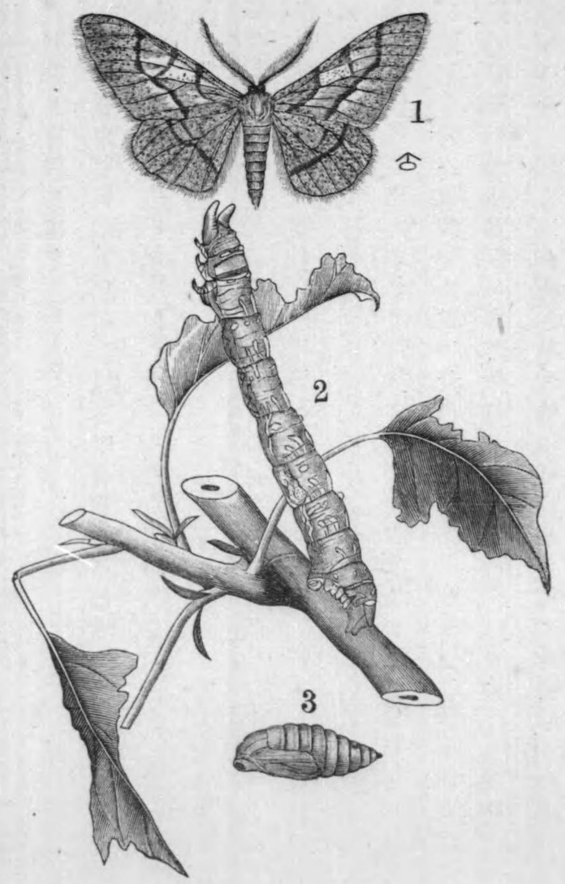
特徴　成蟲　翅灰白色、小黑紋を散在す、前翅に二個の黑條を横走し、翅底に近き線は判然せず、外方にあるものは後縁の中央より起り、少しく弓狀をなして前縁に達す、前縁の中央に近く一黑點あれども雌にては判然せず、後翅に一個の黑帶あり、體長六分五厘乃至七分五厘、開張一寸七分乃至二寸三分。

幼蟲　體は赤褐若くは綠褐色、頭黄褐色、頭に鬼角樣の二突起あり、第一、第三、第七及び第十節の背上に各二個の瘤狀突起を具へ、第八節には四個を裝ふ、尙各

節に黄褐色の瘤狀突起あれども前者の如く大ならず、氣門は黄褐色なり、體長二寸四分。

第二百十三圖　りんごえだしやく

(1)成蟲　(2)幼蟲　(3)蛹



經過　年一回の發生、蛹にて地中に越年す、七月上旬蛾化し、蛾は四百内外の卵子

を點々產下す、卵は淡褐色、稚木にあらざれば大害をなさず、桑の尺蠖の如く晝間は枝上に直立す。

分布　北海道・本州・朝鮮・滿洲。

驅除法　蛾は燈火を以て誘殺し、幼蟲には石油乳劑を用ふべし。

(三)くろづえだしやく Biston marginata Mats. (第十九圖版(7))

被害植物　茶・苺・想思樹。

特徵　成蟲　翅灰白色、暗色點を散在す、翅底に近き一橫線、三分の二の處にある一波狀線並に外緣は廣く暗色、後翅の中央に暗色の二帶ありて、何れも第六脈に達せず、外緣は廣く暗色なり、前後翅の中央にある一暗色紋は表面にては餘り判然せざれども裏面にては判然す、頭は黃白色、顏は黑色、胸背には白色と黑色との兩毛を裝ふ、稜狀部の處に黃色の毛塊あり、腹部は灰色、尾端に褐色毛あり、體長五分乃至六分、開張一寸六分乃至二寸。

幼蟲　體は黃綠若くは淡褐色、後者は黑褐色の小紋を散在す、頭の兩側に角樣の二突起あり、尾節の背面は三角形をなし、其腹面に三個の附屬物ありて其末端尖小す、全體に短毛を粗生す、體長二寸內外。

經過　年一回の發生、蛾は三月中旬より發生、卵は不規則に重疊して產附せられ、體毛を以て之を蔽ふ、孵化すれば分散して集合することなし、葉を食害し、甚だしき時は全木綠葉を見ざることあり、其色樹枝に似たるを以て發見することを難し、老熟すれば地中に入り、地下五分乃至一寸內外の處にありて蛹化す、大害を加ふることとあり。

分布　臺灣。

(四)とびもんおほえだしやく Biston (Amraica) robustum Butl. (第十九圖版(8))

被害植物　柊(ヒサガキ)・樟。

特徵　成蟲　體翅暗色、前翅に三黑波狀線ありて、第三線と第二線と第一脈の所にて接觸し、第五脈の處にて く字形に屈折す、其外方にも同樣の波狀線ありて、中室の處にて く字形に屈折す、小さき黑褐色の斑點を散在す、觸角は淡黃褐色、頭及び頸は灰白色、前頭は黑褐色、體長八分乃至一寸、開張一寸七分乃至二寸七分。

幼蟲　體は暗灰色にして紫色を帶び、頭は褐色を帶ぶ、兩側に短き角樣の一突起を具へ、之に顆粒突起を密布す、第一節の左右に一突起を具へ、第十一節の左

右には褐色の一突起あり、體長三寸三分。

經過 年一回の發生、蛹にて地中に越年、中國地方にては翌年三月の初めに至りて羽化す、幼蟲は四月より現はれ食害す、八月下旬に至りて老熟し、地中に入りて蛹化す、蛹は黑褐色、前胸の兩側に耳樣の一突起ありて、尾刺は二分す、體長一寸餘、卵は綠灰色にして饅頭狀を呈し、樹幹の粗皮上に產下せらる、一雌の總產卵數二三千粒なり。其害大ならず。

分布 本州。

(一五)**おほしもふりえだしやく** Amphydasis betularia L. (第十九圖版(9))

被害植物 苹樹・楡・樺・柳・椈(ブナ)・櫟・扑等。

特徵 成蟲 翅灰白色、小暗色紋を散在す、前翅三分の一の所にある一斜帶、橫脈上の一短橫線並に外線の三分の二の處にある一波狀線は暗色、外線は第五脈の所にて〻字形に曲る、尙翅端に近く一暗色紋あり、後翅三分の二の所に波狀の一暗色帶ありて、第五脈の所にて〻字形に曲る、雄の觸角は甚だしく羽狀を呈し、末端は黃褐色、羽狀毛を缺く、頭は灰白色、他は灰色、腹部に褐色紋あり、體長五分乃至六分、開張一寸五分乃至二寸三分。

幼蟲 體は黃綠色、黑白の小紋を散在す、頭は灰褐色、鬼角狀の二突起あり、各節の背面に矢笹樣の暗色紋を具へ、亞背線上には二個、氣門上下の線上には各一個、氣門の後側には各一個の黑き突起を裝ふ、第四、第七、第八幷に第十一節にある突起は大にして灰褐色を呈す、胸脚は灰褐色、體長大なるものは二寸五六分あり。

經過 年一回の發生、蛹にて地中に越年す、五月乃至八月羽化す、卵は綠色、楕圓形、幼蟲は五月頃より現はれ葉を食害す、早きものは六月中旬より老熟し、地中に入りて蛹化す、蛹は黑褐色、光澤を帶び、尾端に分叉せる一突起を有す、歐洲にては八月より十月に亘りて幼蟲を見得べしと云ふ、札幌地方にありても成蟲の現はる時期は八月中旬にして、隨て幼蟲の出づる時期も亦遲し、其數少きを以て大害なし。

分布 北海道・本州・歐洲。

(一六)**くはとげえだしやく** Acanthocampa (Zamacra) albofasciaria Leech (第二百十四圖)

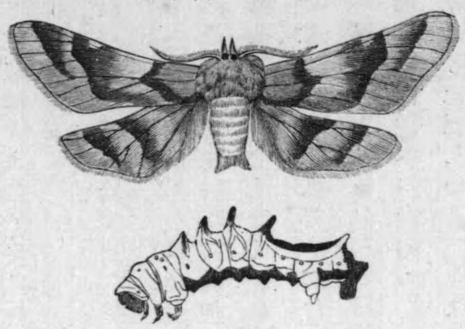
被害植物 桑。

特徵 成蟲 翅灰白色、暗黑色の橫線を具へ、赤褐色紋を散在す、雄前翅は翅底に

近く鋭角をなして曲折する横線を具へ、翅の中央に稍〻弓狀に近き細形の横線あり、又其兩側に二條の太き横線ありて、内方にあるものは多少波狀をなし、外方のものは前緣に至るに從ひ膨大す、外緣は暗黑色にして凹凸あり、後翅は小、二横線中央を横走し、外方のものは太し、雌の前翅に於ける横線は雄と少しく異なりて、翅底に近きものは波狀をなし、其外側にある横線と殆んど相接近す、頭及び體は灰褐色にして、胸背に黄褐色の毛を裝ふ、體長五分、開長一寸四分。

第二百十四圖　くはとけえだしやく

(1) 成蟲　(2) 幼蟲



幼蟲　體色は種々にして、綠、赤褐又は黑褐なるものあり、頭及び硬皮板は褐色、終りの四五節の兩側に太き黄白色の縱條あり、第四、第五、第六、第七及び第十節には太き棘狀突起ありて、初めの四個は少しく黄白色を帶び、第十一節にあるものは全く黄白色なり、尙尾端にも二個の棘狀突起あり、體長一寸五分。

經過　年一回の發生をなし、蛹にて越年す、繭は暗色にして常に土中にありて根

部に附着す、普通數個相集れり、翌春三月中旬乃至四月下旬に蛾化す、蛾は數百の卵子を樹枝に集合して産下す、幼蟲は孵化したる當時にありては黑褐色にして、其形狀の異樣なる、恰も鳥糞の葉上にあるが如し、成長するに從ひ固有の綠色を呈し、發見し難し。

分布　本州。

驅除法　春秋二期根邊を搜索し集合せる數個の蛹を捕ふべし、幼蟲には石油乳劑を用ふべし、卵子は注意して搜索すべく、又早春桑園を視察して蛾の發生せるものを搜索すべし、尙札幌地方に之れに酷似せる「をかもととげにだしやく」A. okamotonis Mats. と稱するものあり、同じく桑を害す。

(一七) うすばふゆしやく　Anisopteryx membranaria Christ. (第二十圖版(2))

被害植物　桃李樹。

特徵　成蟲　雄の體翅は灰色、少しく赤褐色を帶ぶ、前翅中央の一紋、中室の一紋、三分の二の處にある一帶及び翅端の一紋は暗褐色、横帶の脈に當る處は濃色、外緣は細く黑褐色、緣毛は長し、後翅は灰白色、中室點及び脈の終點は黑褐色、内緣の中央に判然せざる暗色紋を裝ふ、體長二分五厘乃至三分、開張一寸乃至一

寸二分、雌翅は退化す、灰色にして尾端に長毛を簇生す、體長二分五厘。

幼蟲　體は綠色、亞背線及び氣門上下の兩線は淡黃色、細長にして長さ七分內外。

經過　年一回の發生、卵子にて越年、幼蟲四月上旬より現はれ、新芽を食害す、四月下旬乃至五月上旬に至りて老熟し、幹枝を降りて地中に入り、楕圓形の一繭を造り、其內に蛹化す、繭は長さ三分、常に土塊にて蔽はる、蛹は紡錘狀、帶黃綠色、長さ二分五厘あり、十二月上旬に至りて羽化す、雌は百數十粒の卵子を集合して樹皮の破目等に產卵す、其形割合に大なり。

分布　北海道・本州・滿洲。

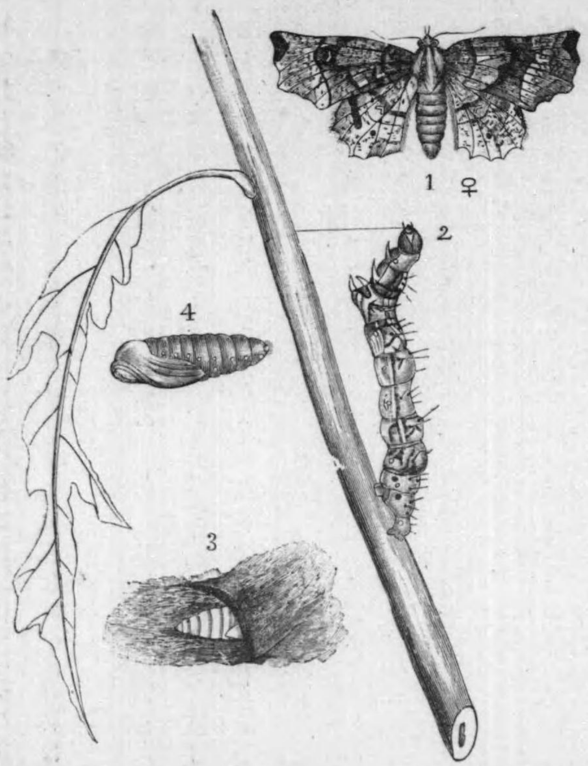
(八)むらさきえだしやく Selenia tetralunaria Hb. (第二百十五圖)

被害植物　苹樹・梨・櫻・李。

特徵　成蟲　翅は紫褐色、翅底の大半及び前翅の前緣角は濃色、各翅に一個弦月形の白紋あり、前翅には濃色なる二橫線ありて稍〻翅面を三等分す、一は底翅を走り、他は濃色部を限とし外緣に近く前橫線と並行す、尙前翅の弦月紋より後翅の同樣紋を通じて半圓形を畫ける濃色部あり、後翅の中央にも濃色の橫

第二百十五圖　むらさきえだしやく

(1)成蟲　(2)幼蟲　(3·4)蛹



線ありて、其中程の下方に同色の圓紋あり、其他翅の處々に小斑紋を散在す、體は黃褐色、胸背及び頭上は少しく紫色を混ず、體長五分、開張一寸二分。

幼蟲　體色には暗褐なるものと、灰黃にして紫色を帶びたるものとあり、體の前半は細く、尾節に至るに從ひ增大す、第四、第五、第七、第八節に於ける背上には各二個の突起ありて、殊に第

七節に於けるものは大なり、體の處々に粗毛あり、頭灰黃色、氣門白色、黑環あり、胸脚の前方には黑紋を具へ、第四節より第八節に亘る背線は黃色にして判然せり。

經過 年二回發生す、第一回は六月、第二回は八月、蛹にて越年す、蛹は赤褐色、蛹化するときは樹幹の空隙にありて絲を吐き、木屑を纏ひて粗繭を造る、蛾は卵子を點々枝葉に產下す、卵は長卵形、初めは綠色なるも、孵化する頃に至れば赤褐色に變ず。

分布 北海道、本州、歐洲。

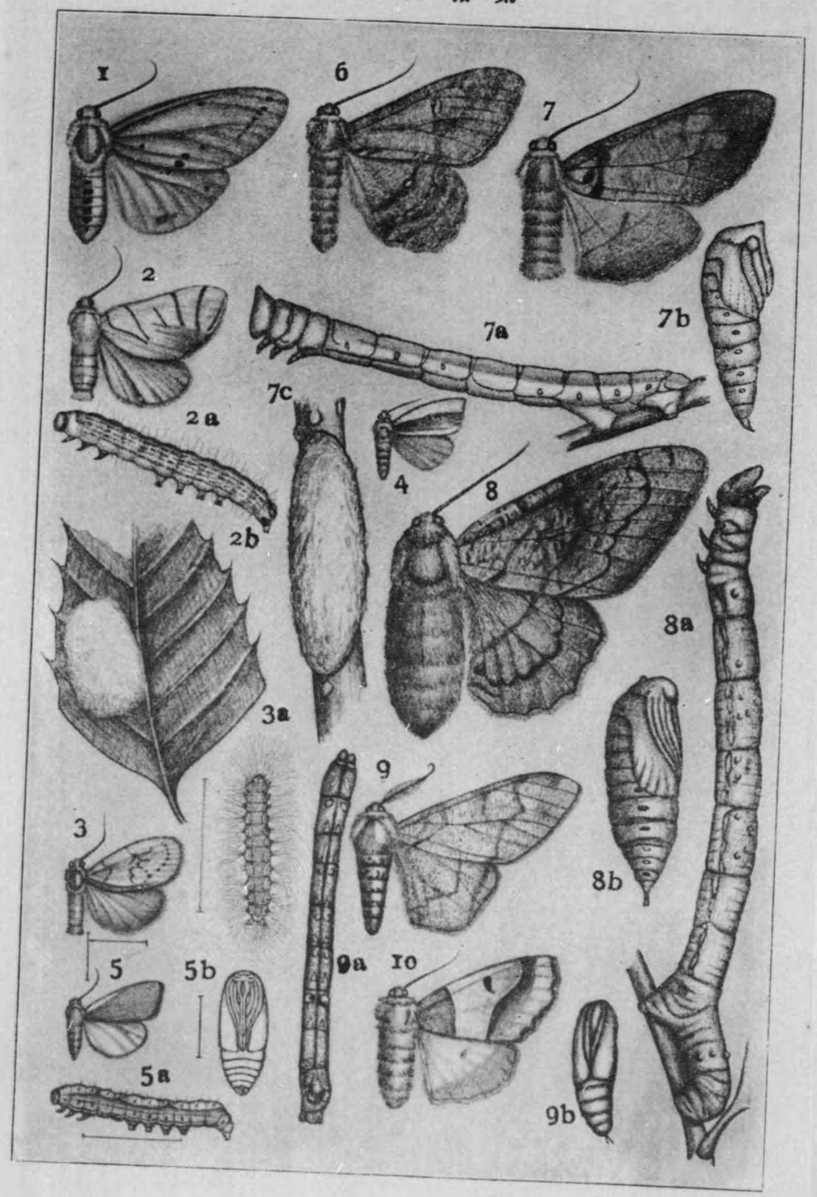
驅除法 蛾には燈火誘殺を行ふべし、蛹を搜索すべし、幼蟲には石油乳劑を用ふ

(元) **にとべえだしやく** Gonodontis nitobei Mats. (第十九圖版(10))

被害植物 苹樹。

特徵 成蟲 體翅暗褐、光線の工合にて少しく紫色を現はす、前翅の中央は灰白色、其兩緣は淡色、之に小暗色斑を疎に散在し、橫脈上に暗褐色紋を裝ふ、外緣にある暗褐色部の大半は灰色を帶び、之に暗色の小點を粗布す、外緣は鋸齒狀をなし、光澤を有す、後翅は灰白色、外緣の三分の一は暗褐色、橫脈上に暗色紋を裝

第拾九圖



第拾九圖

1. Spilarctia subcarnea Wk. はらあかひとり P.580
2. Camptoloma interioratum Wk. さらさひとり P.581
   2a. 幼蟲 *2b.* 卵塊
3. Miltochrista calamnia Butl. はがたきこけが P.582
   3a. 幼蟲
4. Earias fabia Stoll. くさをびりんが P.586
5. Earias pudicana Stgr. あかまへあをりんが P.585
   5a. 幼蟲 *5b.* 蛹
6. Boarmia irrorataria Brem. et Grey. こよつめえだしやく P.591
7. Biston marginata Mats. ろくづえだしやく P.600
   7a. 幼蟲 *7b.* 蛹 *7c.* 卵塊
8. Biston robustum Butl. とびもんおほえだしやく P.601
   8a. 幼蟲 *8b.* 蛹
9. Amphidasis betularia L. おほしもふりえだしやく P.602
   9a. 幼蟲 *9b.* 蛹
10. Gonodontis nitobei Mats. にとべえだしやく P.608

特徴 成蟲 體翅暗褐光澤の工合にて少しく紫色を現はす前翅の中央は灰色、其兩緣は淡色、之に小暗色斑を疎に散在し、横脈上に暗褐色紋を裝ふ、外緣にある暗褐色部の大半は灰色を帶び、之に暗色の小點を粗布す、外緣は鋸齒狀をなし、光澤を有す、後翅は灰白色、外緣の三分の一は暗褐色、横脈上に暗色紋を裝

ふ、觸角及び腹節は灰白色、體長五分五厘、開張一寸四分。

幼蟲　體は青白色、白粉を撒布す、圓柱形、徑一分内外、頭割合に小、第三齡位の頃は體を蛇狀に曲げ、白粉多きを以て一見鋸蜂の幼蟲に似たり、體長一寸七八分。

經過　年一回の發生、九月に至りて成蟲現はる、卵は未だ發見せられずと雖も、卵子にて越年するものゝ如し、幼蟲は五六月頃より現はれ新芽を食害す、常に枝より葉に亘りて靜止す、約四十日間にて老熟し地中に入りて蛹化す、蛹は暗色、腹面稍〻淡色、長さ約六分、其數少なし、大害あるを知らず。

分布　本州。

(10) のこめえだしやく Ennomos alniaria L.（第二十圖版(6)）

被害植物　赤楊（はんのき）・柳・菩提樹・樺。

特徵　成蟲　體翅黃褐色、前翅に二暗褐色帶ありて稍〻翅面を三等分し、全面に暗褐色の小斑を散在す、雄は横脈上に暗色紋を有す、翅端は一層濃色、外緣に凸凹多く、其凹陷部の緣毛は白色、第四脈甚だしく突出す、後翅の中央に不明の一帶を具へ、全面に暗褐色の小斑を散在す、外緣に凸凹多く、第四脈突出す、體長六分、開張一寸三分乃至一寸六分。

幼蟲　暗褐色若くは赤褐色、背線は斷續せる黄色紋若くは黄線によりて代表せらる、亞背線及び氣門線は判然せず、疣起は暗褐色にして小、第二節、第五節、第六節及び終りの三節にある疣起は大にして稍〻圓錐形を呈す、頭は灰褐色、黑線にて縁取られたる白色の横線あり、腹面には判然せざる四黄條あり、胸脚は褐色、腹脚には黄斑あり、體長一寸四五分。

經過　年一回の發生、卵にて越年するもの丶如し、幼蟲は六月より七月に亘りて現はれ、老熟すれば地中に入りて蛹化す、蛹は暗褐色、背上に凸凹多く、尾突起は圓錐形にして末端尖小す、七月乃至九月に亘りて羽化す、卵子は梨形にして暗褐色、大害なし。

分布　北海道・本州・歐洲。

(三) **きりばえだしやく** Ennomos autumnaria Wern. (第二十圖版(3))

被害植物　樺・赤楊。

特徴　成蟲　前種に酷似すれども、淡黄褐色にて少しく大前翅二帶を缺き、暗褐紋を散在す、翅端に近き前縁に暗褐色の短横線を裝ひ、前縁より第五脈に達す、外縁の凹凸は淺く、第四脈は餘り延長せず、後翅の中央に暗褐色紋を裝ひ、外縁

の半部には暗褐色の小斑を散在す、體長七分、開張一寸六分乃至一寸八分。

幼蟲　灰褐色、一双の背線、細き亞背線及び氣門線は黄色、黑色の第一節にては判然すれども、他節にありては餘り判然せず、殊に背線の如きは後半にて點線により代表せらる、亞背線の中央には少しく暗色をなせる部分あり、第五節に黑色の一横隆起を具へ、第八節の後方にある二突起及び第一節の前方にある二突起の末端は黑色、第五及び第六節の兩側に大なる黑色の疣起を具へ、氣門は黑色、褐色圈あり、頭は淡黄褐色、口部の上方に白色の横紋ありて中央にて遮斷せらる、體長一寸七分乃至二寸。

經過　同前、卵子は楕圓形にして緑褐色、白縁を有す、數列に産下せらる、蛹は繭く、尾突起には棘狀突起を裝ふ、緑白若くは黄白色にして、暗色の細線を有す、蛾は八月乃至十月に亘りて現はる。

分布　北海道・本州・歐洲。

(三) **いちもじえだしやく** Hygrochroa syringaria L. (第二十圖版(5))

被害植物　水蠟樹・忍冬・はしどひ・らいらつく。

特徴　成蟲　體翅黄褐色、前翅廣く、中央並に翅端に近き〻字形の斑紋は桃色を

帶びたる灰白色、第六脈の中央より後緣の中央に向て黑褐色の二條を送り、其外側のものは第三脈より後緣に至る迄灰白色、此兩線は何れも後翅に連續す、前緣外方の三分の一は灰色、翅面に褐色の小紋を散在し、外緣は稍弓狀をなし、翅端は淺く弓狀に刳らる、後翅の中央には前翅より連續せる二橫條を具へ、外側にあるものは灰白色なれども、中央にて少しく淡褐を呈し、之に三四個の褐色紋を列するものあり、外緣は少しく波狀をなす、體長四分乃至五分、開張一寸四分乃至一寸六分。

幼蟲　頭は褐色、體は黃色、灰黃若くは赤黃色、背線は黑色なれども、第一節にてのみ判然す、亞線背は一雙にして細く白色、第一節より第三節までは次第に相遠ざかり、之より以下各節にて弓狀となり、第九節より第十二節迄後方に至るに從ひ次第に相近接す、背面は暗色を帶び、第五及び第六節の疣狀突起は栓狀を呈し、第七節には外方及び後方に曲れる長き二突起を具へ、他節には黑色の疣起あり、硬皮板は體と同色、氣門線は黃色、初めの二節てに判然す、腹面に黑縱條あり、腹脚の外側は黑色、體長一寸二三分。

經過　年一回の發生、卵子にて越年するものゝ如し、幼蟲は四五月頃より現はれ

『いぼた』『はしどい』『にんどう』等の葉を食す、靜止の時は全身を蛇樣に後方に曲げ、一見一種葉蜂の幼蟲の觀をなす、老熟すれば薄き繭を營み其內に蛹化す、蛹は黃褐色にして中央太く、尾突起は短大なり、六月乃至八月に亘りて羽化す。

分布　北海道・本州・歐洲。

(三)まへきとびえだしやく　Caberodes formosa Butl.（第二十圖版(6)）

被害植物　いぬつげ。

特徵　成蟲　體翅紫褐色、前翅前緣の中央は黃色、半瓢簞形を呈し、翅端には黃色の一紋を裝ふ、翅の中央は赤褐色を帶び、之に濃色の短線を散在す、尙翅底及び翅端にも短線あり、後翅の中央並に翅底に近き一圓は赤褐色、緣毛は前後翅を通じて光澤ある紫褐色、裏面は灰黃色、頭頂及び觸角は黃色、體長三分、開張八分五厘。

幼蟲　頭は灰色、體は淡き灰綠色、側面は暗綠色、第一節乃至第七節の背面には黃色點を橫列し、第四節乃至第十二節には黑色の六疣起を具へ、第四乃至第八節の前緣には各一個の黑紋を裝ふ、體長七分三厘。

經過　年二回の發生、卵子にて越年するものゝ如し、幼蟲は四五月頃より現はれ、『いぬつげ』の葉を食害す、其性活潑にして物に驚くときは絲を引きて地上に落つ、五月下旬より考熟し、地中に入りて蛹化し、次いで蛾化す、第二回の發生は九月乃至十月なり、四國にては五月上旬に蛾化するを見る。

分布　本州・四國。

(二四) **すももえだしやく** Angerona prunaria L. (第二十圖版(7))

被害植物　李・樺・柳・木苺・忍冬・てつせん等。

特徴　成蟲　體翅橙黃色、前後翅共に暗褐色の細線を群走し、殊に外緣にては其數多し、横脈は暗褐色、緣毛は黃色と暗色の斑をなす、雌は黃色、尙翅の斑紋には種々の變化ありて、灰色の大紋を有するものあり、腹部には褐色鱗を混ず、體長六分、開張一寸四分乃至一寸八分。

幼蟲　頭、硬皮板及び體は黃色、黃褐、若くは暗褐色、前頭の額片は淡色、之に黑緣を具ふ、二三の黃縱條あり、背線及び亞背線は黑色なれども餘り判然せず、且つ斷續す、疣起は黑色にして白色緣を有するものあり、第四節の兩側には各一個の横隆起を具へ、氣門線は淡色、暗色線にて緣取らるれども餘り判然せず、腹面

に四黑縱條あり、體長一寸七分内外。

經過　年一回の發生、幼蟲にて越年、四五月頃より現はれ、前出せる種々の植物葉を食す、老熟すれば葉内に絹絲を吐きて薄繭を營み、其内に蛹化す、蛹は黑褐色、光澤を缺き、腹關節は淡色、尾端は光澤を帶び、尾突起に横皺多し、六七月頃に羽化す、大害なし。

分布　北海道・本州・歐洲。

(二五) **みすぢつまきりえだしやく** Eudropia (Zetheniа) consociaria Christ. (第二十圖版(8))

被害植物　杉・松。

特徴　成蟲　體翅灰白色、前翅に三暗色帶ありて稍〻翅面を四等分し、第二及び第三帶の中間にも同樣の一帶を有するものあり、其帶の脈に當る處には濃色の各一點を裝ふ、尙横脈上にも濃色の一點あり、後翅灰白色、二條の暗色帶ありて、外側にあるものは鋸齒狀をなし、暗色の小點を散在す、體長五分五厘、開張一寸三分乃至一寸四分。

幼蟲　黃綠色、頭褐色、顱頂板の上方には暗色の短線を並列し、額片の左右には一個の暗色紋あり、背線は暗褐色の二條より成り、亞背線は暗褐色、氣門線は白

色、其上線は黑線にて縁取らる、尙氣門の上方に各節の前縁に接し一條の短黑條を裝ふ、體長一寸乃至一寸三分。

經過 年二回の發生をなすものゝ如し、發生には早晩ありて、成蟲は五月より八月に亘りて現はる、蛹にて越年するもの普通なれども、十月乃至十二月に羽化するものあり、幼蟲は九月より十月に亘りて大害を加ふ、老熟すれば地中に入りて蛹化す、蛹は褐色、長さ三分八厘乃至四分五厘。

附言 佐々木博士著樹木害蟲編上編九六頁にある『まつのたてじましやくとりてふ』は恐くは此害蟲ならん、若し然りとせば年二回の發生をなすものならんか記して後日の研究を待つ。

分布 北海道・本州・滿洲。

(二六) **しろつばめえだしやく** Ourapteryx maculicaudaria Motsch. (第二十圖版(9))

被害植物 とゞまつ・いぬがや。

特徵 成蟲 體翅白色、前翅に二條の灰色帶ありて、兩者後緣にて近接す、橫脈及び外緣に近き小短線は灰色、緣毛は黃褐色、後翅の中央に弓狀の灰色帶を具へ、外緣に近く灰色の小短線を裝ひ、第三及び第四室の末端に黑紋ありて、第五室

にあるものは其中央赤色なり、緣毛は黃褐色、觸角は基部を除き灰黃色、體長四分乃至五分、開張一寸五分乃至二寸。

幼蟲 體は綠黃色、頭の兩側に黑色の二縱條あり、單眼の所にて相合す、口部は黑色、氣門上下線並に腹走せる三縱條は黑色、胸脚の前方は暗褐色、氣門は黃色、周圍は黑色、體長一寸一分乃至一寸五分內外。

經過 年一回の發生、成蟲は八月上旬より發生す、幼蟲にて越年す、幼蟲は札幌地方にては五六月頃より現はれ、七月乃至八月に至りて老熟し、葉間に薄き繭を造り、其內に蛹化す、蛹は黃色、全體黑點を散在す、氣門は褐色、脫殼は灰白色にして、腹部は灰褐色、尾端は圓錐形をなし、暗褐色の二刺を出す、長さ七分五厘、其數多しと云へども大害あるを聞かず。

分布 北海道・本州・支那・滿洲。

(二七) **うすきつばめえだしやく** Ourapteryx sambucaria L. var. persica Mén. (第二十圖版(10))

被害植物 椎・柳・白楊・水蠟樹・珊瑚樹、えにしだ・はしどい。

特徵 成蟲 體翅白色、黃色を帶ぶ、前種に酷似すれども其異る所を擧ぐれば、前翅の二帶は何れも前緣に達せず、二帶間には灰白色の短線を散在し、外線は端

直、後翅の尾狀突起は甚だ長く、其基部にある黑紋は小、其内にある赤紋は判然す、外緣に近き一圓には灰色の短線を散在し、少しく綠色を帶ぶ、頭及び下唇鬚は黃褐色、體長六分乃至七分、開張一寸九分乃至二寸。

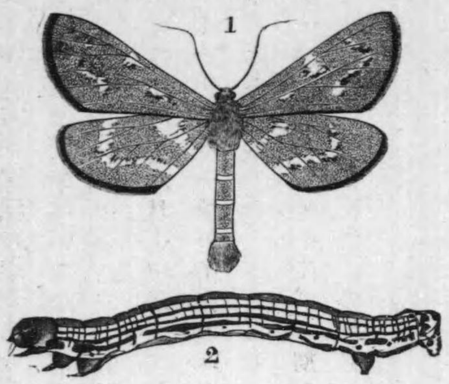
幼蟲　體は細長、灰褐色、微小の暗褐色斑點を散在す、頭の兩側に各一個の黑紋を具へ、第六節は其前方下面に一隆起を生じ、第八節の背上には褐色の橫隆あり、亞背線は細く、黑色にして斷續し、白色にて緣取らる、頸は多少黑色をなす、各節の後方に多少の隆皺あり、疣狀突起は褐色にして大きく、殊に第十一節にあるものは大なり、氣門は大にして白色、其周圍は黑色、腹面には黑色の二縱條を具へ、第六節には白色の弦月形紋あり、長さ二寸。

經過　前種に同じきも、岐阜地方にありては四月頃より幼蟲現はれ、五月中旬に至りて蛹化し、下旬に羽化すと云ふ、繭は常に二三相集合して枝より垂下す、少しく絲を吐き、枝若くは葉片を纏ひて繭を造り、容易に其存在を知らしめず、蛹は褐色にして幼蟲の有せし斑紋の如きものを見得べし、長さ一寸餘、卵子は楕圓形、兩面平たく、褐色にして、淡色の縱條を有す、其數多からず。

分布　北海道、本州、九州、滿洲、歐洲。

第二百十六圖　とんぼえだしやく

(1) 成蟲　(2) 幼蟲



(二六) とんぼえだしやく　Cistidia (Vithora) strationice Cram.　(第二百十六圖)

被害植物　苹樹・梨・櫻・李・梅・杏。

特徵　成蟲　翅黑色、前翅に四個の大白紋を有すれども、此白紋は往々相連續することあり、後翅の翅底は白色、內緣の下方より一個の廣き白條を出だし、外緣の方向に屈折したる後、前緣に達す、胸背は黑色、前緣は黃毛を簇生す、腹部黃色、各節の背上に楕圓形の黑紋を有し、更に其兩側及び腹面にも亦同樣の黑紋あり、雄の腹部は長く、尾節に黑色の長毛を簇生す、體長八分乃至一寸、開張一寸七分乃至一寸九分。

幼蟲　體は灰白色、少しく綠味を帶び、腹面は黃色なり、第一節の硬皮板は濃黃色、尾節の硬皮板は黑色、背線、亞背線、氣門上線及び氣門線も亦黑色、氣門線は第四節の中程より第九節の中程に至りて終り、其兩端より更に斷片となりて第十一節若くは第十二節に達す、腹面

にも亦背面と同樣の縱條あり、氣門及び小瘤起は黑色、體の諸部より黑短毛を粗生す、頭は黃色、其兩側に各三個の黑紋を有す、體長二寸。

經過 年一回の發生、幼蟲若くは蛹にて越年す、蛹は綠黃色、黑紋及び黑條を裝ふ、捲葉內にあり、六月中旬乃至七月下旬蛾化す、卵子は黃綠色にして一粒宛枝葉に產附せらる、一雌の產卵數百四五十、蛾は晝間飛翔し、其性遲鈍なり。

分布 北海道、本州。

驅除法 六七月頃、蛾發生の時期を見計ひ、網を以て捕獲すべし、幼蟲は黃白色にして黑紋を有するを以て發見すること容易なり、小形なる時は石油乳劑を用ふべし。

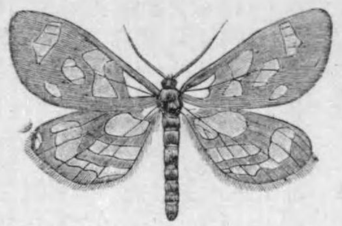
(元) **うめえだしやく** Cistidia (Vitiora) contaggaria Guen. (第二百十七圖)

被害植物 同前。

特徵 成蟲 前者に酷似す、其異なる點を擧ぐれば、前翅暗黑、五個の大白紋を有し、後翅は黑色と白色との斑にして、外緣に五個の大白紋を列ね、翅底の白紋中には黑紋あり、後胸背は黃色を呈す、體長六分乃至七分、開張一寸六分乃至一寸八分。

第二百十七圖

うめえだしやく



幼蟲 前種に酷似すれども、形細く、黑色にして、背線、亞背線及び氣門上下の兩線は白色、體長一寸三分乃至一寸六分。

經過 年一回の發生、幼蟲の儘越年す、翌春六月上旬乃至下旬に至れば葉を纏めて繭を營み、其內に蛹化す、蛹は黃綠色にして、黑紋及び黑條を裝ふ、六月中旬乃至七月中旬に亘り蛾化す、蛾は一粒宛產卵す、總數百四十餘あり、卵綠色、稍〻四角形に近く、割合に大なり。

分布 本州、四國、九州、朝鮮、支那、滿洲。

(三) **ゆまだらえだしやく** Abraxas sylvata Scop. var. miranda Butl. (第二十圖版(11))

被害植物 楡、白楊、柾木、眞弓、うるうめもどき。

特徵 成蟲 體は黃色、黑紋を散在す、翅は白色、多數の黑暗斑紋を橫列し、前後兩翅と相連續するを以て二重のU字形を現はす、前翅底は黑色、稍〻黃色を混じ、少しく鉛色毛を裝ふ、尙前後兩翅の後緣角に近く同樣の大紋あり、體長四分乃至五分、開張一寸乃至一寸二分。

幼蟲　頭は黑色、第一節は白色、側面に各四個の黑紋を見る、第二節以下は黑色、亞背線、側線及び氣門上線は白色若くは淡黃色、氣門下線は淡黃色、腹線は白色にして太し、尾節の硬皮板及び脚は黑色、後者は少しく淡黃色を混ず、體長七八分。

經過　年二回の發生、蛹にて越年、五月上旬乃至六月上旬に亘りて羽化す、第二回の蛾は七月下旬乃至八月下旬に現はる、幼蟲老熟すれば食樹を辭し、地中に入りて蛹化す、蛹は暗褐色、白粉を裝ふ、腹部の接合部は紅褐色、腹部に微小の點刻あり、尾突起は二分す、體長四分五厘、蛾は晝間飛翔す、其性遲鈍なり。

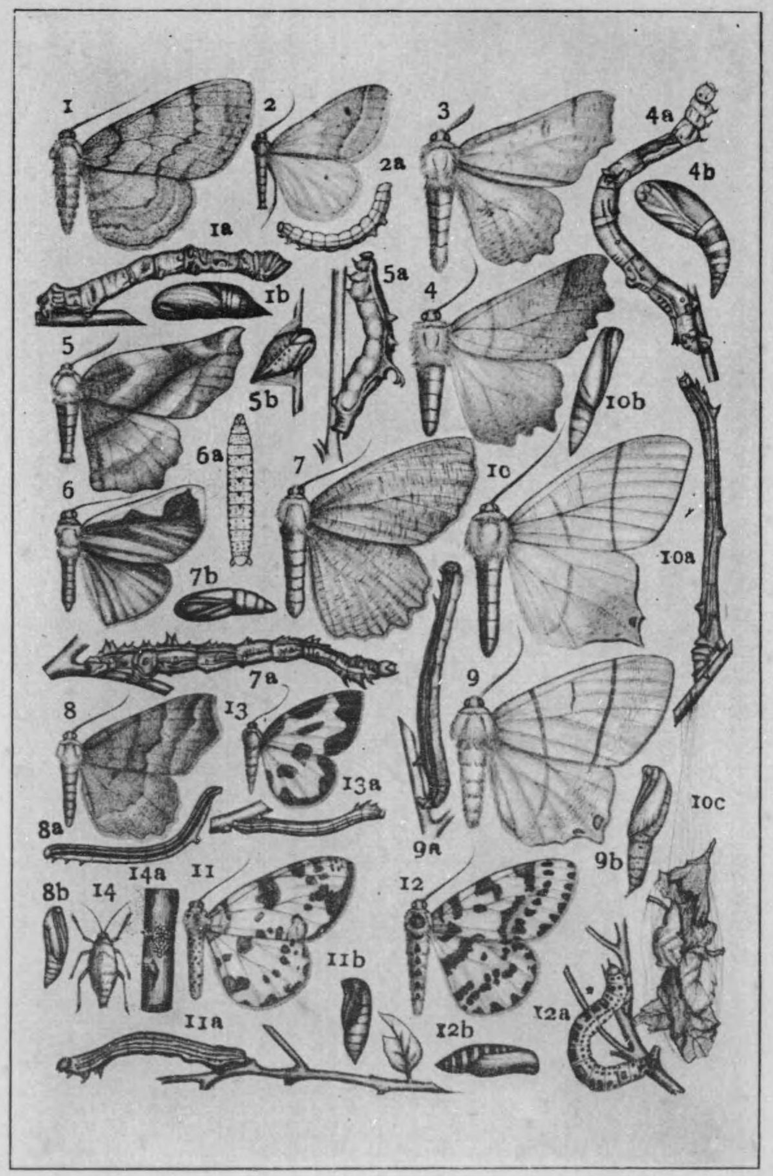
分布　北海道・本州・四國・九州・臺灣・朝鮮・支那・歐洲。

(三) すぐりしろえだしやく Abraxas grossulariata L. var. conspurcata Butl. (第二十圖版 (12))

被害植物　須具利・えぞうはみづざくら。

特徵　成蟲　翅黃白、五列の黑紋ありて、第一列紋と翅底の黑紋間は黃色、第二紋列は四個より成り、一は橫脈上にあり、第三及び第四紋列は相近接し、其中間は黃色、第五紋列は外緣にあり、後翅にも前翅同樣の黑紋列あり、中央に近き二紋列は相接續し、其中間は黃色ならず、頭は黑色、體は黃色、黑紋を裝ふ、體長四分五

第貳拾圖



第貳拾圖

1. Boarmia roboraria Schiff. はみすぢえだしやく P.592
   1a. 幼蟲 *1b.* 蛹
2. Anisopteryx membranaria Christ. ♂ うすばふゆしやく P.605
   2a. 幼蟲
3. Ennomos autumnaria Wern. きりばえだしやく P.610
4. Ennomos alniaria L. のこめえだしやく P.609
   4a. 幼蟲 *4b.* 蛹
5. Hygrochroa syringariae L. いちもじえだしやく P.611
   5a. 幼蟲 *5b.* 蛹
6. Caberodes formosa Butl. まへきとびえだしやく P.613
   6a. 幼蟲
7. Angerona prunaria L. すももえだしやく P.614
   7a. 幼蟲 *7b.* 蛹
8. Endropia (Zethenia) consociaria Christ. みすぢつまきりえだしやく. P.615
   8a. 幼蟲 *8b.* 蛹
9. Ourapteryx maculicaudaria Motsch. しろつばめえだしやく P.616
   9a. 幼蟲 *9b.* 蛹
10. Ourapteryx sambucaria L. うすきつばめえだしやく P.617
    10a. 幼蟲 *10b.* 蛹 *10c.* 繭
11. Abraxas sylvata Scop. ゆうまだらえだしやく P.621
    11a. 幼蟲 *11b.* 蛹
12. Abraxas grossulariata L. すぐりしろえだしやく P.622
    12a. 幼蟲 *12b.* 蛹
13. Abraxas marginata L. しろをびひめえだしやく P.623
    13a. 幼蟲 *13b.* 蛹
14. Anisopteryx membranaria Christ. ♀ うすばふゆしやく P.605
    14a. 卵塊

列は四個より成り、一は横脈上にあり、第三及び第四紋列は相近接し、其中間は黄色、第五紋列は外縁にあり、後翅にも前翅同様の黒紋列あり、中央に近き二紋列は相接續し、其中間は黄色ならず、頭は黒色、體は黄色、黒紋を裝ふ、體長四分五

厘、開張一寸乃至一寸二分。

幼蟲　體は黄白色、背上に稍〻四角形をなせる黒紋の一列ありて、側面は黄色、脚上には一双の黒紋列ありて、其間に黄色の氣門線を縱走す、氣門は黒色、腹面は黄色、二黒條を裝ふ、頭、胸、脚、尾硬皮板及び尾脚は黒色、疣起は黒色、之より黒色の一毛を生ず、殊に初めの三節にあるものは大なり、體長一寸乃至一寸三分。

鱗翅目

經過　年一回の發生、幼蟲は五月より現はれ、六月に亘りて食害す、老熟すれば食葉を綴りて其内に蛹化す、蛹は光澤ある褐色、腹部の接合部は黄色、七月乃至八月に亘りて羽化す、幼蟲にて越年するものの如し、卵は黄色、滑澤にして楕圓形を呈し、少しく側扁なり、本邦にては其數多からず。

分布　北海道・本州・支那・滿洲・歐洲。

(三)しろをびひめえだし、やく　Abraxas marginata L. var. opis Butl. (第二十圖版(13))

被害植物　白楊・柳・榛(はしばみ)。

特徴　成蟲　體暗褐色、口吻黄色、前翅黄白色、翅底の大紋、中央の三紋及び外緣の連續せる二紋は黒色、後翅の中央にある三紋及び外緣(太く)は黒色、後者の内側に凸凹あり、緣紋は何れも暗色、體長二分五厘、開張九分内外。

幼虫　體は暗綠色、各節の接合部は淡色、背線及び亞背線は暗色、氣門上線は太く黃色、頭は淡黃色、顱頂板の中央に暗褐色の一縱條あり、疣起は黑色にして判然す、體長一寸內外。

經過　年二回の發生、蛹にて越年するものの如し、第一回の蛾は札幌地方にては五月の中旬乃至六月の上旬、第二回は七月下旬乃至八月中旬現はる、幼蟲は十月頃に至りて老熟し、地中に入りて蛹化するものの如し。

分布　北海道・本州・滿洲・歐洲。

(三)おほごまだらえだしやく *Perenia giraffata* Guen.（第二十一圖版(1)）

被害植物　柿。

特徵　成蟲　體翅白色、頭頸及び腹端は黃色、頭及び胸背に黑紋あり、各腹節の左右及び腹側に黑紋を具へ、腹面に黑條を縱走す、翅は大、白色、前後共に大小二三十個の黑紋を散在す、觸角及び脚は赤褐色、體長八分五厘、開張二寸五分內外。

幼蟲　頭部赤褐色、黃白色の顆粒を散在す、背線は黑色にして太く、亞背線は太く、黃褐色にして、不規則に細き黑褐色の綾樣線あり、側面及び腹面は黑色、後者の中央は淡色、側面には楕圓形の黑紋及び眼狀紋を具へ、其背面の中央部は暗

色、黃色の山字形紋は眼狀紋を連續す、體長一寸八九分。

經過　年二回の發生、第一回の蛾は五月下旬乃至六月上旬、第二回は七月下旬乃至八月上旬現はる、蛾は柿の葉裏に產卵し、約二週間を經て孵化す、卵は楕圓形、一個所に產附せらる卵數は四十乃至百三十粒、初めは綠色なれども次第に紫黑色となる、中央に蛇目樣の圓環を具へ、放線狀の縱線を裝ふ、幼蟲は七月中旬より老熟し、地下に入りて蛹化す、蛹は黑褐色、尾端に一本の剛刺ありて其末端二分す、體長七分、第二回の幼蟲は土中に入りて蛹化し其儘越年す。

分布　本州・九州・支那・印度。

(四)べにもんえだしやく *Arichanna jaguararia* Guen.（第二十一圖版(2)）

被害植物　梂（アビヒ）木。

特徵　成蟲　體翅灰白色、前翅に四黑紋列あり、其外緣にあるものは小にして稍〻相接續す、尙翅端の二紋並に橫脈上の一紋は黑色、後翅の外半は橙黃色、三條の黑紋列ありて、外緣にあるものは小、橫脈上の斑紋は稍〻圓形、腹部の兩側に黑紋の一列あり、體長六分、開張一寸六分內外。

幼蟲　頭は黃褐色、黑毛を粗生す、體は黃色にして褐色を帶ぶ、背線は淡褐色に

して明ならす、亞背線上には數個の小黑點を列ぬ、各節の氣門上線及び下線に一個乃至二個の黑點を裝ふ、氣門は黑色、胸脚の末端は濃褐色、基部の外側に黑紋ありて、其内側に暗褐色の一線あり、體長一寸二分内外。

經過 年一回の發生、幼蟲は三月頃より現はれ、五月上旬より老熟して蛹化す、蛹は褐色、尾刺は末端にて二分す、腹部には微小の凹刻を密布し、第六節の下面に一双の小突起あり、翅鞘、觸角鞘及び口吻鞘は稍〻同長、體長五分五厘、六月上旬より七月中旬に至りて羽化す、幼蟲にて越年するもの〻如し。

分布 北海道・本州・四國・九州・支那。

(三三) **きをびえだしゃく** Miliomea zonea Moor. (第二十一圖版(3))

被害植物 いぬまき・まき・なぎ。

特徴 成蟲 體翅黑色、光澤ある紫藍色を帶ぶ、前翅基部に紫藍色の三紋を具へ、中央には橙黃色の廣帶ありて後緣にて細まる、後翅の中脈及び前緣脈は紫藍色、體長六分乃至七分、開張一寸八分乃至二寸一分。

幼蟲 體は黑色、頭、兩硬皮板及び脚は赤褐色、氣門線及び氣門の周圍は赤褐色、各節に黃色の八條を縱走し、更に數個の黃線を横走す、體長二寸内外。

經過 年數回の發生、成蟲は枝幹殊に枝の分岐點に點々產卵す、約二週間にて孵化す、卵は初めは綠色、孵化期に近づけば赤褐色となる、楕圓形にして龜甲樣の紋理あり、幼蟲は一ヶ月内外にて老熟し、地中に入りて蛹化す、蛹は赤褐色、尾刺の末端は二分す、體長八分、沖繩及び臺灣にては時に大害を加ふることあり。

分布 沖繩・臺灣・支那・印度。

(三四) **みかんこえだしゃく** Hyposidra talaca Wk. (第二十一圖版(4))

被害植物 柑橘(葉枝)。

特徴 成蟲 體翅灰褐色、綠色を帶び、灰色鱗を散在す、兩翅に判然せざる褐色の中横線及び後横線ありて何れも波狀をなす、緣毛は黃褐色、前翅に判然せざる前横線と翅端紋あり、雌は深く刻られたる翅を裝ふ、開張一寸乃至一寸八分。

幼蟲 帶紅綠色にして綾樣の黑紋を具へ、第四及び第七節に暗色紋あり、體長一寸一二分。

經過 發生の回數は分明ならず、幼蟲は二三月頃より現はれ、胸部を彎曲しながら葉緣を食害す、蛹は赤褐色、翅鞘は第四腹節に達し、尾刺は圓錐形にして細く、下面には二個の微小刺あり、體長四分五厘乃至五分五厘、蛹期は十日乃至二週

間、幼蟲期は約一ヶ月、其害大ならず。

分布 九州・臺灣・支那・印度。

一、あをしやく亞科 Geometriinae

(三七) かぎはあをしやく Tanaorrhinus confuciaria Butl. (第二十一圖版(5))

被害植物 櫟・槲・柏・椎。

特徴 成蟲 體翅濃綠色、頭頂は白色、前翅の末端に黃褐色紋を具へ、前横線は黃白色、波狀、後横線は犬牙狀をなして黃白色を呈し、後翅の同樣線に連續す、尙外緣に近く同色紋を並列すれども判然せず、裏面には前翅より後翅に亘り暗色の一帶ありて外緣に近く斜走す、中室紋は黑色、體長八分、開張二寸乃至二寸四分。

幼蟲 體は綠色、白色及び黃褐色の斑點を密布す、第一及び第二節の背上に一双の小突起を具へ、第五、第六、第七及び第八節の背上に著しく延長せる一双の圓錐突起ありて褐色を呈し、其内第三節のもの最も長く、第七節にあるもの小なり、背線は褐色、氣門線は黃褐色、腹面は淡褐色、脚及び腹縱條は暗褐色、頭は褐

色、胸脚は黃褐色、腹脚は淡褐色、體長一寸一、二分。

經過 幼蟲は四月頃より現はれ、殼斗科の植物を食とす、老熟すれば淡紅色の絹糸を以て葉を綴り、粗繭を營み、次で蛹化す、蛹期は約三週間、蛹は紡錘形に近く、前方に角狀突起あり、淡き紅灰色、微小の暗色點を密布し、尾端に數本の鈎狀刺あり、長さ九分、幼蟲は桑の『とげしやく』に酷似し、食樹の新芽に似たるを以て發見し難し、年一回の發生にして幼蟲にて越年すなものゝ如し。

分布 本州・九州。

(三八) おほしろをびあをしやく Hipparchus (Geometria) papilionaria L. (第二十一圖版(6))

被害植物 樺・榛・赤楊・榛。

特徴 成蟲 翅綠色、前翅底及び前緣の一部は灰色、三條の灰白帶あり、翅底にある一帶は判然せず、後翅の中央にあるものは波狀をなし、其内側は濃色、其外方にある一帶は判然せず、後翅の中央に波狀の灰白帶ありて、之より内方は少しく濃色、其外方に灰白色の一帶あれども判然せず、裏面にては前翅に三條の濃色帶ありて其外側は何れも淡色、後翅にては二條の灰白帶ありて其内方にある一帶の内側及び中室紋は濃色、體は灰色、體下は灰白色、體長六分五厘乃至七分、開張

一寸七分乃至二寸。

幼蟲　頭は黄褐色にして少しく平たし、體は綠色、硬皮板に四個の小突起ありて四角形に排置せられ、第二節には稍〻圓錐形を呈せる一大突起あり、第五乃至第八節に各二個の突起ありて、其内第五節にあるものは微小、第六節にあるものは最大にして相近接す、何れも其末端は紅色を呈す、第十一節にも一双の褐色突起あり、第十、第十一及び第十二節の前緣並に第九節より尾端に達する氣門上線は赤褐色なり、體長一寸一二分。

經過　幼蟲は五六月頃より現はれ、老熟すれば薄き白繭を營み其内に蛹化す、蛹は黄綠色、背部は赤褐色、性甚だ活潑なり、七月乃至八月に至りて羽化す、卵子は初め黄色なれども次第に褐色となる、大害なし、札幌地方に稀ならず、幼蟲にて越年するものの如し。

分布　北海道・本州・支那・朝鮮・滿洲・歐洲。

(元)**ひめしろをびあをしやく** Hippar:lus (Euchloris) vernaria Hb. (第二十一圖版(7))

被害植物　鐵線。

特徵　成蟲　體翅綠色、前翅の前緣及び緣毛は黄色、前横線白色、第一室にてく字

形に屈折す、後横線は白色、稍〻弓狀を呈し、第一室にて少しく波狀をなす、後翅の中央に一白帶ありて前翅の後横線に連續す、觸角及び頭頂は灰白色、頭は黄褐色、腹部は基部を除き灰白色、體長四分五厘、開張一寸乃至一寸二分。

幼蟲　頭は黄綠色、左右及び後緣は褐色、二個の角狀突起を出す、體は綠色、白色の小突起を散在す、背線は暗色、黄色にて緣取らる、腹面は灰色、中央に淡色の一縱條あり、胸脚及び尾脚は褐色、腹脚は綠色、體長八分内外。

經過　年一回の發生、幼蟲にて越年、六七月頃に至り老熟し、食葉を綴り其内に薄き白色繭を營みて蛹化す、蛹は淡綠色、翅鞘は少しく暗色をなす、尾突起は大にして凹陷を具へ、尾端は暗色にして鈎刺を裝ふ、七月乃至八月に至りて羽化す、其數多からず。

分布　北海道・本州・歐洲。

(四〇)**しろふあをしやく** Ochrogrnesia (Euchloris) difficta Wk. (第二十一圖版(8))

被害植物　樺・柳・行李柳。

特徵　成蟲　體翅綠色、前翅の前横線及び後横線は白色、細形、何れも波狀をなし、其内前横線は餘り判然せず、後緣の末端並に外緣の中央に白紋を具へ、外緣に

近く白點を横列す、外緣點は暗色にして六個あり、緣毛は灰色、其基部は灰白色、後翅の後横線は前翅と同樣、外緣及び内緣角に灰白色の大紋ありて、第一室の處には之を缺く、外緣點は七個、暗色を呈し判然す、裏面にては前翅の中室點、外緣紋、後翅にては翅端紋並に外緣點は暗色、體長四分、開張一寸内外。

幼蟲　頭黑色、白粉を散布す、體は少しく平たくして綠色をなし、背線は灰色にして太く尾端に達せず、腹面に白色の縱條を具へ、其兩側に少しく黄色を帶びたる白條あり、第一節には數個の突起を具へ頭部を蔽ひ、其周緣は暗褐色なり、第二節より第八節に至る迄各二個(第四節には一個)の刺狀突起ありて、其末端は暗褐色を帶ぶ、九節以下は氣門の下部より褶襞を生じ、末端は白色と暗褐色とを混ず、第六及び第七節の腹面には暗色紋あり、體長九分乃至一寸内外。

經過　幼蟲は四月頃より現はれ『かはやなぎ』若くは『こうりやなぎ』の葉を食ひ、五月より六月に亘りて老熟し、葉を綴りて粗繭を造り其内に蛹化す、蛹は淡褐色、稍〻紡錘狀、腹部の後半急に尖小す、尾端にある鈎刺によりて垂下す、六月下旬乃至七月下旬羽化す、年一回の發生、卵子にて越年するものゝ如し、其害大ならず。

分布　本州・九州・支那。

(四)きまへあをしやく Hipparchus (Thalassodes) vallata Butl. (第二十一圖版(9))

被害植物　楢・櫟・榊。

特徴　成蟲　體翅綠色、前翅前緣は黄色、暗色點を散在す、前横線及び中央線は褐色、前者は内側に、後者は外側に白帶を具へ、外緣の三分の一に褐色の小點を散在す、緣毛は黄色、末端は白色、後翅の中央に暗色帶ありて、其外側は白色にて緣取らる、褐色の小紋を散在す、緣毛は黄色、末端は白色、尾狀突起の末端に一黑紋あり、頭は綠黄色、觸角は白色、體長四分、開張一寸内外。

幼蟲　體は灰綠色、背面は綠白色、亞背線は淡き桃色、第四節の背面に赤褐色の二突起を具へ、第八節の背面にも同色の一突起あり、尾端の數節は赤褐色、頭には角樣の二突起ありて赤褐色を呈す、體長六分内外。

經過　發生の回數は不明、幼蟲は八九月頃より現はれ楢其他殼斗科植物の新芽を食害す、其形狀及び色彩は新芽に酷似す、半ば成長したる有樣にて越年し、翌春現はれ再び葉を食害す、五月中旬より老熟し、葉を綴りて薄き繭を營み其内に蛹化し次で羽化す、其數多からず、隨つて大害なし。

分布　本州・九州。

(四三)しろすぢあをしやく　Hipparchus (Megalochlora) valida Feld.　(第二十一圖版(10))

被害植物　櫟・檜・榊。

特徴　成蟲　體翅淡綠色、前翅前緣は灰白色、前橫線及び後橫線白色、前者の外側、後者の內側並に中室點は濃綠色、後翅の中央に白帶ありて、其內側は濃綠色、兩翅共外緣は甚だしく波狀を呈す、後翅の內緣は白色にして白毛を裝ふ、頭は白色、頭頂は黃綠色、下唇鬚は褐色、脚は白色、前肢に褐色紋あり、體長六分乃至八分、開張一寸六分乃至一寸九分。

幼蟲　體は黃綠色、第五節乃至第八節の背面に一双の棘狀突起ありて綠色を呈し、其末端は赤褐色を帶ぶ、氣門上下の兩線は白色、第十二節は褐色、第十節の側面は赤褐色、體長一寸一二分。

經過　年二回の發生、第一回は五月下旬、第二回は七八月、幼蟲にて越年するものゝ如し、四月頃より現はれ『なら』『くぬぎ』『かしは』其他殼斗科植物の葉を食害す、其體宛然新芽に似たるを以て發見すること容易ならず、四月乃至五月に亘りて老熟し、葉を綴りて薄繭を營み、其內に蛹化す、蛹は灰白色にして黑點を散

在す、長さ五分、其數餘り多からず。

分布　本州・滿洲。

(四四)ももあをしやく　Hemithea sasakii Mats.　(第二十一圖版(11))

被害植物　桃。

特徴　成蟲　翅は綠色、前翅の前緣は黃色、前橫線は白色、細形、第一室にて〲字形に外方に曲り、後橫線は犬牙狀をなす、緣毛は灰黃色、脈端に少しく褐色毛を具へ、中室に微小なる黃白色の環狀紋を裝ふ、後翅の中央に甚だしく凸凹ある白帶ありて、第二及び第三脈の處にて著しく突出す、裏面は白色、少しく綠色を呈し、頭は淡褐色、前頭は灰黃色、觸角は羽狀をなし、下鬚唇灰黃色にして上方に向ふ、體は灰白色、腹背は綠色を帶ぶ、脚は白色、前腿節及脛節は黃色、體長四分五厘、開張一寸一分。

幼蟲　頭は赤褐色、角樣の二突起を裝ふ、體は綠色にして黃赤色を帶ぶ、腹面は一層濃色、第一節に褐色の二小突起を具へ、胸脚は黃綠色にして桃色を帶ぶ、第九節の腹脚及び尾脚は發達す、體長一寸一二分。

經過　年一回の發生、幼蟲の盡越年するものゝ如し、幼蟲は四月頃より現はれ、桃

の新芽を食害す、晝間は稍〻四十五度の角度をなして枝に直立す、五月下旬より老熟し、薄繭を造りて其内に蛹化す、繭は常に枝より垂下す、蛹は細長く、稍〻圓錐形を呈し、頭は太く、灰褐色、翅鞘灰色、體長五分内外、六月中旬乃至下旬に至りて羽化す、其數多からず、東北地方に傳布す。

分布 本州。

(四四)りんごあをしやく Hemitinea mali Mats. (第二十一圖版(12))

被害植物 苹樹。

特徴 成蟲 體翅綠色、前翅の前緣黃色、二條の細き綠白帶ありて何れも波狀を呈し、後横線は前半にて稍〻犬牙狀をなし、前半にて少しく内方に彎曲す、緣毛は長く淡綠色なり、後翅の中央に綠白色の一帶ありて波狀をなし、第三脈の處にて外方に彎曲す、裏面は綠白色、頭は綠褐色、頭頂及び觸角は白色、下唇鬚は灰黃色、體下及び腹部並に脚は黃白色、體長三分六厘、開張八分内外。

分布。本州。

附言 此は故新渡戸稻雄氏より苹樹の害蟲として送附し來りたるものなるが、今や其幼蟲を知るの期を得ず、他日の研究を俟つ。

(四五)くすあをしやく Thalassodes quadraria Guén. (第二十一圖版(13))

被害植物 樟。

特徴 成蟲 體翅綠色、青色を帶ぶ、前翅の前緣は黃色、横線及び後横線は細く白色、餘り判然せず、後翅の中央にも判然せざる細き白帶ありて、第三脈の處にて屈折す、前後兩翅の全面に判然せざる淡色綾樣の短線を散在し、前頭及び下唇鬚は赤褐色、頭頂は白色、體長三分五厘、開張一寸一二分。

幼蟲 體は黃綠色、背面赤褐色を呈すれども、往々淡黃綠色のものあり、頭頂に角狀の二突起を具へ、體は細長、宛然細き枝の如き觀をなす、體長九分内外。

經過 年發生の回數は不明なれども、二月及び四月の二回に最も多く羽化するを見る、蛾は新芽若くは新莖に一二個づゝ產卵す、卵は初め綠色、後ち淡き紅褐色となる、幼蟲は常に新條を好み、葉の外緣より食害す、老熟すれば二葉を綴りて其内に粗繭を造り蛹化す、蛹は淡綠色、細長、頭太く、前面稍〻凹陷す、翅鞘は細く第四腹節の後緣に達す、體長五分二厘、臺灣に普通なる種類にして、苗圃にては被害甚だしきも大木には大害なし。

分布 九州・臺灣・印度。

尙此他あをしやく亞科に屬するものにして、多少害あるものは左の四種あり、

(四六)**ひめくろすぢあをしやく** Chlorissa (Nemoria) viridata L.

被害植物 柳・樺。

特徴 成蟲 體翅黄綠色、前翅の二帶及び後翅の一帶は白色、波狀をなし、後翅の第四脈の末端少しく突起す、開張六分內外。

幼蟲 淡綠色、白色顆粒を散在す、頭頂及び第一節は赤色、背線は紫赤色、亞背線は白色、側面に赤紋を有するものあり、體長六七分、蛹は枝上にありて越年す。

(四七)**ひめうすあをしやく** Iodis (Thalera) putata L.

被害植物 石南科植物。

特徴 成蟲 翅淡綠色、前後翅に二白帶ありて、何れも波狀をなし、後翅の第四脈の處は突出す、開張八分內外。

幼蟲 淡綠色、各節に赤紋を散在す、頭は二角を具へ、綠色、周圍褐色、第一節に二突起を具へ、尾節にも後方に向ひ鋭齒あり、體長三分五厘內外、蛹にて越年す。

(四八)**なみがたうすきあをしやく** Iodis lactearia L.

被害植物 樺・榛・木苺・白楊。

特徴 成蟲 翅淡綠色、前翅に二條、後翅に一條の白帶ありて波狀をなさず、後翅の第四脈の處にて少しく突出す、開張七分。

幼蟲 綠色、各節に赤褐色の大紋あり、體長五分五厘。

(四九)**きばらひめあをしやく** Hemithea aestivalis Hb. (=strigata Müll.)

被害植物 薔薇・木苺・槲等。

特徴 成蟲 翅は綠色、前翅に二條、後翅に一條の白帶ありて、何れも波狀を呈し、後翅の横脈は暗色、第四脈の處にて甚だしく突出す、開張一寸內外。

幼蟲 黄褐乃至綠褐色、初めの四節及び尾端の二節は褐色、第四節乃至第八節に黒紋あり、體長七分內外。

三、ほししやく亞科 Orthostixiinae

(五〇)**ほしやく** Orthostixia seriaria Motsch.

被害植物 木蠟樹・ねづみもち。

特徴 成蟲 體翅白色、前翅前緣の基部及び外緣に二例をなせる十五六紋は黒色、尙前緣の中央に二個、後緣に一個の黒點を裝ふ、後翅に前翅と同樣の黒紋あ

(第二十一圖版(14))

り、體長五分、開張一寸二分乃至一寸七分。

幼蟲　頭部黑色、白毛を粗生し、上唇及び額片の縫合線は白色、體は黑色、二條の背線は黃色、亞背線及び氣門上線は黃白色(體の前後にて判然す)、氣門下線は白色、黃斑あり、多くは各節に白色帶を具ふ、此ものは氣門下線にて相合す、第四節以下の腹面は黃白色、二條の暗色腹線を具へ、全體黑色の顆粒を散布し、白毛を生す、脚は黑褐色、體長八九分。

經過　年二回の發生、第一回は四月、第二回は六月下旬乃至七月、札幌地方にありては年一回の發生、六月上旬羽化す、幼蟲にて越年し、翌春新芽を食害す、三月頃より白色の薄繭を營み、其內に蛹化す、蛹は紅白色、多少黃色若くは褐色を帶ぶ、翅鞘の基部に黑色の一突起を具へ、全體に黑點を撒布す、翅鞘の基部は黑色、外緣に黑點を列ね、各腹部の背上に一黑紋を具へ、尾端は黑色、鈎狀の短刺數本あり、體長五分乃至五分五厘、大害なし。

分布　北海道、本州、九州、支那、滿洲。

四、ひめしやく亞科 Acidaliinae

(五)ふたなみとびひめしやく Acidalia steganoides Butl. (第二十一圖版(15))

被害植物　苺、萩、海棠。

特徵　成蟲　灰黃白色、前翅の中央に二條の暗褐色帶ありて、內方のものは判然す、中室點は黑色、前橫線判然せず、中橫線より外緣に至る迄黃褐色、波狀線は暗褐色にして細く、翅端に灰黃白色の二紋ありて、後方にあるもの少しく小なり、後翅は前翅と同樣なれども、翅端に灰黃白色の二紋及び中室點を缺く、體長二分五厘、開張七分乃至八分。

幼蟲　頭白色にして紅色を帶び、兩側に暗色紋あり、額は綠色を帶ぶ、體は圓柱形にして細長、綠色、各節に多數の橫皺を具へ、背面は多少暗紫色を帶ぶ、暗紫褐色の背線は後方の二三節にて判然す、亞背線も同色若くは暗色、體の前後に於てのみ判然す、中央部にて亞背線上に黑點を列ね、之より黑毛を生ず、第三及び第四節の兩側に各一個の紫褐色紋あり、前後の硬皮板は淡黃色、胸脚は淡褐色、體長一寸一分乃至一寸四分。

經過　年二回の發生、蛹にて越年、翌年四月中旬より羽化し、五月中旬既に幼蟲を見得べし、六月下旬に至りて蛹化す、蛹は黃褐色にして綠色を帶ぶ、腹部の背面

に微小の凹刻を密布す、尾端は赤褐色、二本の曲刺を具へ、其兩側に數本の小鈎あり、長さ二分七厘乃至三分二厘、常に薄繭を造り地表にあり、第二回の蛾は七月上旬より中旬に亘りて現はる、八月中は幼蟲を見得べし、九月中旬蛹化す、其害大ならず。

分布 本州・九州・朝鮮。

(三二) とちのきひめしやく Acidalia sasakii Mats. (第二十一圖版(16))

被害植物 七葉樹(とちのき)。

特徴 成蟲 體茶褐色、腹眼黑く、下唇鬚前方に突出し、觸角は細長、前後の兩翅は赤褐色、前緣の內半に二三の黑斑を有し、外緣の下半には三個の黑斑を存す、翅の中央及び內緣に近き所に前緣より後緣に向ひ黃條の走れるものあり、外緣には一個の黃條と二個の赤褐條を具へ、之は相並行して前緣より後緣に向ひ横走す、後翅の內半には一個の黑斑を具へ、黃條を缺けども、其他の斑紋に至りては前翅と異なるなし、體長二分五厘、開張六分。

幼蟲 體暗褐色、背面には大なる矢筈樣の白紋を存し、側面にも同じく白斑を具へ、腹脚は第八、第九、及び第十二節に存するも、第八節に存するものは發育不

完全にして極めて小形なり、體長六分餘。

經過 幼蟲は四月より現はれ、七葉樹にありて其葉を蝕害し、五月中旬より老熟して蛹となり、六月中旬化して蛾となる(佐々木博士樹木害蟲編に依る)。

附言 佐々木博士は此害蟲に Acidalia hanna Butl. なる學名を用ひあれども誤なり、『さかはちひめしやく』(Acidalia hanna Butl.) は Ill. Typ. Lept. Het. iii p. 40 pl. L. fig 11 (1879) に著色圖あり、之れは翅の中央に褐色の太き一斜條を有するを以て『さかはちひめしやく』の名あり。

五、なみしやく亞科 Larentiinae

(三三) りんごあをなみしやく Chloroclystis rectangulata L. (第二十一圖版(17))

被害植物 苹樹・梨。

特徴 成蟲 體翅灰色、少しく綠味を帶ぶ、前翅に約十條の黑色波狀線ありて、後横線及び前横線は最も判然す、中室點は黑色にして大なり、外緣に近く綠色を帶びたる灰白帶あるも餘り判然せず、後翅の中室點も黑色にして數條の暗色帶あれども判然せず、其中横線及び外緣の灰白線は判然す、頸は灰黃色、尾端は

淡黄褐色なり、體長二分三厘、開張六分内外。

幼蟲　體は暗色を帶ぶ、背線は褐色若くは暗綠色、氣門線は暗色、全體半透明、疣狀突起は小にして之より一短毛を生ず、體長五分内外。

經過　年二回の發生、幼蟲にて樹皮下に越年し、翌春四月下旬より葉を堅に綴りて其内に蛹化す、蛹は赤褐色、翅鞘及び胸部は黄綠色、五月上旬羽化す、第二回の蛾は九月頃現はれ、此幼蟲は越年すること前述の如し、大害なし、靜岡地方には稀ならず。

分布　北海道・本州・支那・滿洲。

第二十四　夜蛾科　Noctuidae

一、あつば亞科　Hypeninae

(一)りんごつまきりあつば　Pangrapta obscurata Butl.（第二百十八圖）

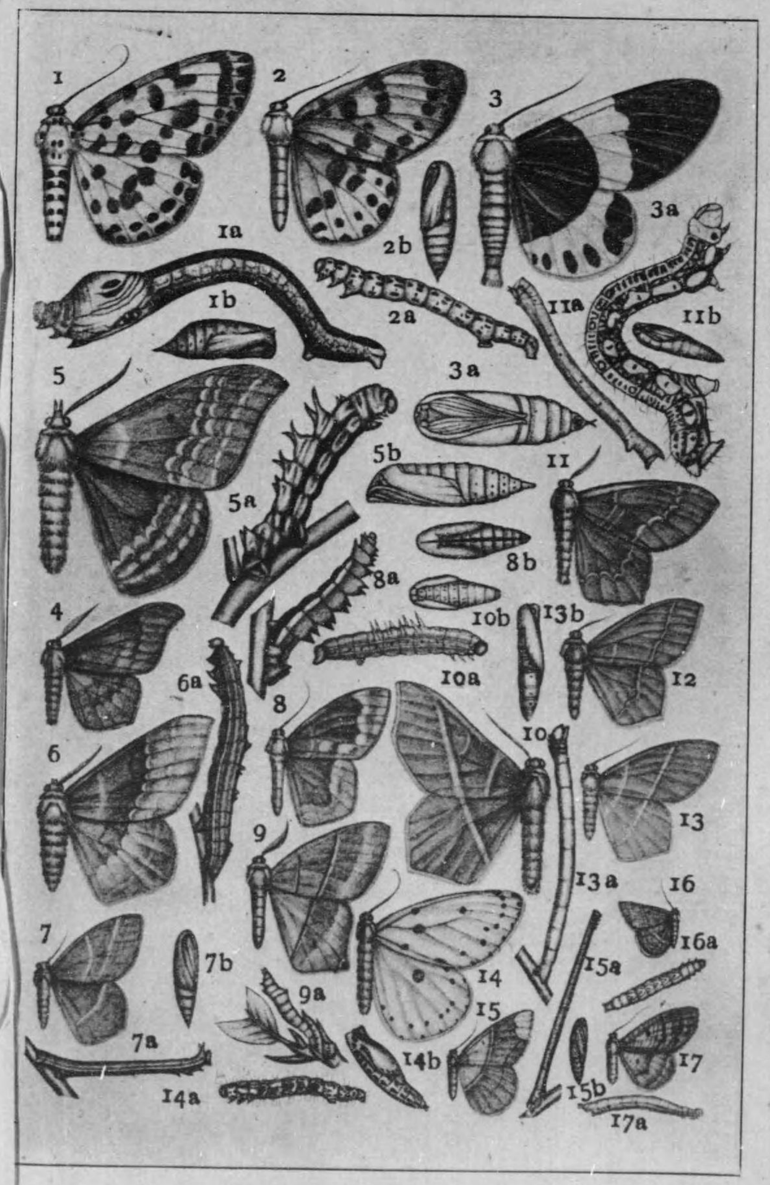
被害植物　苹樹・梨。

特徴　成蟲　體翅暗色、紫色を帶ぶ、半横線及び中横線は黑褐色、後者は前縁にて

第貳拾壹圖

1. Perenia giraffata Guen.　おほごまだらえだしやく……P.624
1a 幼蟲　1b. 蛹
2. Arichanna jaguararia Guen.　へうもんえだしやく……P.625
2a. 幼蟲　2b. 蛹
3. Milionia zonea Moor.　きをびえだしやく……P.626
3a. 幼蟲　3b. 蛹
4. Hyposidra talaca Wk.　みかんこえだしやく……P.627
5. Tanaorrhinus confusiaria Butl.　かぎばあをしやく……P.628
5a. 幼蟲　5b. 蛹
6. Hipparchus papilionaria L.　おほしろをびあをしやく……P.629
6a. 幼蟲
7. Hipparchus vernaria Hb.　ひめしろをびあをしやく……P.630
7a. 幼蟲　7b. 蛹
8. Hipparchus (Euchloris) diffleta Wk.　しろふあをしやく……P.631
8a. 幼蟲　8b. 蛹
9. Hipparchus vallata Butl.　まへきあをしやく……P.633
9a. 幼蟲
10. Hipparchus valida Feld.　しろすぢあをしやく……P.634
10a. 幼蟲　10b. 蛹
11. Hemithea sasakii Mats.　ももあをしやく……P.635
11a. 幼蟲　11b. 蛹
12. Hemithea mali Mats.　りんごあをしやく……P.636
13. Thalassodes quadraria Guen.　くすあをしやく……P.637
13a. 幼蟲
14. Orthostixia seriaria Motsch.　ほししやく……P.639
14a. 幼蟲　14b. 蛹
15. Acidalia steganoides Butl.　ふたなみとびひめしやく……P.641
15a. 幼蟲　15b. 蛹
16. Acidalia sasakii Mats.　とちのきひめしやく……P.642
16a. 幼蟲
17. Chloroclystis rectangulata L.　りんごあをなみしやく……P.643
17a. 幼蟲

第貳拾壹圖



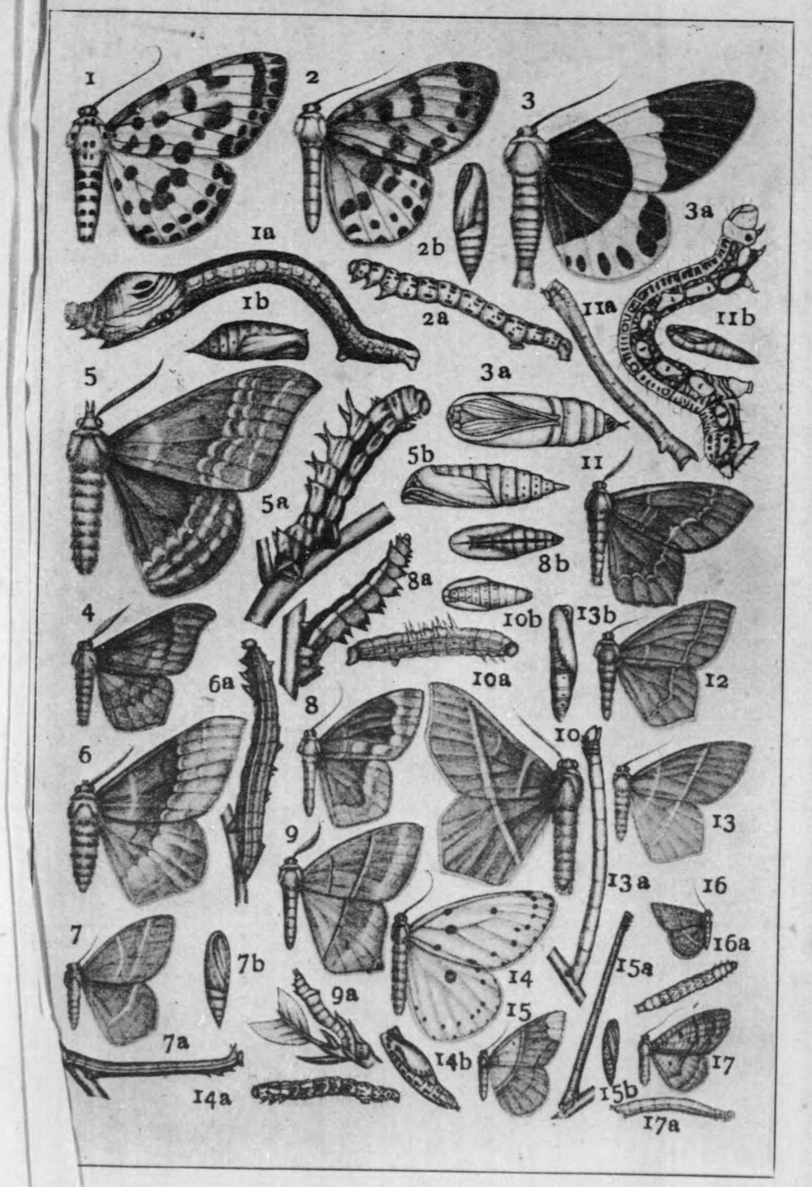
第貳拾壹圖

1. Perenia giraffata Guen. おほごまだらえだしゃく P.624
   1a 幼蟲 *1b.* 蛹
2. Arichanna jagatararia Guen. へうもんえだしゃく P.625
   2a. 幼蟲 *2b.* 蛹
3. Milionia zonea Moor. きをびえだしゃく P.626
   3a. 幼蟲 *3b.* 蛹
4. Hyposidra talaca Wk. みかんこえだしゃく P.627
5. Tanaorrhinus confucianaria Butl. かぎばあをしゃく P.628
   5a. 幼蟲 *5b.* 蛹
6. Hipparchus papilionaria L. おほしろをびあをしゃく P.629
   6a. 幼蟲
7. Hipparchus vernaria Hb. ひめしろをびあをしゃく P.630
   7a. 幼蟲 *7b.* 蛹
8. Hipparchus (Euchloris) difficta Wk. しろふあをしゃく P.631
   8a. 幼蟲 *8b.* 蛹
9. Hipparchus vallata Butl. まへきあをしゃく P.633
   9a. 幼蟲
10. Hipparchus valida Feld. しろすぢあをしゃく P.634
    10a. 幼蟲 *10b.* 蛹
11. Hemithea sasakii Mats. ももあをしゃく P.635
    11a. 幼蟲 *11b.* 蛹
12. Hemithea mali Mats. りんごあをしゃく P.636
13. Thalassodes quadraria Guen. くすあをしゃく P.637
    13a. 幼蟲
14. Orthostixia seriaria Motsch. ほししゃく P.639
    14a. 幼蟲 *14b.* 蛹
15. Acidalia steganoides Butl. ふたなみとびひめしゃく P.641
    15a. 幼蟲 *15b.* 蛹
16. Acidalia sasakii Mats. とちのきひめしゃく P.642
    16a. 幼蟲
17. Chloroclystis rectangulata L. りんごあをなみしゃく P.643
    17a. 幼蟲

被害植物　苹樹・梨。

特徴　成蟲　體翅暗色、紫色を帶ぶ、半横線及び中横線は黒褐色、後者は前縁にて

第貳拾壹圖



第二百十八圖
りんごつまきあつばつ

甚だ太く、後緣の中央にて細まる、前緣には三角形の灰白紋あり、波狀線は灰色、判然せず、前緣角は切り去りたるか如し、後翅に二條の黑褐帶ありて、其間室は濃色、體長三分五厘、開張八分五厘。

幼蟲 體淡綠、頭の兩側に黑褐條あり、背線暗綠、細き同色の側線あり、各節に六個の黑褐點あり、體長八分。

經過 年二回の發生、第一回は六月上旬、第二回は八月上旬、幼蟲は七月上旬より現はれ、同下旬老熟、次て蛹化す、第二回の幼蟲は八月中旬より現はれ、十月上旬土中に蛹化し、翌年六月蛾化す、幼蟲は一見尺蠖の如く『こあをむし』に似たり。

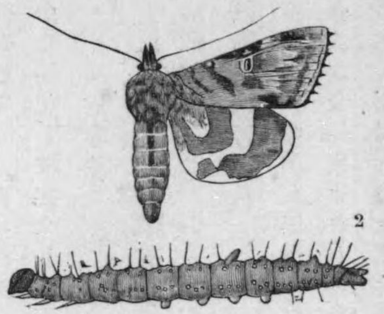
分布 北海道・本州。

二、刳蛾亞科 Quadrifinae

(二)こがたのきしたば Catocala obliterata Mén. (第二百十九圖)

被害植物 梅・杏・桃。

特徵 成蟲 前翅灰黑色、中横線は黑色、翅底は廣く黑色、腎狀紋は三短線の如し、後横線は犬牙狀をなし、波狀線は鋸齒狀、翅端に七黃紋を列ね、後翅黃色、外緣廣く黑色、長楕圓形の黑環を具へ、腹部に黃毛を密生す、體長九分、開張一寸九分。



第二百十九圖
こがたのきしたば
1
2

幼蟲 暗褐色、少しく綠色を帶ぶ、體の兩端細まり、第四、第八及び第十一節に肉狀の突起を裝ひ、不定の暗色縱線及び小黑點を散布す、亞背線は黃綠色、各節十個乃至十二個の桃色疣狀起ありて、之より各一本の短毛を生ず、體長一寸九分。

經過 未だ判明せざれども幼蟲は五月頃より發生し、新芽嫩葉を食害す、六月上旬より老熟し、數葉を經めて其内に薄繭を營み、蛹化す、年一回の發生をなすものの如し。

分布 本州・九州・朝鮮・支那・滿洲。

(三)きしたば Catocala patala Feld. (=volcanica Butl.) (第二十二圖版(1))

被害植物 藤。

特徵 成蟲 前翅暗褐色、半横線及び前横線は黑色、波狀を呈し、後横線は黑色にして犬牙狀をなす、腎狀紋は灰黃色の周緣を有し、内部は暗褐色、其下方に不正形の灰黃色紋あり、波狀綠は黑褐色、外緣に沿ひ約七個、灰黃色の小點を横列す、

後翅は橙黃色、二條の黑帶を裝ひ、其内方のものはV字形を呈し、外方のものは太く、内緣角に近く内方に向て二突起を出し、中央に於て外緣に接す、頭及び胸背は暗褐色、腹背は黃褐色、體下は淡黃色、體長九分、開張二寸四分内外。

幼蟲 頭は黑色、白色の網狀紋を具へ、白毛を粗生す、上唇及び觸角は白色、體は黃色、側面に黑色の七縱條ありて、其間に淡き暗紫色線を裝ふ、亞背線は二條より成り、初めの三節にては黑紋となる、亞背線上に橙黃色の顆粒を具へ、顆粒は殊に第十一節及び十二節に於て顯著なり、黑色の短毛を裝ふ、第一節は黃色、側面に四五個の黑點あり、氣門及び胸脚は黑色、後者は灰色緣を有す、體長一寸八分。

經過 年一回の發生、成蟲にて越年、幼蟲は四月下旬より現はれ、六月中旬より老熟して粗繭を造り、其内に蛹化す、蛹は暗褐色、其前半は濃色、白粉を裝ひ、尾端に數個の鈎刺あり、體長一寸一分、七月上旬より羽化す、其數餘り多からず、大害なし。

分布 北海道・本州・支那。

(四)しろしたば Catocala nivea Butl. (第二十二圖版(2))

被害植物 櫻。

特徴 成蟲 前翅灰白色、半横線、前横線及び後横線は黒色、何れも前緣及び後緣に近く黄白色の側緣を有す、後横線は第五脈上に於て第五脈及び第六脈の中間を縱走せる黒線と相連續す、腎狀紋及び外緣に沿へる約七個の小紋は青白色、後翅は白色、黄色を帶び、二條の黒帶を裝ふ、其内方のものは短く、前緣及び内緣に達せず、頭は白色、頸毛は暗褐色、胸背及び體下は灰白色、體長一寸一分、開張三寸内外。

幼蟲 體色に二形ありて、第一形は青色を帶べる白色にして、頭の兩側に各三黒紋あり、單眼の後方に黒點及び黒條を具へ、背線は淡黄褐色、側面に黒色の點線を有するもの多し、亞背線上には淡黄褐色の小顆粒一二個を裝ひ、第十一節の後方にあるものは殊に大なり、之より一本の黒毛を生ず、第四及び第五節の後方に淡き暗色帶を具へ、第八節の背上にも一突起あり、氣門は黒圈を有す、各節の側面に黒點を斜線上に並列し、特に第十一節に於て顯著なり、基線列より肉樣毛を粗生す、腹面は蒼白、第六節には黒斑あり、體長二寸四分乃至二寸六分、第二形は蒼白、黒點を撒布す、背線は黒褐色の點線より成り、亞背線列には暗紫

褐色の點紋よりなる一條あり、各氣門線上に當り氣門の前方より上後方に斜走する暗紫褐色の短線を具へ、氣門は暗紫褐色、黒圈を裝ひ、氣門下に黒點を散在す。

經過 年一回の發生、札幌地方にては成蟲にて越年す、岐阜地方にては三月頃より幼蟲現はれ、五月中旬に至りて老熟し、粗繭を造りて蛹化す、蛹は赤褐色、白粉を裝ふ、第五及び第六腹面節に一双の突起を具へ、第七節には一双の小突起を具へ、尾端上に數本の鈎刺あり、體長一寸一分、六月下旬乃至七月上旬に羽化す、其數少なく、大害なし。

分布 北海道・本州・支那・印度。

尙此屬に係るものにて重要植物に有害なるものは左の四種なり。

(五)わもんきしたば Catocala (Ephesia) fulminea Scop. (續千蟲第二 第十七圖版(6))

被害植物 李・梅・梨・柳・山櫨子(さんざし)。

特徴 成蟲 體翅暗灰色、半横線、前横線及び著しく犬牙狀をなせる後横線は黒色、波狀線は灰白色、後翅は橙黄色、黒色の二半環紋あり、開張一寸九分。

幼蟲 暗褐若くは灰色、後者の場合には褐色の疣起を具へ、之より一本の短毛

を生ず、第八節に褐色の尖角を具へ、第四乃至第十一節にある角狀突起は長し、體長一寸八分内外。

經過 年一回の發生、卵子にて越年、幼蟲は五月頃より六月頃に至りて現はれ、葉を食害し、七月下旬乃至八月に亘りて羽化す、大害なし。

(六)むらさきしたば Catocala fraxini L. (續千蟲第二、第十七圖版(11))

被害植物 楡・白楊・とねりこ等。

特徴 成蟲 前翅灰黑色、微小の黑點を密布す、紋條は黑色、後翅は黑褐色、中央の横帶は紫藍色、開張三寸六分。

幼蟲 灰色、黑點を密布す、背線は淡色、第八節に一突起を具へ、之に黑點を密布す、第十一節にも黑褐色の横突起あり、頭は黑色、後緣に黃色の二弓狀線あり、體長七八分。

(七)えぞべにしたば Catocala nupta L. var. obscuraka Obth. (續千蟲第二、第十九圖版12)

被害植物 白楊・柳等。

特徴 成蟲 前翅灰色、褐色の斑紋あり、半横線、前横線、後横線及び波狀線は黑色、内側は灰色、後翅は紅色、黑色の二帶ありて、内方のものは細く内緣に達せず、開

張二寸六分内外。

幼蟲 灰色、暗褐若くは赤褐色等種々あり、亞背線及び氣門線は褐色、第八節に黃色の隆起ありて、其中央は黑色、體長二寸三四分。

經過 年一回の發生、卵子にて越年、幼蟲は五月頃より現はれ、七月に入りて老熟し蛹化す、蛹は褐色、青白粉を裝ふ。

(八)べにしたば Catocala electa Bkh. (續千蟲第二、第二十圖版(1))

被害植物 苹樹・白楊・柳。

特徴 成蟲 前翅灰白、半横線及び中横線何れも角張りて中脈の處に終り、後横線は著しく後方に突出し、M字形をなす、後翅は紅色、二條の黑帶あり、開張二寸三分内外。

幼蟲 灰黃若くは黃褐色、黑點を密布す、背線の部分にある疣起は黃色、第八節の突起は黃色、第十一節の突起は黃褐色、其末端は二分す、體長二寸五分。

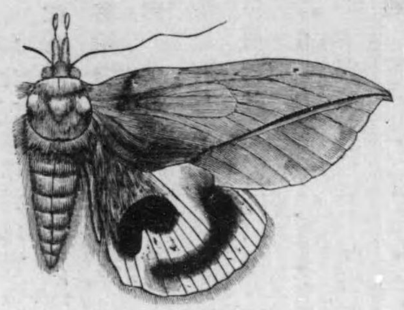
經過 年一回の發生、卵子にて越年、幼蟲は五月より六月に亘りて加害し、老熟すれば葉間に蛹化す、蛹は褐色、青白粉を裝ふ、大害なし。

(九)あけびこのは Adris (Ophideres) tyrannus Gn. (第二百二十圖)

被害植物　成蟲は桃・梨・柑橘類(果汁を吸收す)、幼蟲は木通(あけび)を食す。

特徴　成蟲　前翅は光澤ある灰褐色にして綠色を帶ぶ、前緣に微小の白紋を散在し、中央に綠色の一斑を具へ、其下方に一白紋を裝ふ、前緣角は尖り、之より後緣の中央に綠褐色の一條を斜走し、其外側は綠色を帶ぶ、後翅は美麗の黃色、巴狀の大黑紋を具へ、前中腿節に銀紋あり、腹部は黃色(幼蟲は『あけび』を食害するものにて果樹に害なし)、體長一寸乃至一寸二分、開張三寸乃至三寸五分。

第二百二十圖　あけびこのは



幼蟲　體は黃褐色、頭は天鵞絨樣の光澤を帶ぶ、背線、亞背線及び氣門上線は黑褐色、各線の中間に更に褐色の判然せざる一縱條を具へ、中央部に於ては特に判然せず、各節の背上に一双の白點列を橫走し、第五及び第六節に黃色の眼狀紋を見る、其中央は黑色、瞶子(ひとみ)は黃白色、第四節の兩側に一黃紋あり、氣門部に綾樣の黃色紋あり、殊に第九節に於て大なり、第十一節は三稜形をなして甚だしく突起す、腹面に暗色

の一縱條を具へ、第六節の腹脚は退化し、唯だ痕跡を止むるに過ぎず、體長二寸四分。

經過　年一回の發生、卵子にて越年するものの如し、幼蟲は『あけび』其他木通科の植物葉を食し、老熟すれば地上の落葉下若しくは雜草間に入りて蛹化す、蛹は黑褐色、縮刻多く、腹節の前方には點刻を列ぬ、腹接合部は淡色、尾端に縱皺を具へ、末端に數個黃褐色の鈎刺あり、大なるものは左右に各一個の小鈎を存す、體長一寸五分、成蟲は七月乃至九月に亘りて現はる、長き口吻を果實內に挿入して其液汁を吸收す、之が爲め果實は腐敗を起し大害を被るに至る、

布分　北海道・本州・四國・九州・支那・印度。

(10) ひめあけびこのは　Ophiderès fullonica L.　(續千蟲第三、第二十圖版15)

被害植物　同前。

特徴　成蟲　前翅赤褐色、少しく綠色を帶ぶ、前種に酷似すれども前緣の中央、少しく外方の所より內緣の方面に斜走せる橫線は判然し、外緣角より來る線と相合す、後翅の黑紋は大にして外緣は全部黑色、體赤褐色、腹部黃色、體長一寸、開張二寸七分乃至三寸三分。

幼蟲　形前種に酷似すれども、第十一節に瘤狀突起あり、體は暗紫褐色、背部は第六節より第十一節に至る迄褐色、脚は赤色、氣門線は紅色、後方に至るに從ひ增大し且つ綾樣の白紋を裝ふ、第九節には白色の斜帶を具へ、第四節には黃色の亞背線を認め得べし、第五及び第六節に眼狀紋を有すること前種の如し、第十一節に二個の黃色紋あり、體長二寸二三分。

經過　未だ判然せざれども前種と同樣なるべし。

分布　本州・臺灣・支那・印度・亞佛利加・濠洲。

(二)**きまえこのは**　Monas (Opiideres) salaminea F.（第二十二圖版(3)）

被害植物　柑橘・桃・其他果實(成蟲)。

特徵　成蟲　前翅綠色又は黃綠色、翅底より翅端迄前緣に沿ひ黃白色の廣條を縱走す、但し翅底の附近は稍〻淡黃色を帶ぶ、前緣綠色、外緣及び緣毛は白色、第二脈は赤色、後翅は橙黃色、內緣に近き腎臟形の一紋及び外緣の廣帶は黑色、但し後者は內緣角に達せず、緣毛は黃色、上方にて黑色の斑點を交ゆ、胸背は黃綠色、腹部は橙黃色、體長八分乃至一寸二分、開張二寸五分乃至三寸四分。

幼蟲　暗灰色にして紫色を帶び、小白點を散在す、第四、第五及び第六節に亞背線の部分に當り小形なる白斑あり、第五及び第六節に赤色の眼狀紋ありて中央は黑色、瞳子は白色、第十一節に圓錐形をなせる赤色の一突起あり、中央の側線は淡色、尾突起より尾脚に向て紫色線を斜走す、蛹化する前には綠褐色を帶ぶるに至る、體長二寸二三分。

經過　未だ判然せざれども前種と同樣なるが如し、成蟲は柑橘類其他果實の成熟期に當り口吻を挿入して液汁を吸收し、大害を加ふること前種に異ならず。

分布　臺灣・支那・印度。

(三)**むくげこのは**　Dermaleipa (Lagoptera) juno Dalm.（續千蟲第三、第十七圖版(6)）

被害植物　梨・桃・苹樹(成蟲は口吻を以て前種同樣に吸食す)。

特徵　成蟲　前翅黃褐色、半橫線前橫線及び波狀線は赤褐色、環狀紋は赤褐色の一點となり、腎狀紋は大、其下方に一個の黑褐紋あり、波狀線及び外橫線の中間は少しく濃色、後翅の外半は紅色、翅底は黑色、其中央に更に帶藍色の白紋あり、體下及び尾端は紅色、後翅の內緣に尨毛樣の灰色毛を密生す、體長一寸一分、張開三寸、

分布　北海道・本州・九州・支那・朝鮮・滿洲・印度・爪哇。

(三)**きしたあしぶと** Ophiusa coronata F. (續千蟲第三、第十七圖版(8))

被害植物 たまな樹(成蟲は果實を害す)

特徴 成蟲 前種に酷似すれども後翅黃色、翅底に近き一大紋及び外緣に接せる棍棒狀の大紋は黑色、體下及び腹部は黃色、體長一寸二分、開張二寸八分。

幼蟲 體暗褐色、頭は黃褐色、兩側に各二個の黃白色縱條を裝ひ、全體多數の波狀黑線を縱走す、第八及び第九節の背上に眼狀の黑褐紋あり、第六節にある腹脚は退化して小、第六節及び次節の腹面に各一個の黑紋あり、體長二寸三分。

經過 未だ充分其經過を知る能はざるも沖繩及び小笠原島には絕えず其幼蟲を認め得べし、樹は裸となりて大害を受く、成蟲は口吻を以て果實の液汁を吸收す、小笠原島にありては『ひよどり』の嗜んで之を嘴食するを見たり。

分布 九州・沖繩・小笠原島・支那・印度。

(四)**あしぶとが** Ophiusa stuposa F. (第二十二圖版(4))

被害植物 木苺・合歡(ネムノキ)・柘榴(ザクロ)。

特徴 前翅黑褐色、中央の廣帶は灰白色、少しく紫色を帶ぶ、後緣に至るに從ひ細まる、其外側に稍〻三角の黑褐色大紋ありて、第六脈の處にて突出す、外緣は暗灰

色、翅端に二個の黑褐紋あり、後翅は暗色、後緣は灰白色、橫帶は白色、內緣角の附近及び緣毛は暗灰色、前緣角に近き緣毛は白色、體暗灰色、體長七分、開張一寸六分乃至一寸七分。

幼蟲 體は淡き灰褐色、亞背線及び氣門上線は暗色、腹面及び脚は淡灰色、氣門は黑色、頭は灰黃色、腹脚は第八及び第九節に二双あり、體長一寸五分。

經過 年二回の發生、蛹にて越年、稀に幼蟲にて越年することあり、第一回の成蟲は四五月頃、第二回は七八月、幼蟲老熟すれば葉を捲きて其內に蛹化す、蛹は赤褐色、卵子は灰褐色、大害なし。

分布 北海道・本州・沖繩・朝鮮・亞弗利加・歐洲。

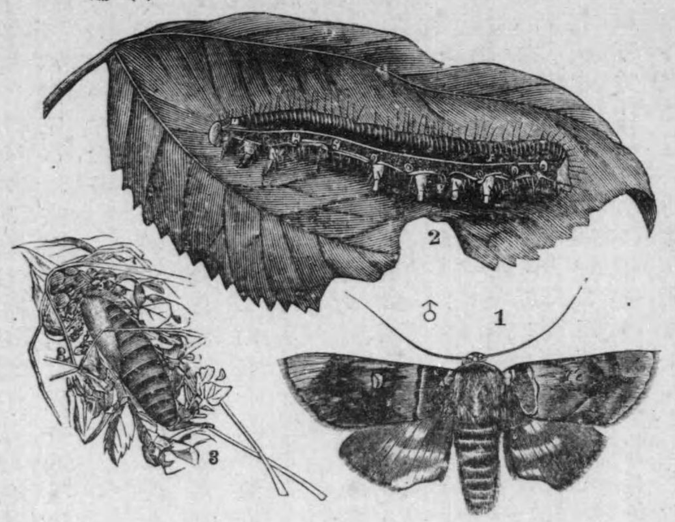
(五)**ふくらすずめ**(からむしが) Cocytotes (Arcte) coerulea Guen. (第二百二十一圖)

被害植物 苧麻・楮・黃麻・ラミー・蕁麻。

特徴 成蟲 前翅黑褐、半橫線、前橫線及び波狀線黑色、環狀紋小にして黑色、腎狀紋は大にして、更に其中に三個の黑紋を具へ、其內側に黑線あり、半橫線の外側及び下方は黑色、之に藍色の鱗毛を裝ひ、後緣に接する翅の大半は紫黑色、波狀線の外側にある弓狀の紫黑線と相連續す、後翅は黑色、三條の藍色帶を具へ、外

第二百二十一圖　ふくらすすめ

(1) 成蟲　(2) 幼蟲　(3) 蛹



緣にあるものは短く、內緣に長緣毛を簇生す、胸背は甚だ大にして淡褐色、腹背は灰黑色、尾端の背上に黑色の硬皮板ありて、之に平行せる橫皺多し、口吻は黃褐色、體長九分乃至一寸二分、開張二寸三分乃至二寸九分。

幼蟲　體に黃色のものと黑色のものと二樣あり、黃色なるものは黑色の氣門線及び氣門上線を具へ、第四節以下の氣門周圍は紅色、其上下に各一個の黑點ありて、之より各一本の白毛を生ず、各節の背上に五個乃至六個の黑橫條ありて、之より各四本の長白毛を出

す、第一節及び尾端の硬皮板は黃色、第一節のものは少しく濃色、黑紋を混ず、頭黑褐色、腹脚は黃褐色、脚に沿ふて各一個の太き黑線あり、又黑色なるものは背上に黃色の橫線多く、氣門上下線及び腹面は黃色、頭、第一節及び尾端の硬皮板並に脚は黃褐色、體長二寸乃至二寸五分。

經過　年一回の發生をなす、成蟲にて越年し、翌春葉下に產卵す、七月中旬乃至下旬に孵化す、八月中旬老熟して地上に落ち、落葉を纏め其中に極めて薄き繭を營み蛹化す、蛹は黑褐色にして少しく平たし。

分布　北海道・本州・四國・九州・朝鮮・臺灣・支那・印度。

(六) ともえが　Speirodonia (Spirama) japonica Gruen. (第二十二圖版(5))

目　合歡(ねむのき)。

被害植物

特徵　成蟲　體翅暗褐、前翅中央に巴樣の黑紋を具へ、其緣は銀白色、此紋の內方に一條、外方に二條の黑帶を裝ひ、外緣に近く相並行せる二双の波狀線あり、後翅の斑紋は前翅のものと略同樣なれども、太くして且判然せり、裏面及び體下は美麗なる赤黃色、後翅に五條の黑帶を裝ひ、其內、外緣に近きものは波狀をなし、其內側にある二條は太くして互に相近接す、各腹節の末端は尾節を除き黑

色、體長八分乃至一寸、開張二寸乃至二寸五分。

幼蟲　體は淡黃褐色、背線暗色にして點線より成り、其兩側に褐色の點線を並行せしむ、亞背線は帶青暗色、黑色の點線二條を含み、且各節に三個白色の小顆粒を具へ、之より黑毛を生ず、但し第一節には一黑點を有す、此等の線條は第三乃至第五節の背面にて一層暗色を帶ぶ、側條は淡き暗褐色の點線三條よりなり、胸節にて著し、此他側條と亞背線及び氣門線との間に淡き黃褐色の點線列あり、氣門下線も亦淡青灰色、暗褐色の點線略三條を含む、腹面に淡色の點線數列あり、胸部下面の中央に暗色條を具へ、第六乃至第十節には著しき黑斑を有す、他節にては暗色條をなす、氣門は淡黃白色、黑圈を有す、胸脚は黃褐色、第一腹脚は退化し、暗色點を撒布す(長野菊次郎氏に依る)。

經過　年二回發生するものならん、蛹にて越年、蛹は土塊若くは落葉間にありて粗繭内にあり、赤褐色、尾端に數本の鈎刺を裝ふ、體長八九分、第一回の蛾は五六月、第二回の蛾は九月にては七月、本州にては八月、大害なし。

分布　本州・四國・九州・朝鮮・支那・印度・爪哇。

附言　描者續千蟲圖解第一卷百二十三頁にある學名 reborta Clerck は japonica Guen. 種にして變種にあらざるを以て爰に訂正す。

(ヒ)あかいろともるゑ　Speirodonia (Spirama) martha Butl. (第二十二圖版(6))

被害植物　合歡(ねむのき)。

特徴　成蟲　體翅褐色、前翅中央に巴樣の大紋あれども餘り判然せず、其内外に各二條の黑褐帶を裝ひ、其外方に斷續せる黑線あれども亦判然せざるものあり、外緣に沿ひ少しく綠色を帶びたる廣帶を具へ、其内側に暗色の一横線を裝ふ、後翅の紋條は前翅のものと相連續す、裏面は美麗なる赤黃色、暗色の三横線を具へ、頭及び頸毛は暗赤褐色、腹面は赤黃色、脚は暗色、體長九分、開張二寸二分、

幼蟲　頭灰白色、暗褐紋を具へ、體は灰白色、淡き褐色及び暗褐色等を現はす、背部には一面に暗色の點線を縱走せり、各腹節の背上に暗色紋を具へ、特に第四五、八及び九節にて顯著なり、亞背線上に暗色紋を列ね、殊に第十一節にて著し、氣門は灰色、黑圈を存す、腹面は蒼白色にして紫色を帶ぶ、中條は暗色、第六乃至第十節の下面には著しき黑圓紋を具へ、胸脚は黃褐若くは赤褐色、腹脚には黑色の小點を散在す、全體小顆粒を撒布し、短毛を裝ふ、體長二寸五六分。

經過　年二回の發生、蛹にて越年、蛹は黑褐色、尾端に長短ある數個の鈎刺を具へ、

長さ一寸内外、落葉の間に粗繭を造りて蛹化す、五月中旬より下旬に渉りて羽化す、第二回の蛾は七八月現はる、大害なし。

分布　本州・九州・支那。

(八)**かきば**　Eumonodia (Spiraena) vespertilio F.（第二十三圖版(1)）

被害植物　合歡（ねむのき）。

特徴　成蟲　翅灰褐色、中央に黑褐色の二條を横走し、其外方のものは幅廣く、後緣に至りて稍〻鮮明を缺く、外緣には灰綠色の廣帶を裝ひ、其内に黑色の波狀線を有す、前翅底に近き一線は黑褐色、中室には四五個の黑紋を散在し、前緣角には綠褐色の一斜線あり、後翅の内緣は黃色、裏面は鮮黃色、三條の黑色帶を横走し、翅底には黑紋を裝ふ、頭及び頸毛は黑褐色、胸背は灰白色、尾端は黃色、兩側に各一個の褐色紋を具へ、腹面は稍〻赤色を帶び、脚は暗色、體長一寸内外、開張二寸一分乃至二寸六分。

幼蟲　頭は暗褐色、前方は淡黃褐色、體は褐色、淡黃若くは灰褐色の斑紋を散在す、第一第乃至第三節には黑色の小點を點線狀に縱列す、暗色の背線あれども判然せず、三條の點線より成れる亞背線ありて、第七、第八及び第九節にて顯著

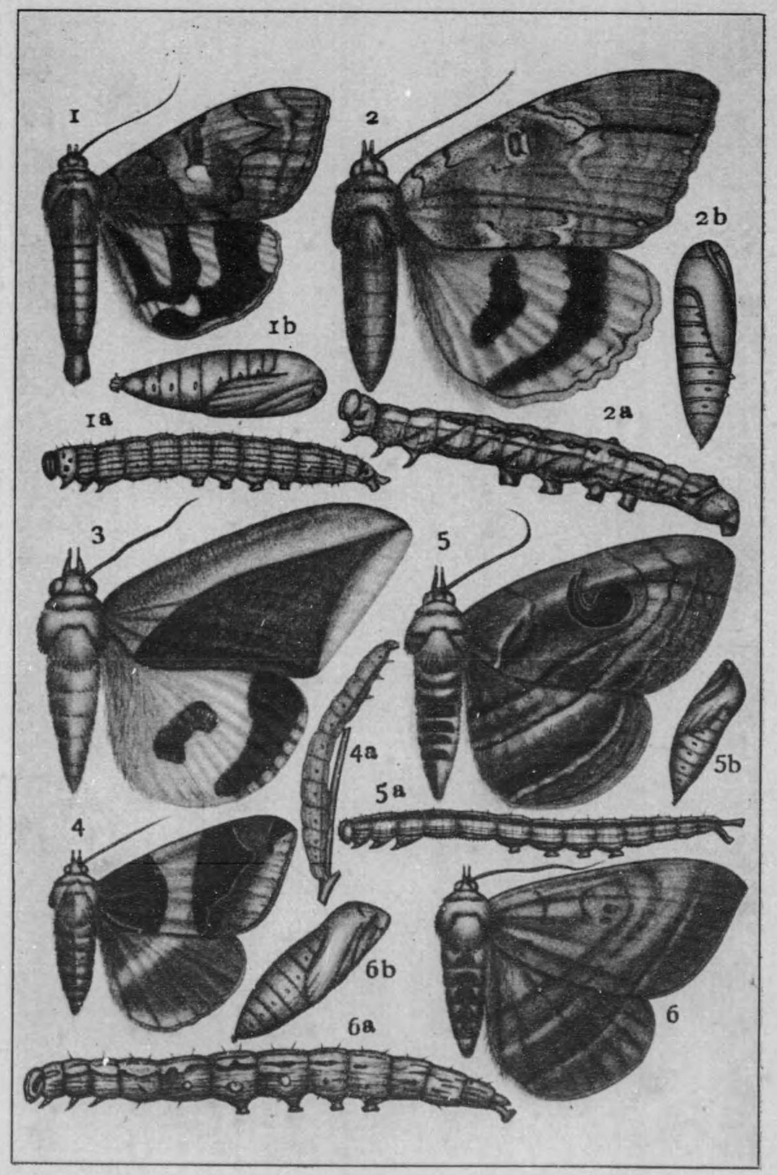
一分乃至二寸六分。

幼蟲　頭は暗褐色、前方は淡黄褐色、體は褐色、淡黄若くは灰褐色の斑紋を散在す、第一第乃至第三節には黒色の小點を點線狀に縱列す、暗色の背線あれども判然せず、三條の點線より成れる亞背線ありて、第七、第八及び第九節にて顯著

第貳拾貳圖

1. Catocala patala Feld,=(volcanica Butl). きしたば P.616
   1a. 幼蟲　*2b.* 蛹
2. Catocala nivea Butl. しろしたば P.617
   2a. 幼蟲　*2b.* 蛹
3. Monas (Ophideres) salaminia F. きまへこのは P.654
4. Ophiusa stuposa F. あしぶとが P.656
   4a. 幼蟲
5. Speiredonia (Spirama) japonica Guen. ともえが P.659
   5a. 幼蟲　*5b.* 蛹
6. Speiredonia martha Butl. あかいろともえ P.661
   6a. 幼蟲　*6b.* 蛹

第貳拾貳圖



なり、氣門線も亦三條の暗色點線より成る、氣門は淡黄褐色、廣狹の二黒圈を有す、各節に灰黄色若くは白色の疣狀突起數双ありて、之より灰黄色の短毛を生ず、脚は灰黄色、顆粒ありて之より一本の短毛を生ず、第一及び第二腹脚は退化す、腹面は灰白色にして紅色を帶ぶ、初めの三節及び第六節乃至第十節の各節に一個の黒紋を裝ふ、體長一寸四五分。

經過 年二回の發生、蛹にて越年、蛹は黒褐色、少しく白粉を裝ふ、尾端に長短ある數本の鈎刺を有す、長さ九分五厘内外、翌年四五月頃に至りて羽化す、第二回の蛾は七八月より現はる、幼蟲は其色の合歡の枝色に酷似せるを以て其靜止せるものを發見すること難し、晝間は靜止し夜に至りて活動す、老熟すれば數葉を纏めて粗繭を營み、其内に蛹化す、蛾は卵子を數個づゝ相並べて點々産下す、

鱗翅目

分布 本州・九州・支那・印度。

(九) **しらふくちば** Syppa picta Butl. (第二十三圖版(2))

被害植物 櫟・柏・椎・あべまき。

特徴 成蟲 體翅黒褐、半横線淡褐、前横線及び中横線は白色、其中間の白色を呈せるもの、或は中央に白色の環狀紋を有するもの、或は全く白紋を交へず兩線

も亦黑色を呈するもの等ありて、其彩色一定せず、腎狀紋は黑色の周緣を有し、內方の底部は黃色、波狀線は黑色、其外方は淡色、後翅に判然せざる二條の黑帶を裝ふ、緣毛は暗黑、其上方は灰褐色、體長六分五厘乃至八分、開張一寸四分乃至一寸七分。

幼蟲　頭褐色若くは黃褐色、額片は淡色、顱頂板に各一條の白線あり、體には褐色、赤褐若くは淡紫褐色等の諸色ありて、暗色の小點を撒布す、背線は白色にして二條あり、亞背線及び氣門上線も亦少しく白色を帶ぶ、其上下に暗色線若くは點線にて緣取らる、脚線は暗褐色、胸脚間に暗色紋あり、第六及び第七節の脚間にも黑紋あり、腹線は綠褐若くは黃褐色、各節の背部に略〻方形の暗色紋あり白色の疣狀突起ありて、之より短毛を生ず、胸脚は黃褐色、體長二寸內外。

經過　年一回の發生、未だ判然せざれども卵子にて越年するものゝ如し、幼蟲は四月の上旬より現はれ、穀斗植物の葉を食ひ、五月上旬より中旬に亘り數葉を纏めて其內に蛹化す、蛹は赤褐色、尾端に縱皺ありて、數本の鈎刺を裝ふ、體長七分二三厘、六月上旬より羽化す、大害をなさず。

分布　北海道・本州・九洲・朝鮮・印度。

(10) はじまくちば　Polydesma vulgaris Butl.　(第二十三圖版(3))

被害植物　箭。

特徵　成蟲　前翅灰褐色、翅底に白紋を具へ、其前緣に沿ひ略〻三角形の暗褐色紋あり、半橫線及び前橫線は共に犬牙狀を呈し、其兩端は暗綠色にて緣取らる、中橫線も亦犬牙狀にして地色より少しく濃色なり、後橫線は略〻前橫線に同じ、其前方の前緣に稍〻三角形の暗褐色紋ありて、其內方に白色の曲線を具へ、外緣に斷續せる暗褐色線あり、後翅は暗褐色、多少光澤を帶び、基部より外緣に至るに從ひ濃色となる、體は赤褐色、脚は灰黃色、體長三分乃至七分五厘、開張一寸二分乃至一寸五分。

幼蟲　紫灰色、白色の細き背線と廣き側條とを具へ、氣門線は暗褐色、各節十個乃至十二個の黑疣起を具へ、之より短き黑毛を生ず、頭は褐色、光澤を帶び、硬皮板は褐色、左右に黑斑を有す、第十一節の後緣に沿ひ黑點列を具へ、第十二節に黑紋ありて、一見頭部の如き歡を呈す、胸脚に暗褐色の環を具へ、腹脚に暗褐色の斑點を裝ふ、體長一寸五分內外。

經過　年一回の發生、成蟲は七八月の頃現はる、卵は球形、集合して產卵せらるも

のゝ如し、卵子にて越年、幼蟲は普通筍の末端より蠹入するものにして、常に褐色の蟲糞を出せるを以て其散在を認め得べし、老熟すれば地中に入り土砂を綴りて粗繭を造り、其内に蛹化す、蛹は赤褐若くは暗褐色、體長六分五厘、大害を加ふることあり、竹の内最も害を被るものは淡竹なり。

分布　本州。

(三)**なかじろしたば** Anophia leucomelas L. =(Catephinia acronyctoides Guen.)(第二十三圖版(4))

被害植物　甘藷。

特徴　成蟲　體翅暗色、前翅の半横線、前横線及び後横線は黑色、波狀線は灰白、判然せず、後横線の外側に暗色の一線ありて相平行す、環狀紋、栓狀紋及び腎狀紋は判然せず、腎狀紋の中部は灰白色、其下方に白色の一大紋あり、前緣に白紋を列ね、外半に五紋あり、後翅は白色、外半は黑色、翅端に近き一紋及び内緣角に近き一紋は白色、腹節は灰色、尾端は暗色、跗節に黃白環を有す、體長四分五厘、開張一寸一分内外。

幼蟲　體は灰黃色、背線及び亞背線は灰白色、全面に無數の小點を散在す、此の小紋の密布せるが爲め黑線を縱走せるの觀あり、氣門線は淡褐色にして太し、

第四、第五及び第六節には背線に接して一双の不正形をなせる黑紋あり、尙氣門線の上方并は氣門上線に接して不定の黑點あり、頭は灰白色、小黑點を撒布す、脚は灰白色、黑點を裝ふ、體長一寸七厘乃至二寸。

經過　年三回の發生、第一回は五月上、中旬、第二回は七月中、下旬、第三回は九月下旬、土窩内に幼蟲若くは蛹にして越年す、卵子は楕圓形、淡黃色、孵化前は褐色を帶ぶ、五百乃至七百の卵を產下す、幼蟲は初め尺蠖狀に運行すること他の夜蛾類に異ならず、葉の裏面を網狀に食害す、老熟すれば地中に入りて蛹化す、蛹は黑褐色、夜盜蟲の蛹に似たり、地下二三寸の處にあり、長さ六分、此害蟲は九州、特に鹿兒島にて加害、大なりと云ふ、又沖繩及び臺灣にも稀ならず、余は臺灣捕里社にて四月の下旬、沖繩にては六月上旬捕獲せる所より見れば、經過は地方によりて異なるや明なり。

分布　九州・沖繩・臺灣・支那・印度。

(三)**うすえぐりば** Calpe capucina F.(第二十三圖版(5))

被害植物　桃・梨・柑橘等(果汁を吸收す)、幼蟲―からまつさう。

特徴　成蟲　前翅は灰黃色、紫色を帶ぶ、翅底より後緣の中央に向ひ黃褐色の緣